

国際医療福祉大学審査学位論文(博士)  
大学院医療福祉学研究科博士課程

論文題目

犯罪者の共感性と対人認知傾向の研究  
～社会的視点取得の観点からの一考察～

平成 29 年度

保健医療学専攻 医療福祉心理学分野

氏名： 平間さゆり

# 犯罪者の共感性と対人認知傾向の研究

## ～社会的視点取得の観点からの一考察～

### 要旨

犯罪という攻撃行動を低減するには共感性や視点取得の特性が重要とされている。攻撃行動の低減のため、本研究において、犯罪者と一般成人の共感性及び社会的視点取得の傾向を調べ、さらに、対人認知の傾向について検討することとした。犯罪者と一般成人の比較において、共感性の構成要素の個人的苦痛と社会的視点取得、さらに対人認知においても差異がみられた。

犯罪者には、状況がある程度正しく理解できる適応的な側面と、他者や状況を極端に否定的な認知をして猜疑的で不適応な対人認知の側面がある。これらの両面が、共感性の構成要素である個人的苦痛のみを高め、社会的視点取得能力の低下に影響を及ぼす可能性がある」と推測された。

Keywords : 犯罪者, 共感性, 社会的視点取得, 対人認知, , 鳥獣戯画テスト

## Offenders ' empathy and person perception

-From the viewpoint of social perspective taking-

### Abstract

Characteristics of empathy and perspective taking are considered important for decreasing aggressive behaviors, such as crime. Tendencies for empathy, social perspective taking, and person perception were investigated and compared between offenders and ordinary person, for reducing crime. The results indicated significant differences between offenders and ordinary person in personal distress, which is a component of empathy; in social perspective taking, and in person perception. Offenders indicated characteristic tendencies of person perception, although it also had an adaptive aspect that made their condition somewhat understandable . Offenders tended to recognize things negatively and in extreme terms, and tended to become suspicious and subjective. It is suggested that these tendencies in person perception, might increase personal distress and decrease social perspective taking ability.

**Keywords:** Offenders, Empathy, Social perspective taking, Person perception,

**Chouju-Giga Test**

犯罪者の共感性と対人認知の研究 ～社会的視点取得の観点からの一考察～

目次

I. 序論

1. 近年の犯罪者への取り組み

- 1). 刑事施設内での矯正指導 . . . . . 7
- 2). 社会内処遇における再犯者率低下への期待 . . . . . 8

2. 研究背景

- 1). 攻撃性を低減する要因とは . . . . . 9
- 2). 共感性の研究
  - ①共感性について . . . . . 10
  - ②視点取得の研究 . . . . . 12
  - ③社会的視点取得について
    - a, 社会的視点取得とは . . . . . 13
    - b, 社会的視点取得検査（アルメニア課題）について . . . . . 14
- 3). 対人認知の研究 . . . . . 15

II. 本研究の目的 . . . . . 17

III. 第1研究

犯罪者と一般成人における共感性の構成要素, 及び社会的視点取得の差異 . . . 17

1. 目的 . . . . . 18

2. 方法

- 1). 調査対象 . . . . . 18
- 2). 本研究における犯罪者の定義 . . . . . 18
- 3). 対象者の平均年齢 . . . . . 19
- 4). 教示方法 . . . . . 19
- 5). 倫理的配慮 . . . . . 19

6).	質問紙調査に使用した尺度について	
①	共感性の尺度	20
②	社会的視点取得の尺度	20
③	分析方法	23
3.	結果	
1).	犯罪者と一般成人の年齢・各因子の平均値と標準偏差	23
2).	犯罪者と一般成人における共感性の構成要素および社会的視点取得の 有意差の検定	24
4.	考察	
1).	犯罪者と一般成人の共感性の構成要素間の比較について	25
2).	犯罪者と一般成人の社会的視点取得の比較について	29
IV.	第2研究：犯罪者と一般成人の対人認知について	
1.	目的	31
2.	方法	
1).	調査対象	31
2).	分析方法	
①	他者配慮の範囲（数）について	31
②	状況場面の認知傾向について	32
③	対人認知傾向の特徴	32
3.	結果	
1).	犯罪者と一般成人の他者配慮の範囲の有意差	33
2).	犯罪者と一般成人の対人関係における肯定・否定・困難表現の有意差	34
3).	犯罪者と一般成人における対人認知傾向の差異	35
4).	犯罪者と一般成人の話の特徴的表現	36

4. 考察	
1). 犯罪者と一般成人における他者配慮の比較	38
2). 犯罪者と一般成人における対人関係の肯定・否定・困難表現の比較	39
3). 犯罪者と一般成人の状況把握や対人認知傾向の特徴	41
4). 犯罪者と一般成人の話の特徴的表現	43
V. 総合考察	
1. 犯罪者の共感性及び社会的視点取得と対人認知傾向の関連について	
1). 共感性の構成要素と対人認知傾向	45
2). 社会的視点取得と対人認知傾向	47
VI. 本研究の限界	49
VII. 本研究の展望	50
VIII. 結語	52
IX. 引用文献	53
X. 謝辞	61
XI. 資料	62
資料 1 : 多次元共感性尺度	
資料 2 : 鳥獣戯画テスト	
資料 3 : 鳥獣戯画テストの採点基準表	
資料 4 : 犯罪者と一般成人の対人認知の特徴	
資料 5 : 犯罪者と一般成人の鳥獣戯画の話	

## I. 序論

### 1. 近年の犯罪者への取り組み

#### 1). 刑事施設内での矯正指導

犯罪とは、司法の注意を引く可能性のある反社会的行動と定義され<sup>1)</sup>、社会の中で発生する事象である。平成 21 年度から裁判員制度が始まり、これまでとは違い、犯罪は自分の日常とは離れたものではなくなっている。裁判員制度とは、国民が公判手続きに参加し、被告人が有罪であるかどうか、有罪である場合はどのような刑にするのかを裁判官と一緒に決めるという制度である。裁判員裁判の対象となるのは、殺人、子供に食事を与えずに放置して死亡させた場合の保護責任者遺棄致死等の、一定の重大な犯罪に限られ、控訴審や上告審、少年裁判等は対象にならない<sup>2)</sup>。裁判員制度の導入・矯正処遇の改善など、犯罪の減少などのために様々な工夫が試みられているが、日本においては、近年再犯者率は上昇している。

再犯者率の動向に着目すると、成人(男女)の再犯者率は、平成元年の 31.9%から増減を繰り返して平成 27 年には 48.0%となった。再非行少年においても同様に約 30 年間に 36.4%にまで増加している。また、平成 21 年～平成 25 年の成人の刑事施設への 5 年以内の累積再入率は、殺人・強盗・傷害(暴行を含む)・窃盗・強姦・強制わいせつ・放火・覚せい剤取締法違反の全てにおいて、最初の 1 年間の再犯率は数%程度であった。その後は年数を増すごとに累積再犯は増加し、最小再入率である殺人は 0.7%が 5 年間で 9.6%になり、覚せい剤取締法違反では 5 年間で 3.9%が 49.8%<sup>3)</sup>と大きく増加している。

再犯予防として刑事施設内では、矯正指導を実施している。以前の「監獄法」が平成 17 年より「刑事施設及び受刑者の処遇等に関する法律<sup>4)</sup>」に代わり、受刑者に必要な矯正処遇を義務付けることが明文化された。現在における矯正指導は、「(1) 刑執行開始時の指導：入所直後に、受刑等の意義や心構え、矯正処遇の前提事項、刑事施設内の生活の心得、起居動作の方法等についての指導」、「(2) 改善指導：犯罪の責任の自覚、健康な心身、社会生活への適応(知識・生活態度)を目指す指導。一般改善指導と社会復帰に支障がある場合に

は特別改善指導の実施」, 「(3) 教科指導: 社会生活の基礎となる学力を欠くことにより支障のある者, または学力の向上を図ることが更生や社会復帰に必要と認められる者に対する指導」, 「(4) 釈放前の指導: 釈放後の社会生活に直ちに必要となる知識の付与や指導」の4つに分類されている<sup>5)</sup>。一方, 精神障害などの影響により心神喪失, または心神耗弱の状態で大規模な他害行為を行った者については, 継続的で適切な医療や観察及び指導が行われている。精神症状の改善とそれに伴う行為の再発防止を図り, 社会復帰を促進するための「心神喪失者等医療観察法」は平成17年より施行されている<sup>6)</sup>。このようなことから, 近年では, 司法が犯罪に臨床的視点を取り入れていることが言えるであろう。再犯予防を含む, 罪を犯した者に改善と社会復帰の理念を持った矯正処遇では, 「悔悟の情が認められること」, 「更生の意欲が認められること」, 「再犯の恐れがないこと」を目的としている。犯罪・非行を人間行動の一部と捉える矯正心理学の視点において, 感情・衝動・欲求の統制, 対人認知や共感性に関わる対人関係のあり方について, 価値観, 発達などを主要な手掛かりとして個別に考慮し, 犯罪に至る要因となった広い意味のパーソナリティの変容と成長を図ることを目指して矯正処遇は行われている<sup>7)</sup>。

## 2). 社会内処遇における再犯者率低下への期待

刑事施設出所後に再犯せずに社会に適応するには, 住いや就労などの環境調整は, まずは最も重要ではあるが, 再犯しないということを維持するには, 問題が生じた時に物事をどう捉え, どんな行動をとればよいかを自身で判断することが必要である。生じた問題を暴力や自己の利益のみの方略などで解決するという, 結果として他者に危害を加えるような犯罪行動から離脱しなければ, 再犯を防ぐことは困難である。

刑事施設出所後の社会内処遇の再犯防止対策として, 保護観察制度があり, 犯罪者や非行少年を社会の中で生活させ, 国の責任において, その対象者に一定の約束ごと(遵守事項)を守ることを義務付けて, これを守るように指導監督し, 就職や定住の援助などの補導援助を行い更生を支援している。保護観察官を主任官とし, 保護司が担当者とされるが, 処遇



困難者においては直接保護観察官が担当する<sup>8)</sup>など、両者は重要な責務を担っている。そのような取り組みが行われている一方、保護観察対象者による重大事件が相次いで生じ、平成20年に「更生保護法」が施行された。これに先駆け性犯罪者処遇プログラムは、平成18年から（更生保護法施行前から）導入され、受講は遵守事項で義務付けられている。これに次いで、覚せい剤事犯者処遇プログラム、暴力防止プログラム、飲酒運転防止プログラムが開始されている。自己統制力の不足などの問題について認知行動療法を用いて実施し、すべてのプログラムは、保護観察所において保護観察官が行っている<sup>9)</sup>。法務省保護局による報告では、プログラムの受講が一定の効果を上げており、<sup>10)</sup>現在においては、刑事施設内、社会内処遇ともに、犯罪者の問題への臨床的な対応がなされる流れになっている。

刑事施設内、社会内のどちらの処遇に対しても、再犯者率の低下を鑑み、犯罪という行為に着目すると、犯罪は、個人など特定の人物や社会、または何らかの対象に攻撃や危害を及ぼす行動である。攻撃とは、「そのような扱いを避けたがっている他の生物に害を与え、傷付けるという目標に向けた何らかの形態の行動」と定義されている。<sup>11)</sup>よって、殺人や暴行はもとより、物を奪う窃盗や他者を騙して金品を搾取する詐欺など、犯罪は何らかの攻撃行動であると考えられる。攻撃行動を低減することは犯罪行動を低減させることにつながり、再犯者率低下にも影響を与えるであろう。攻撃的な行動を低減させる要因を明らかにし、その要因をどのように用いればよいかを心理学的に検討することは、刑事施設内の処遇や社会内処遇における、臨床心理士を含む刑事施設関係者の活動の一助につながると考えられ、社会の安全を守ることに貢献すると考えられる。

## 2. 研究背景

### 1). 攻撃性を低減する要因とは

攻撃性については数々の研究がある。生物学的に研究したものでは、セロトニンの減少が反応的攻撃性と関連するというものや<sup>12)</sup>、脳の海馬や後帯状回の機能低下は攻撃的及

び反社会的な行動に関与しているという報告がある<sup>13)</sup>。近年では、攻撃性や反社会的な行動が生物学的に説明されているが、「生物学的資質は攻撃性の潜在的可能性を作り出す、攻撃行動の具体的な形態や頻度、それを生じさせる状況や攻撃が向けられる対象は経験によって獲得される」と<sup>14)</sup>、社会的学習理論では攻撃行動も学習されると述べている。また、攻撃性の認知的研究では、他者への愛着が不安定であると未熟な防衛と攻撃性が高くなるなどが報告され<sup>15)</sup>、これらの知見から、攻撃性には生物学的な要因が基底にはあるが、環境の中で形成された認知傾向や学習経験が攻撃行動に大きく関係していると考えられる。

一方、攻撃性の抑制や低減に関する研究では、共感性が攻撃性や他者を傷付ける行為を抑制するとされている<sup>16)</sup>。犯罪者において、他者の気持ちが分からないという共感性の低さも犯罪行動の要因の1つと考えられ、再犯のリスクを低減するために共感性を向上させることが重要視されるようになり、被害者及びその遺族の感情を理解させる処遇などが、刑事施設内の矯正教育や処遇プログラムとして取り組まれている<sup>5)</sup>。

## 2). 共感性の研究

### ①共感性について

共感性は、「他人の経験について個人が抱く反応を扱う一組の構成概念」と定義され<sup>17)</sup>、共感性は、ただ単に相手の気持ちを感じるのではなく、他者に対して様々な感情や反応を起こすことだと考えられており、人間には、他者の感情を共有したり、理解したりするという共感性と言う特質が生得的に備わっているとされている<sup>18)</sup>。また、犯罪者の共感性研究において、共感性の高低が研究によって一定でないことから、共感性を多次元的に分類して検討することが試みられるようになった。共感性の下位分類は、同情の様に他者の苦痛を自分のことのように感じて、できればそれを軽減してあげたいと思う愛他的傾向の「共感的関心(共感的配慮)」、他者の苦痛に対して、その苦痛が自分に起こったかのように動揺や不安という感情反応が起こる「個人的苦痛」、小説や映画などの架空の人物の気持

や行動の中に自分自身が想像的に移行し感情移入する「ファンタジー（空想）」、自分が他者の立場であったらどう感じて考えるかを想像する「視点取得（気持ちの想像）」の4つで構成されている<sup>19)</sup>。共感性と性格特性の研究では、共感性の4つの構成要素とY-G性格検査の関連を検討し、「共感的配慮（共感的関心）」が高い者は他者に協調的であること、「個人的苦痛」の高い者は、過敏で主観的に物事を捉え、思考が内に向かって服従的な傾向があることが述べられ、「ファンタジー」と「視点取得」においては、有意な関連性はみられなかったとされている<sup>20)</sup>。

\*（以下における共感性の4つの下位分類の表記は、引用・参考論文を用いる場合は論文で用いられたままの表現で記し、本研究において表現する場合は、「共感的関心・個人的苦痛・ファンタジー・視点取得」と記すこととした。）

一方、一般少年と非行少年における共感性の研究では、共感性の「共感的関心（共感的配慮）」は非行少年の方が高いが、自分を架空の状況に感情移入する「ファンタジー（空想）」は一般少年よりも低いと述べられている<sup>21)</sup>。また、青年犯罪者と一般青年の共感性の研究では、青年犯罪者の方が共感的関心は高く、個人的苦痛、ファンタジー（空想）、視点取得には差異がみられなかった<sup>22)</sup>。さらに、少年院在院者と大学生の共感性の比較では、少年院在院者の方が共感的関心は高く視点取得は低いことが示され<sup>23)</sup>、共感性と非行・犯罪行動についての研究では、共感性が高いからこそ刺激に対して過剰共感を起こして凶悪犯罪に至る「エンパシッククライム (Empathic Crime)」という概念が提唱されている<sup>24)</sup>。これらから、非行少年・犯罪青年の共感性において共感的関心は高い傾向にあるが、空想や視点取得は一貫していない。また、30代以上の犯罪者と一般成人の共感性の比較研究は乏しく、成人犯罪者の共感性及び視点取得の研究は、再犯者率が高いことから必要性が高いと考えられる。

一方、最近では、共感性の下位分類の視点取得が攻撃性を低減するという研究が報告されるようになり、視点取得が注目されるようになっている。他者の視点や立場に立って物事を考える視点取得は、自分と他者を区別し、他者に配慮して客観的に物事を捉えること

が出来る能力である。この様な視点で物事を捉えることは、主観的で一方的な自身の欲求を抑え、他者に対する攻撃行動を抑制・低減させるであろう。よって、視点取得を主として共感性の高さが適度で構成要素のバランスが良いことは犯罪行動の減少において重要である。また、共感性が他者への意識の向け方に影響を与えているというよりも、他者への意識の向け方が共感性に影響を与えている<sup>23)</sup>とも報告されており、他者への意識とされる「対人認知」についても共感性との関連を調べる意義があると考えられる。

## ②視点取得の研究

共感性の認知的側面である「視点取得」は、「役割取得」と同義とされ、社会的視点取得・他視点取得とも呼ばれ、心理学や教育・道徳の分野で研究がなされている。心理学の分野では、視点取得の特性は、友人や兄弟との葛藤場面で問題解決をすることとは正の相関を示し、間接的攻撃（無視をするなど）や短気・言語的攻撃とは負の相関が示されたと報告されている<sup>25)</sup>。他視点取得の活性化の有無による比較では、他視点取得を活性化させる課題をしなかった被験者は攻撃を増す相手に対して、被験者自身も言語的攻撃が増したが、他視点取得を活性化する課題をした被験者は、攻撃を増す相手に対して言語的攻撃の頻度が変化しなかったと述べ、<sup>26)</sup>視点取得が攻撃性の抑制に影響を与えていることが示唆されていた。

一方、教育の分野では、他者に対して配慮のない言葉を平気で投げかける生徒などに、「互いの考えを尊重し合い、認め合える人間関係」という好ましい人間関係を学ばせるため、「思いやり教育プログラム：VIF (Voices of Love and Freedom)」を道徳授業で実施するという研究がある。VIFでの思いやりとは、自己犠牲を伴わずに、自分も他者も生かし、違う他者を認めながら様々な対人葛藤を解決する力を養うことを目的としている。他者の視点を理解すること、他人に自分のことを理解してもらうことにより、「役割取得（視点取得）」を高めることがVIFプログラムの理論的基盤とされている。この研究において、VIFプログラムによりソーシャルスキルと役割取得（視点取得）能力が高まる傾向あることが示されていた<sup>27)</sup>。

### ③ 社会的視点取得について

#### a. 社会的視点取得とは

「視点取得」と同義とされる「役割取得」は、自他の観点の違いを意識し、他者の観点に立つことにより、他者の欲求、意図、信念、感情、知覚などの内的特性を推論する能力、及びそれによって得た情報を対人交渉において利用する能力と定義されている<sup>28)</sup>。また、Selman は、役割取得能力の発達を、子供の視点が他者の視点と分化し、その視点間の調整がなされていく構造的変化の過程と考え、これを社会的視点取得能力の発達とした<sup>29)</sup>。その発達には、以下の機能が含まれている。

1, 人がお互いの見方をどのように関係させ、協調させていくかの発達を

扱っている。

2, 個人における固有な心理学的特徴や能力についての理解の仕方の

発達を扱っている。

3, 視点取得の発達が社会的—認知的スキルや能力を育てる鍵となっている。

役割（視点）取得能力と認知能力の 2 つの発達が結びついて、道徳性は発達するとされ、両者の能力が発達するに伴い、道徳性は次第に高次の発達段階へ移行していく。<sup>30)</sup> 視点取得とは、他者の立場に立って物事を考える事であるが、社会的視点取得は、個人の視点から複数の他者や社会という公的な場面における立場を問われている。よって常識や公共性を含んだものであり、社会的視点取得能力は道徳発達に先行しているとされている。

Selman が、社会的視点取得としたものは、相手に嬉しくない余計な行動をされても、相手の意図を汲んで配慮し、喜んで見せるという相手の心理を理解する働きである。知覚・概念的役割取得や心の理論ではあまり問題とならない視点の相互関係についての理解が社会的視点取得には一貫した課題となっている。

Selman は広範なインタビュー調査に基づき、この社会的視点取得について以下の発達水準を見出した。

レベル 0 : 未分化で自己中心的な視点取得 (3~6 歳頃) 「他者の単純な感情は

理解出来るが、他者と自分の視点が違うことが理解できず混同する」

レベル1：分化した主観的視点取得（5～9歳頃）「他者の思考や感情が自分と

違うと気づくが、主観的で他者の視点で考えることは出来ない」

レベル2：自己反省的・二人称ならびに相補的な視点取得（7～12歳頃）「他者の視点で

自分自身の感情や思考を内省するが、双方の視点として関係づけられない」

レベル3：三人称ならびに相互的な視点取得（10～15歳頃）「対象それぞれが

違うと理解し、第三者の視点から自己と他者の思考や感情を調節出来る」

レベル4：深層的ならびに社会的・象徴的な視点取得（12歳頃～成人）「自己の視点を

社会全体や集団全体を見る視点と関係づけることが出来る」

このように Selman は、「個人」、「友人関係」、「仲間集団」、「親子関係」という4つの領域にわたり、自分と他者の区別もつかない状態から、自己中心的で他者に配慮が出来ない状態（一人称）、二者間・三者間を経て集団関係などの社会性を有する視点取得までの発達段階を検討した。

上述のこの発達段階を基に以下の社会視点取得尺度が作成された。

#### b. 社会的視点取得検査（アルメニア課題）について

Selman は、役割取得の能力を測定するために「ハインツのジレンマ」を用いた低年齢版役割取得検査を作成した<sup>31)</sup>。法律と生命をめぐる価値葛藤の話をし、被験者自身の視点、登場人物の視点、それらの視点間における葛藤を、被験者がどう解決しようとするのかを分析し、被験者の人間観や人間の行動の社会的な意味についての考えに配慮して社会的視点取得能力の発達段階を用いて判定している。

Selman の低年齢版役割取得検査に準拠し、荒木は臨床的面接法を用いた児童版役割取得検査を開発した<sup>32)</sup>。さらに、中学生版として、国家や社会制度などの高次の役割取得を測定し得るものを開発し、役割取得検査と区別して社会的視点取得検査と呼ぶこととした。

中学生版社会視点取得検査：アルメニア課題<sup>33)</sup>（提示された話に5つの質問をし、その回

答を4段階で評価する尺度)とは、「奇跡の生還」と題した話を読ませ、その内容について、それぞれの立場に立って質問をし、その回答をSelmanの社会視点取得の発達段階に沿って4段階で評価して数値化するものである。

提示する話の内容は、アルメニアで生じた大地震により大けがをして弱った兄を心配した妹は、怪我をした者が大勢いる中を、「兄は35日ぶりに救助されたので助けて下さい」と嘘の日にちを医者に伝えたため「奇跡」だともてはやされた。兄は直ぐに治療してもらいニュースでこの「奇跡の生還」は報道された。という内容である。この話について、“a: 兄は妹の行為をどう思ったか。b: 兄に嘘と知られた時、妹はどう思うのか。”などそれぞれの立場に立って考えさせ回答させる課題である。その回答を、Selmanの社会的視点取得の発達段階を参考にして作成された採点基準に従い数値化する尺度である。現在、社会的視点取得における成人の研究は、成人用の尺度がないため研究されていない。今後社会復帰をする犯罪者においては、非常に重要なスキルであると考えられ、犯罪者における「社会的視点取得」の検討は意義があると考えられる。

### 3). 対人認知の研究

対人認知とは、他者に関する様々な情報を手掛かりにして、パーソナリティ、能力、情報、意図、態度など、他者の内面に潜む特性や心的過程を推論する働きのことだと定義されている<sup>34)</sup>。栗林らの対人認知と人格傾向の研究では、対人認知とシャイネスの関連について、シャイネスの高い者は初対面の異性を肯定的に認知するか、また、他者から見た自分の評価は否定的だと捉えるかを検討し、シャイネスの高い者は社交性、積極性、自信の強さを自他共に低いと認知して、自分は肯定的にみられていないと認知していたと述べている<sup>35)</sup>。

また、対人認知の観点から、ステレオタイプへの認知表象を変化させる試みを研究したものでは、被験者の持つステレオタイプに対して、少数だがインパクトのある反証事例条件と、インパクトは小さいが事例数が多い反証事例条件を提示して比較をした。その結果ステレオタイプが変化したのは、インパクトは小さいが事例が多い反証事例条件であった

と報告されている<sup>36)</sup>。

一方、他者に対する情報が対人認知時の気分に影響を与えるかについての研究では、他者を認知する者が対象とする人物について多くの知識を持つと、気分への影響は見られな  
いが（対象人物を正確に判断する必要性がある場面において）、その対象者に対する認知  
者の思い入れや社会的望ましさなどが絡み合い、気分の変化が生じるとされている<sup>37)</sup>。さ  
らに対人認知と気分との関連の研究では対人嫌悪について着目し、どのような者に嫌悪を  
感じるかについて調査した。これにより、「自分との相違」、「相手への妬み」、「相手への  
傲慢さ」、「相手の自己中心性」、「相手の主張過剰」、「自分との類似」、「相手の話し方」、  
「相手の外見」の8因子が示されたと述べられ<sup>38)</sup>、どのような対象を苦手とするのかにつ  
いて検討していた。

また、他者に対する印象形成がどのようになされるかについては、新入女子大生を対象  
にし、入学して出会った同性他者との印象の変化について8か月間に5時点にわたり追跡  
調査をした研究がある。その研究によると、「個人的親しみやすさ」、「社会的望ましさ」、  
「活動性」という対人認知の基本構造そのものは、極めて安定しているとされ<sup>39)</sup>、最初に  
抱いた印象は、かなり保持されていることが述べられていた。さらに印象形成について検  
討した研究では、入学後1週間、2週間、4週間、2か月半後に友人間で交わされる行動や関  
係の親密さ（好意や関与度など）について調べると、2か月半後の親密さのレベルは、入  
学後2週間という出会いの初期に決定することを明らかにしている<sup>40)</sup>。他者への印象は早期  
に判断されることから、表面的に見えやすい側面で印象が形成されることが推測される。

対人認知においては、他者をどう見ているのか、また、対人認知の傾向が行動とどのよう  
に関連するかなど、多岐にわたって研究されている。他者への印象形成が早期に判断され  
るならば、どのような対人認知をするかでその後の人間関係が変化するであろう。他者へ  
の印象は思いやりや同情などに影響すると考えられることから、対人認知の傾向は共感性  
にも影響を与えることが推測される。対人認知と共感性との関連についてはまだ研究は少  
なく、他者に対する意識の対人認知が社会的な活動の基盤となる「社会的視点取得」に与



える影響を調べることは意義があると考えられる。

## II. 本研究の目的

前述の先行研究にあるように、成人における共感性研究は少なく、社会的視点取得の研究においては見当たらない。犯罪者の社会復帰後の予後を考慮しても、共感性や社会的視点取得の能力があることは、社会内において円滑な生活を促すと考えられる。そのため、矯正教育や処遇プログラムにおいて、以前よりもさらに共感性に効果的な対応が出来ることを目指したい。それには、他者をどう意識しているかの対人認知も関連すると考えられ、本研究においては、以下をその目的とした。

目的：犯罪者と一般成人において、共感性の構成要素と社会的視点取得及び対人認知傾向の差異を明らかにし、犯罪者の対人認知傾向が共感性と社会的視点取得にどのように関連するかについて検討する。

## III. 第1研究

犯罪者と一般成人における、共感性の構成要素、及び社会的視点取得の差異

犯罪者と一般成人において、共感性の構成要素間である「共感的関心」、「個人的苦痛」、「ファンタジー」、「視点取得」のバランスに着目し、両者の違いを検討する。

また、他者の立場に立って物事を考える「視点取得」よりも対象を広げ、物事を社会性をもって全体的に捉えて考える「社会的視点取得」に、犯罪者と一般成人に差異がみられるかを検討することを研究1とした。

## 1. 目的

- 1) 犯罪者と一般成人の共感性における構成要素に差異があるのかを明らかにする。
- 2) 犯罪者と一般成人の社会的視点取得における差異の有無を明らかにする。

## 2. 方法

### 1). 調査対象

犯罪者 33 名（男 19 名, 女 14 名, 調査期間：平成 25 年 9 月～平成 27 年 9 月）, 一般成人 128 名（男 67 名, 女 61 名, 調査期間：平成 25 年 9 月～平成 27 年 2 月）を対象とした。犯罪者においては, 犯罪者への調査が困難であることから, 調査導入が可能な筆者が行っている精神鑑定時の心理検査を受けている者とした。さらに, 精神的な問題があると疑われるような処遇困難者への矯正教育・処遇プログラムの一助となることが考えられるため調査対象とした。一方, 一般成人は, 犯罪者の年齢層に合わせた者とするため, 関東圏の市民大学や文化サークルなどに所属する者を対象とした。

調査対象者において, 同意書の未記入・未提出, 欠損値のある回答, 心神喪失者（犯罪者）を除外した。同意書の未記入・未提出は, 犯罪者は 2 名, 一般成人は 18 名, 犯罪者の心神喪失及び欠損回答は 17 名, 一般成人の欠損回答は 53 名であった。

有効回答数は, 犯罪者 14 名（男 8 名, 女 6 名）, 一般成人 57 名（男 30 名, 女 27 名）であった。さらに, 犯罪者の罪種については, 殺人 3 名（男 1 名, 女 2 名）, 殺人未遂 2 名（男 1 名, 女 1 名）, 傷害 1 名（男）, 強盗 1 名（男）, 強盗傷害 1 名（女）, 自動車事故過失致死 1 名（男）, 放火 3 名（男 2 名, 女 1 名）, ストーカー取締法違反 1 名（男）, 窃盗 1 名（女）であった。

### 2). 本研究における犯罪者の定義

本研究での犯罪者の定義は, 「①法に触れる行為・行動により検挙された者, ②狭義の精神疾患である者は一般成人と比較出来ないため, 精神的な問題により責任能力がない

とされる心神喪失者は除外し、善悪の判断と行動に影響がなく部分的であれ責任能力があると認められた者」とした。

### 3). 対象者の平均年齢

犯罪者の平均年齢と標準偏差は、男 51.8 歳 ( $SD=17.6$ )、女 38.1 歳 ( $SD=9.3$ )、全体 46.0 歳 ( $SD=15.8$ )であった。一方、一般成人の平均年齢と標準偏差は、男 55 歳 ( $SD=23.1$ )、女 47.5 歳 ( $SD=21.8$ )、全体 51.8 歳 ( $SD=22.0$ )であった。(表 1, 2 記載)

年齢層が幅広いいため標準偏差の値は大きいですが、犯罪者と一般成人の両者は、概ね近似した平均年齢となった。

### 4). 教示方法

研究協力者に、研究の内容や目的を説明すると回答に影響が出るので、研究については詳しく説明出来ないことを伝えた。本研究は大学院（国際医療福祉大学大学院）の承認を得た研究であること、さらに、本研究で個々人の特性を調べることは、心理的な問題解決への一助となり社会貢献につながる可能性があることを告げた。また、同意書について説明をし、同意をもって調査協力をする場合は、回答と共に提出をするよう伝えた。

犯罪者においては、精神鑑定時（起訴前鑑定・公判鑑定）の心理検査中に実施した。犯罪者と一般成人ともに、研究内容を告げた後、調査協力を同意した者は回答を後日郵送するように伝え、回答と同意書をもって調査協力の同意とした。

### 5). 倫理的配慮

本研究は、国際医療福祉大学大学院の倫理審査で承諾されたものである。

(承認番号：13-Ig-15)

研究協力にあたり、同意書をお願いしたが、調査用紙の回答には無記名とすることを伝え、研究においては匿名化し、資料をデータ化することや、その保存・破棄について適切な処

分・対応をすることを伝えた。また、本研究にける利益相反はない。

## 6). 質問紙調査に使用した尺度について

本研究においては、共感性・社会的視点取得の認知的傾向を調べるため、以下の2つの尺度を用いた。

### ①共感性の尺度

多次元共感性尺度<sup>41)</sup> (30項目5件法)

他者が体験する感情を見た側に、それと一致した(苦痛などに対して)、或いはそれに対応した感情的反応(可哀想、心配するなど)が起こることを共感性とし、その共感性には多次元的側面があるとされている。視点取得は、共感性の構成要素とされていることから、共感性の諸理論や諸尺度が総合的に検討された多次元共感性尺度を用いることとした。本尺度は、「共感的関心(共感的配慮):他者の状況や感情体験に対し、自分も同じような気持ちになり、他者の状況に対応した他者志向の暖かい気持ちを持つこと(同情など)」、「個人的苦痛:他者が感じている不安や苦痛などが、他者に向わずに自分中心の感情的反応になること(他者の不安で自分も同様な不安になる)」、「ファンタジー(空想):小説や映画などに登場する架空の他者に感情移入すること」、「視点取得(気持ちの想像):他者の気持ちや状況を相手の立場に立ち想像する」の4つで構成されている。回答は、各項目において、「非常にあてはまる(5点)」から、「全く当てはまらない(1点)」の5段階で求めた。

(\*資料1として添付)

### ②社会的視点取得の尺度

鳥獣戯画テスト<sup>42)</sup>(共感性及び社会視点取得、対人認知傾向の測定尺度:3図版に話を6通り作成)

鳥獣戯画の描画から、他者との関係性を表現できる3枚の図版が用いられている。図版1は二者関係、図版2は三者関係、図版3は集団関係が描かれている。それら3枚の図版に、

それぞれ主人公・相手側の 2 通りの話を作成させ、相手の立場に立った話が作成できたかどうかを測定するものである。(図 1 参照, 鳥獣戯画テストは資料 2 として添付)

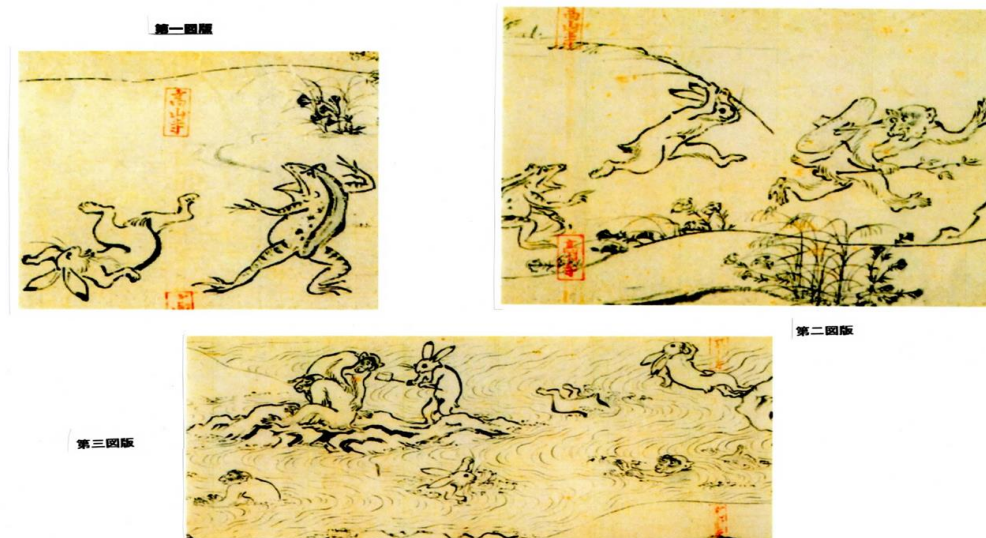


図 1, 鳥獣戯画テストに使用されている描画

現在, 成人の社会視点取得の尺度はなく, 鳥獣戯画テストは, 社会的視点取得を測定するアルメニア課題と正の相関がみられた<sup>43)</sup>. アルメニア課題は中学生版検査であるため, 本研究においては, アルメニア課題と関連する鳥獣戯画テストにより, 社会的視点取得を測定する. また, 近年鳥獣戯画テストは, 精神鑑定の心理検査において, 共感性(視点取得)に加え対人関係などの傾向も測定しており, 本研究においては, 対人認知の傾向も測定することとした. 共感性(視点取得)及び社会的視点取得能力の測定に関する鳥獣戯画テストの先行研究を以下に記す.

鳥獣戯画は, 甲乙丙丁の四巻からなる絵巻物で, 動物の姿をそのまま描いてあるものや擬人化して描かれたものがあり, さらに, 人間が様々な遊びに興じた滑稽な姿が描かれたりと多彩な表現がみられる. そのうちの甲巻は, 兎・猿・蛙を始めとする 11 種類の動物が人間さながらに表現されているため, 動物を登場人物に見立てて話を作成しやすいと考えられた. このことから, 鳥獣戯画テストで用いる図版は, 甲巻の中から登場動物の関係を話として作成しやすい 3 つの図版が選ばれた.

鳥獣戯画を用いて作成された鳥獣戯画テストは, 簗下ら<sup>42)</sup>より, QOL(Quality of life)

の要素として考えられる「楽しむ能力 (The Ability to Enjoy)」と対人コミュニケーション能力に則した高次脳機能検査として開発されたものである。図版1は、兎と蛙の二者関係を表し、図版2は、兎・蛙・猿の三者関係、図版3は、兎・猿が複数描かれた集団関係である(資料2参照)。この研究では、脳腫瘍患者(右前頭葉中心部位の障害者と右頭頂葉中心部位の障害者)と健常者の比較研究を実施した。その結果、「他者の意図を非言語的に読み取る能力と、自分が物語の登場人物になり物語を進行し語るという能力が、別々の機能を用いていること」が示された。鳥獣戯画テストに言語的能力測定の可能性・リハビリツールへの応用の可能性が示されたことから、女子大学生に鳥獣戯画テストとMurray版TATとの比較研究が行われ、鳥獣戯画テストを語ることにより、被験者にポジティブな気持ちの変化が生じることが示された。各図版においては、図版1に援助・想像・獲得の肯定的反応、図版2に支配と攻撃の否定的反応、図版3には、協力という肯定的反応が見られた<sup>44)</sup>とされている。

一方、仲野<sup>45)</sup>は鳥獣戯画テストを用いて非行少年と健常少年の人格特性の違いを調べた。この研究から、非行少年はネガティブな感情を自分の中に引き受けられないため、自由な表現や言語化における感情のコントロールが不得手であることが示された。また、鳥獣戯画テストがMJPI(法務省式人格目録)同様に人格検査に役立つこと、内的世界を構造的に深く探れるため、非行臨床現場でのアセスメントに用いることが可能であると述べている。さらに亀井<sup>46)</sup>は、高齢者にも鳥獣戯画テストが有用であることを調べるため、健常高齢者と健常成人を比較した。その結果、鳥獣戯画テストは、疲労感の少なさから課題負荷が低く、楽しさや使い易さが示されたと述べており、対人コミュニケーションに関するリハビリテーションになり得るとしている。また、岡本<sup>47)</sup>は鳥獣戯画テストとTATを比較し、神経心理検査の使用図版としての有用性を検討している。その結果では、鳥獣戯画テストの図版は3枚共、家族・親族関係や近隣関係を連想させる図版であり、その中でも図版3は、組織を介した複雑な関係を表現する刺激を含むとしている。よって、鳥獣戯画テストには、複雑な社会状況・組織が含まれているため、神経心理検査として有用である可能性が示唆

されたと述べている。そして、鱈川<sup>48)</sup>は、TAT を用いた心理療法が治療的に進展されたのを受け、鳥獣戯画テストも同様に、心理療法として治療的に進展させることが可能であるのかを検討した。そこで得られた知見は、鳥獣戯画テストは、感情の表現や自己開示などを含む語りの促進に関しては効果的ではないが、心理療法に近い場面で用いても不安を喚起させないという点において、有用であることが明らかになったと述べている。

さらに、鳥獣戯画テストに対人関係に関する表現が多くみられることから、精神鑑定において、対人認知の観点から分析し、話を主人公と相手側の両者の立場で表現させることにより、共感性（視点取得）を質的に測定することについての研究が平間ら<sup>49)</sup>によってなされ、鳥獣戯画テストの有用性を検討する研究は、現在も積み重ねられている。

### ③分析方法

量的分析をするための数値化は、社会的な視点が発達段階に取り入れられている「Selman の役割取得能力の発達段階」を基に作成されたアルメニア課題を参考にした。レベル0～レベル4までの5段階の発達段階を1点～5点として、鳥獣戯画テストに表現された社会視点取得を得点化した。尚、鳥獣戯画テストの得点化の採点表作成の確認と、各話の数値化は、筆者（臨床心理士）と他の臨床心理士1名の両者の協議により採点した。（資料3として添付）

## 3. 結果

### 1). 犯罪者と一般成人の年齢及び各因子の平均値と標準偏差

犯罪者と一般成人の年齢、共感性の各因子である「共感的関心」、「個人的苦痛」、「ファンタジー」、「視点取得」の平均・標準偏差を表1,2に、他者との対人関係を社会的な観点から捉える「社会的視点取得」については、犯罪者と一般成人のヒストグラムを図2に記した。

	年齢	共感的関心	個人的苦痛	ファンタジ	視点取得
全体 M	46	54.43	18.64	17.93	17
(14人)Sd	15.85	7.39	5.34	5.34	4.69
男性 M	51.88	54	17	17.38	15.5
(8人)Sd	17.66	7.86	4.62	6.41	3.81
女性 M	38.17	55	20.83	18.67	19
(6人)Sd	9.34	7.5	5.84	3.26	5.32

	年齢	共感的関心	個人的苦痛	ファンタジ	視点取得
全体 M	51.79	53.71	15.93	20.21	17.93
(57人)Sd	22.03	7.11	5.1	4.67	3.47
男性 M	55	55	16.75	20.88	18.75
(30人)Sd	23.07	7.76	6.08	4.76	3.41
女性 M	47.5	52	14.83	19.33	16.83
(27人)Sd	21.87	6.41	3.65	4.84	3.54

一般成人の共感性の各構成要素の平均値は、登張（2003）の多次元共感性尺度における大学生の平均値と比較すると、大学生の標準偏差（すべて0.8以下）の範囲内であった。よって、本研究の一般成人の平均値は犯罪者の比較に妥当なものとした。

## 2). 犯罪者と一般成人における共感性の構成要素および社会的視点取得の

有意差の検定

表3, 犯罪者と一般成人のt検定

	一般平均 N=57	犯罪平均 N=14	t 値	有意確率 有意確率
共感的関心	52.30	54.43	-.928	n.s.
個人的苦痛	14.88	18.64	-2.510	*
ファンタジ	18.26	17.93	.216	n.s.
視点取得	17.95	17.00	.765	n.s.

\*p<.05, \*\*p<.01, \*\*\*p<.001

犯罪者と一般成人の共感性の各構成要素の比較をt検定により検討すると、「個人的苦痛」



にのみ有意差がみられ ( $t(69)=-2.51, p<.05$ ), 犯罪者の方が一般成人よりも高いことが示された(表3)。

「社会的視点取得」は, Selman の発達課題に準じたアルメニア課題の採点を参考に数値化したため順序尺度であるため, ウィルコクソンの順位和検定で検討した。

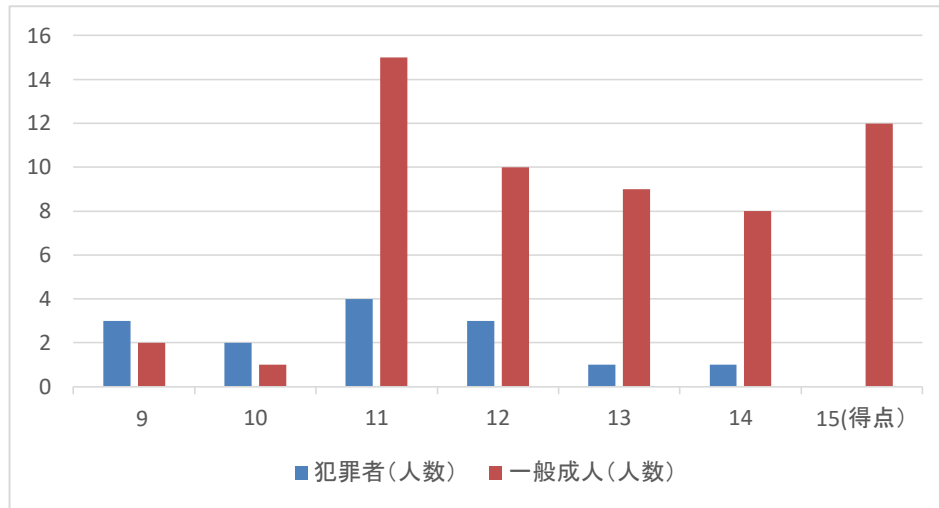


図2, 犯罪者と一般成人の社会的視点取得の得点

社会視点取得においては, 犯罪者は11点以下の割合が多く示されていたが, 一般成人は11点以上の高得点者の割合が多く示されていた。ウィルコクソン順位和検定において両者に有意差があり ( $W=605.5, p<.01$ ), 犯罪者は一般成人よりも「社会的視点取得」は低いことが示された(図2)。

#### 4. 考察

##### 1). 犯罪者と一般成人の共感性の構成要素間の比較について

犯罪者と一般成人の共感性の構成要素においては, 「共感的関心」, 「ファンタジー」, 「視点取得」には有意差がみられず, 「個人的苦痛」のみに有意差がみられた。

共感性の発達は, 自分と他者の区別が未分化な発達初期においては, 自己の苦痛を軽減しようとする自己中心的なものであるが, 認知的・自他の意識の発達に伴い, 他者の状況を

より理解して、他者の苦痛を軽減しようとする他者志向的な共感へと変化する<sup>50)</sup>とされ、共感性の発達について述べられている。本研究の対象者である犯罪者は、14名中8名が初犯である。そのため、成人して犯罪行動に至るまでに何十年かの歳月があり、その間は一般成人と同様に社会生活を過ごしており、日常生活の中で共感性を発達させるような経験をしていたことが考えられた。よって、共感性の3つの構成要素に有意差がみられなかったのは、犯罪者においても一般成人同様に共感性が発達している可能性が推測された。

共感性の各構成要素の詳細については、共感性に関する成人の知見が少ないため、非行少年の共感性研究をもとに検討した。非行少年は「共感的関心」が高く、「ファンタジー」は一般少年よりも犯罪者の方が低いという報告と有意差がないという報告があり、「視点取得」も同様に一般少年よりも非行少年の方が低いという報告と有意差がない<sup>21, 22, 23)</sup>という報告など一貫した傾向はみられないが、非行少年の共感性研究では、総じて、非行少年は「共感的関心」が高い傾向にある。

非行少年は「共感的関心」が高いことから、社会的行動に関連していることや他者に同情的・愛他的であるとされているが、共感的な配慮が出来る他者と出来ない他者があり、身近な仲間などに対しては配慮が出来ても、見知らぬ他者には抵抗感なく犯罪行為を行う可能性がある<sup>21, 22, 23)</sup>と述べられている。また、中学生から大学生までを対象に共感性と向社会的行動との関連についての研究では、「共感的関心」は家族と友達への向社会的行動と関連するとされている<sup>51)</sup>。よって、非行少年においては、身近なものに対する関心の高さが共感的な配慮となるため「共感的関心」が高いと考えられた。しかし、本研究においては、犯罪者と一般成人に有意差はみられない。

一方、「共感的関心」の特性は、恥や罪悪感を避けるためという利己的動機で援助をする<sup>52)</sup>とも報告されており、自分をよく見せたいということと結びついている。また、自分をよく見せたいという承認欲求を検討した研究では、肯定的評価を得たい賞賛獲得欲求と否定的な評価の回避である拒否・回避欲求が共に高いと防衛的悲観性を用いて対処する<sup>53)</sup>とされている。防衛的悲観性とは、失敗や最悪の状況を想像し、起こりうる可能性をすべて熟

考することにより、将来の出来事に対する準備や努力を動機づけるものである<sup>54)</sup>。これは、経験を重ねるにつれて想像や予想が豊富になると考えられ、成長に伴って高まることが推測される。よって、共感的関心が承認欲求や防衛的悲観性と関連する可能性を考慮すると、年齢を重ねたことによる経験的な予測が犯罪者においても一般成人同様にあると考えられた。

次に、非行少年と一般少年の「ファンタジー」と「視点取得」の差異については、これまで一貫した研究はみられない。小説などの主人公になりきるように、自分が他者だったらどうするかと考えて感情移入的な「ファンタジー」と、他者はどう感じているだろうかを想像する客観的な「視点取得」は、他者志向という点においては共通である。

「ファンタジー」について検討すると、他者志向的な仕事である看護学生において報告された共感性の研究では、「ファンタジー」特性の高い看護学生は、患者と病室で過ごす時間が少ない傾向にあり、他者への感情移入などの影響により回避的になっている可能性がある<sup>55)</sup>。また、他者が自分から離れてしまうのではないかと心配する見捨てられ不安と「ファンタジー」特性の高さは関連するとされている<sup>56)</sup>。犯罪者と一般成人に「ファンタジー」の差異がなかったことから、本研究における犯罪者は、一般成人同様、他者の内面に目を向け、感情移入により他者に回避的であることや見捨てられることに対する不安を強く抱く群ではなかったと考えられた。

次に、「視点取得」の研究では、認知的共感性（視点取得）は、逸脱行動経験の「犯罪」、 「不良行為」、 「いじめ」に対し抑制的に働く傾向があると述べられている<sup>57)</sup>。また、「視点取得」において、対人関係や自己と他者に対する意識がどのように関連するかを検討した研究では、「視点取得」は、他者との気持ちの分かち合い経験、他者との違いを意識した経験、自信がなく他者を気にする経験には関連がみられたが、他者に理解されない経験とは関連していなかった<sup>58)</sup>。「視点取得」の特性では、友人や兄弟との葛藤場面において、問題解決策をとる傾向にあり、間接的攻撃・言語的攻撃・短気を減少させる傾向にあることが述べられている<sup>25)</sup>。さらに、対人関係の恋愛においては、関係の期間が長い程、「視点取

得」が恋愛関係の維持と促進に果たす役割が大きいとされている<sup>59)</sup>。これらからみると、「視点取得」は攻撃性を抑制し他者と良好な関係を保つことに影響を与えている。よって、本研究の犯罪者においても、一般成人と同様に適度な対人関係を結べる能力を有している可能性があると考えられた。

犯罪者と一般成人に有意差のあった「個人的苦痛」においては、犯罪者は一般成人よりも高く、この特性が高い者が他者の苦痛に接すると、代理的感情を起こしやすく、感情統制が苦手であるとともに社会的関係促進機能の発達が不十分であるため、不安や動揺などの他者志向ではない自己志向な感情に支配され、他者の状況に対応した感情や行動を示すことができないとされている<sup>60)</sup>。

また、「個人的苦痛」は、サイコパシー特性の行動的障害傾向と関連し、他者の苦痛に敏感になり過ぎるため攻撃行動に結び付くことが示唆されている<sup>61)</sup>。恋愛関係における異性文化に対して不安を感じる事や、相手への独占欲とも「個人的苦痛」は関連し<sup>62)</sup>、他者に対する感情の起伏の激しさが窺える。中学生においては年齢による差はないが、高校生になると年齢が上がるにつれて減少することが述べられ<sup>63,64)</sup>、成長に伴い減少する傾向にあるとされている。これらの研究から、「個人的苦痛」は、未成熟さと過度に感情的になってしまうために、対人関係において不適応な状態を生じさせると考えられる。

一方、犯罪者の特徴や傾向として、自己統制が困難であることがあげられ<sup>65)</sup>、自分の感情を統制することが出来ず、他者との対人関係において社会的に適応した行動をとる能力が未成熟であると言える。よって、攻撃行動と関連する「個人的苦痛」の状態は、自己統制の問題と同様であると考えられ、それ故、犯罪者は「個人的苦痛」が高いという結果になったと推測された。

非行少年と大学生の比較研究において、「共感的関心」・「ファンタジー」・「視点取得」は、他者の内面性を意識することと大学生は関連していたが、非行少年は関連していなかった<sup>21)</sup>。本研究の犯罪者が、少年の時期に他者の内面に目を向けることが出来ずにいたかどうかは分からないが、年齢が上がり様々な経験を積むことで、犯罪者においても一般成人同

様に他者の内面に対する関心の向け方が発達している可能性が推測された。一方、「個人的苦痛」が高い犯罪者は、過度に感情的になってしまうために、不適応な状態に結びつくと考えられた。

犯罪者と一般成人の共感性を比較すると、本研究においては共感性の構成要素の個人的苦痛にのみ差異がみられた。これにより、犯罪者は、一般成人同様に感情移入により他者に回避的で見捨てられ不安を多く持つことはなく、年齢を重ねたことによる経験的な予測を持ち、適度な対人関係を結べる能力はある程度有し表面的には適応しているが、「個人的苦痛」の高さにより、過度に感情的になるために不適応な状態や行動をとることが推測された。

## 2). 犯罪者と一般成人の社会的視点取得の比較について

前述の考察では、「視点取得」は犯罪者と一般成人に差異がなく、犯罪者においても、他者の立場に立って物事を考えることはある程度出来ていると考えられた。しかしながら、「社会的視点取得」は、犯罪者は一般成人よりも低いことが示され、複数以上の他者の立場それぞれを、社会性を考慮した視点で捉えることは、犯罪者は苦手であることが示唆された。また、共感性の質問紙では、自己の視点取得を主観的に自己評価しているが、鳥獣戯画テストにおける社会的視点取得は、客観的に他者評価されている。この主観性と客観性による違いが、視点取得には両者の差異がみられず、社会的視点取得のみに差異がみられた要因であると推測された。

社会的視点取得は道徳発達の先行条件<sup>66)</sup>であることを受け、Selman は道徳性の発達段階に対応した社会的視点取得能力の発達段階を提示している。それによると、「段階 0 (自己欲求希求志向) : 善悪の判断は、結果が良いか悪いかによる」、「段階 1 (罰と従順志向) : 良い意図や動機を理解し、権力などの 1 つの見方に固着する」、「段階 2 (自己本位志向) : 自分にとって価値あるものが正義となる」、「段階 3 (良い子志向) : 自分が望むように他者にも行い、皆の総意を反映させるよう努力する」、「段階 4 (法と秩序志向) : 正義は大多

数の一般的他者によって定義され、社会的道徳や秩序を維持するよう働きかける」となっている<sup>67)</sup>。この発達段階で犯罪行動について考えると、段階3の自分が望むように他者にも行い、皆の総意を反映させることが出来ているならば、犯罪行動には至らない。段階2のように自分にとって価値あるものが正義という自己本位志向であるから犯罪行動に至ると考えられ、道徳的な観点から考慮しても犯罪者はまだ発達の途中であり、その先行条件の「社会的視点取得」が低いのは尤もであると考えられる。

一方、「マスローの欲求階層説」を犯罪者の個別要因や犯行動機に照らし合わせたものによると、“生理学的欲求の第一次欲求は、飢えを凌ぐための盗み”、“安全への欲求の第二次欲求は、自分の身を守るための暴力や盗み”、“所属と愛情欲の求第三次欲求は、愛情の満たされなさによる殺人”、“尊敬・承認欲求の第四次欲求は、他者を驚かせ自身に関心を持たせたい愉快犯の歪んだ承認欲求”、“自己実現の欲求の第五次欲求は、盗みや殺人事態が自己実現”と捉えることが出来ると述べられている。<sup>68)</sup>これによると、犯罪者それぞれの欲求が制御されないことが犯罪行動となっている。

また、犯罪者の特徴として、相手の行動を悪意として捉えやすい認知の偏りがある<sup>69)</sup>一方で、犯罪者は四六時中罪を犯しているわけではなく、これまで生きてきた中で社会的に適応的な部分と反社会的な部分が形成されてきたとされている<sup>70)</sup>。

「社会的視点取得」は、社会的・対人的な場面において、他者や自己の心理を相互関係的に理解し推測することであり、自身の欲求は制御して対人関係を維持するものである。適応的な社会生活がある程度できるが、価値観・認知に偏りがあり、欲求の制御力に乏しく、客観的に他者の立場に立って社会的に物事を捉えられない犯罪者は、社会への適応と不適応が混在するため「社会的視点取得」が一般成人よりも低いと考えられた。

#### IV. 第2研究：犯罪者と一般成人の対人認知について

##### 1. 目的

犯罪者と一般成人において、共感性の構成要素の「視点取得」には差異がみられなかったが、「社会的視点取得」には差異がみられた。これは、「視点取得」が主観的な自己評価で、「社会的視点取得」は客観的な他者評価であることが要因であると推測され、認識の違いが示唆された。また、「個人的苦痛」にも両者に差異があり、感情統制や社会的関係促進機能の発達の問題が考えられた。これらのことから、犯罪者と一般成人の社会的視点取得の差異について着目し、共感性に影響を与えると考えられる対人認知の観点から、社会的視点取得について検討することとした。第1研究で得られた知見から、第2研究の目的を以下に記した。

目的：対人認知の観点から社会的視点取得について、他者配慮の範囲や状況の理解・対人関係の認知傾向を調べ、犯罪者と一般成人において、どのような特徴がみられるか、また、両者の差異について検討する。

##### 2. 方法

###### 1). 調査対象

研究1で調査対象とした犯罪者14名、一般成人57名を対象とした。

使用尺度は、鳥獣戯画テストを用い、鳥獣戯画テストに表現された話を対人認知の観点から分析した。

###### 2). 分析方法

###### ①他者配慮の範囲（数）について

他者配慮の範囲では、図版に表現されている登場動物を図版通りに、二者・三者、集団として捉えられているか、また、捉えた登場動物数のまま話に表現できているかを検討する。

(〈例〉図版 2: 三者で捉え二者で表現⇒主人公側「蛙, 兎, 猿は仲良くかけっこをしている。」, 相手側「猿が一番で喜び, 蛙は負けた事に文句を言う。」相手側で兎の表現がない。)

## ②状況場面の認知傾向について

先行研究により, 描画には集団関係が描かれ, 社会性や協力などの肯定的で複雑な対人関係が表現されやすいとされる第 3 図版について, 対人関係が主題通りに良好に表現されているかを肯定的とし, 主題通りではなく主題を否定するような対人関係の不良な表現を否定的, 対人関係ではなく厳しい状況の表現を困難場面とした。また, 1 つの話に肯定的な表現と, 否定的・困難場面の片方, もしくは両方を複雑に表現しているかについて検討した。

肯定的: 協調的な表現, 援助的表現, 仲良く水浴びなどの表現など

否定的: 無関心, 意地悪をする, 仕返しをする, 助かりたくて媚びを売るなど

困難場面: 溺れている, 池に落ちる, 病気・怪我をする, 危機的状況, 災害など

## ③対人認知傾向の特徴

対人認知の特徴をみるため, 鳥獣戯画テストの各図版の話の内容表現を検討することとした。話の分析は物語分析に代表される TAT (絵画統覚検査) の手法<sup>71)</sup>に基づき, 以下の手法に沿って行った。

### A, 特徴のチェック

a, 絵の情景をきちんとイメージ出来, 絵の主要部分を標準的に知覚しているか。

b, 物語の筋に一貫性と流れがあるか。

c, 現在, 過去, 将来のバランスはとれているか。

d, 物語の結末は明るいか暗いか, 語られているか。

e, 印象に残る言葉遣いはあるか。

B, 特徴の整理⇒ C, 共通特徴の抽出⇒ D, 図版ごとの話の特徴の再検討⇒

E, 総合解釈 (3 枚の図版の特徴を 1 つにまとめる) ⇒ F, 総合解釈に用いられた対人

認知及び対人関係に関する言葉の抽出⇒ G, 抽出した言葉のカテゴリー分け, H, カ



テゴリー分けしたものをラベリング

(TATの手法はA～Eまでであり、F～Hは犯罪者と一般成人の話の特徴をまとめるために  
 グランデット・セオリーの分析を参考に行った)

\*尚、第2研究の①②③の分析は、臨床心理士2名(筆者含む)の協議により  
 検討した。

### 3. 結果

#### 1). 犯罪者と一般成人の他者配慮の範囲の有意差

図版1は二者関係であり、犯罪者と一般成人の両者においてすべてが、主人公・相手側の  
 両方に二者関係を表現していたため、比較検定の対象から外した。以下に図版2において主  
 人公側で三者関係を表現し、相手側でも三者関係を表現していたか、また、図版3におい  
 て主人公側、相手側で集団関係を同様に表現していたかについてマクネマー検定で検討し  
 た。(表4,5)

(相手側)	(主人公側)		$\chi^2$ 2値	下限	上限	p値
	有り	なし				
図版2						
有り	4	1	1	0.006	4.151	n.s.
なし	3	6				
図版3						
有り	3	1	1.8	0.005	2.526	n.s.
なし	4	6				
N=14 数字は度数			*p<.05, **p<.01, ***p<.001			

相手側	(主人公側)		$\chi^2$ 2値	下限	上限	p値
	有り	なし				
図版2						
有り	18	8	0.058	0.298	2.595	n.s.
なし	9	22				
図版3						
有り	15	5	0.333	0.178	2.614	n.s.
なし	7	30				
N=57 数字は度数			*p<.05, **p<.01, ***p<.001			

マクネマー検定の結果、犯罪者と一般成人の両者に、図版2,3のどちらにも有意差がみら

れなかった。犯罪者と一般成人は、主人公側で登場動物を認知した数のまま、相手側でも表現していた。

2). 犯罪者と一般成人の対人関係における肯定・否定・困難表現の有意差

$\chi^2$  検定で犯罪者と一般成人の話に、肯定・否定・困難のそれぞれの表現と、肯定+否定・困難の表現が多く示されているかどうかを検討した。(表 6, 7)

表6.犯罪者の肯・否定・困難表現			
図版3 (N=14)	犯罪 (度数)	$\chi^2$ 値	p 値
肯定的			
有り	8	0.285	n.s.
なし	6		
否定的			
有り	3	4.571	*
なし	11		
困難場面			
有り	4	2.571	n.s.
なし	10		
肯+(否・困)			
有り	2	7.142	**
なし	12		
*p<.05, **p<.01, ***p<.001			

犯罪者は、肯定的表現と困難場面の表現に有意差がなく、否定的表現 ( $\chi^2=4.571$ ,  $p<.05$ ), 肯定+否定・困難場面 ( $\chi^2=7.142$ ,  $p<.01$ ) の表現には有意差があった。これにより、犯罪者は肯定的と困難場面の話を表現することは多くも少なくもないが、否定的な表現と肯定+否定・困難場面の表現は少ないことが示された。

表7.一般成人の肯・否定・困難表現			
図版3 (N=57)	一般 (度数)	$\chi^2$ 値	p 値
肯定的			
有り	44	16.859	***
なし	13		
否定的			
有り	16	10.964	***
なし	41		
困難場面			
有り	17	9.28	**
なし	40		
肯+(否・困)			
有り	26	0.438	n.s.
なし	31		
*p<.05, **p<.01, ***p<.001			

一般成人は、肯定的表現 ( $\chi^2=16.859, p<.001$ ) , 否定的表現 ( $\chi^2=10.964, p<.001$ ), 困難場面表現 ( $\chi^2=9.28, p<.01$ ) に有意差がみられ、肯定+否定・困難の話には有意差がみられなかった。これにより、一般成人は、肯定的な話が多く、否定的と困難場面の話は少なく、肯定+否定・困難場面の話の表現は多くも少なくもないことが示された。よって、犯罪者と一般成人では、犯罪者は一般成人に比べて肯定的な表現が少ない傾向、困難場面の表現は犯罪者の方が一般成人と比べて多い傾向、肯定+否定・困難の表現は、犯罪者の方が一般成人と比べて少ない傾向にあるという差異が示された。

### 3). 犯罪者と一般成人における対人認知傾向の差異

各図版について、TAT とグランデット・セオリーの分析法を用いて検討すると、犯罪者と一般成人の対人認知の志向性は、関係志向性（上下関係、平等など）、建設的志向性（協調・援助・協力・可塑性など）、非建設的志向性（被害的・不適応・他者敏感・回避的・防衛的・拒否的など）、基準的志向性（プライド・努力・他者との違いなど）、自己志向性（自己主張・同一化・自己中心的・主観的など）、社会的志向性（客観性・合理性・事なかれ主義など）の6つに分類された。一般成人は6つのカテゴリー分類すべてを有していたが、犯罪者においては、社会的志向性はみられず5つのカテゴリーに分類された。（表8）

犯罪者の対人認知傾向は、平等を意識しているが上下関係や異性・仲間関係を志向し、仲間意識があり協調・援助をして人の可塑性を信じる建設的傾向を持つが、被害的で防衛・回避的で服従と攻撃または極端な対応という特徴がみられた。また、固定概念的で他者との差を意識しプライドや努力をする基準傾向があり、自己中心的で同一化し主観的に主張する傾向を有し、社会的志向性はみられないことが特徴であった。一方、一般成人の対人認知の傾向では、立場や親子関係を重視し、柔軟に他者に配慮して共有するが、警戒心があり否定・批判的で依存する傾向や、信頼・安定・善悪・因果などの価値観を基準とし、自己を抑制しつつ主導性を持ち、客観的・合理的で本質重視の事なかれ主義や対人関係以外への興味を持つなどの社会的な傾向にあるという特徴がみられた。

これらから、本研究における一般成人と比較した犯罪者の対人認知の特徴は、異性関係や仲間の関係性を重視し、服従と排除や攻撃という極端な対人認知傾向にあり、道徳や合理性などの社会的な対人認知の傾向がみられないことであった。

表 8. 犯罪者と一般成人の対人認知傾向の分類

各志向性	犯罪者の 対人認知傾向	犯罪者と一般成人の 共通な対人認知傾向	一般成人の 対人認知傾向
関係志向性	異性関係	上下関係 平等 親族関係	立場 友人関係 年功序列
建設的志向性	仲間意識	協調的 援助的 協力 可塑性 反省 適切・柔軟な対応	他者尊重 他者志向 共有願望 他者配慮 喜びの共有
非建設的 志向性	アンビバレント 排除的 攻撃的 服従的 衝動的 傍観的	被害的 不適応 他者敏感 回避的 防衛的 後悔 拒否的	配慮不足 警戒心 依存的 批判的 否定的 被影響性
基準的志向性		努力 他者との違い プライド 固定概念 勸善懲悪	価値観 信頼感 思考傾向 安定志向 善悪思考 因果応報
自己志向性		自己主張 同一化 自己中心的 主観的	自己抑制 主導性
社会的志向性			客観性 道徳性 対人以外の興味 本質重視 社会性 事なかれ主義 距離感 合理性

(\*資料 4 として犯罪者と一般成人の対人関係の分析の詳細を添付した)

#### 4). 犯罪者と一般成人の話の特徴的表現

犯罪者と一般成人の話の表現において、それぞれの特徴的な表現について検討した。以下に、その特徴的な表現をしていた話を要約して表にした。(表 9)

表9. 犯罪者と一般成人の話の特徴

	犯罪者の特徴的な表現	犯罪者と一般成人の 共通な表現	一般成人の特徴的な表現
図版1	<犯3> 執念で努力した兎に蛙が負ける話 <犯5> うぬぼれた兎を改心させるために蛙に化けた神が相撲で兎を導く話 <犯6> 蛙に食べられそうになった兎が驚いてる話 <犯8> 男性の蛙に魅力を感じて飛びつく女性兎の話	<犯9> 蛙が柔道技(相撲などの勝負事)を決めて勝つ話 <一般45> 蛙が突然池から飛び出て兎を驚かす話 <犯14> 蛙は一生懸命話をしてるが、兎はその話が面白くて大笑いしてる話	<一般4> 蛙が自慢の歌を歌うが兎にはそれが奇妙なので笑い転げる話 <一般9> 非常に陰い所にある高山寺に行き、美味しそうな花を食べるために動物達は登山する話
図版2	<犯2> 遊ぶ・笑う・怒る・驚く・泣く・怯えるなどの複数の感情を選択できない話 <犯3> 加虐趣味のある兎が側にいつもいてくれる猿に感謝の気持ちを持ちつつもいじめの話 <犯8> 花を摘みに来た背中に赤チャンを背負った親子に、遊んで欲しくて飛びつく兎の話	<一般22> 自分の帽子だと言って帽子を持ち走る猿を、それは自分の帽子だから返せと追いかける兎の話 <犯12> 兎の庭の木にいつも悪戯する猿に兎が怒り、猿に止めるように言う話 <一般21> 高山寺の近くに住む兎と蛙と猿はかけっこをし、一生懸命に走る猿は一番で走る気のない蛙は兎を見ている話	<一般7> 自分を打ち負かした蛙の力にほれ込んだ兎が、プライドを捨て蛙に弟子入りし、猿を追いつけ回す指導を受けている話 <一般54> 秋の野原に集まっていた動物の中の猿が、栗が採れる頃だからと、兎や皆を誘って収穫に行く話
図版3	<犯2> 背中を搔く、気持ちよがる、ぶち殺す、泳いでいる、怯えている、どざえもん、(水死体)など何をやってるか理解不能な話 <犯4> 大切な田畑を皆で開墾しているのに、一人だけ参加しない者には、村八分を決め集団生活を守る話 <犯8> 雪原の水溜りで、妻に背中を流すと気持ちよさそう安心し、周囲も皆それぞれに体を洗っている話	<犯1> 危機的状况により、皆が流されてしまい、兎は残った者達と協力して助かろうと呼びかけるが、もう無理だと思う話 <一般16> 兎と猿は温泉の川を見つけ、皆裸になって泳ぎ始めたり体を洗ったりしてお湯をかけあつたりと仲良く遊ぶ話 <犯13> 背中を怪我して痛がる猿を兎が心配して治してやると、怪我が良くなった猿は兎に感謝し、兎は嬉しくなる話	<一般14> 急流で泳いでいた年寄の猿を助け、無茶をしないよう心配する話 <一般41> 兎が温泉に入っていると猿がやって来てノミをとり始めたので背中を流してあげる話 <一般43> 誕生日に背中を流してもらい、皆も楽しんでいる様子を見て喜ぶ話 <一般6> 猿が目覚めると地獄絵図が広がっていたので呆然としていると、救世主を探していた兎に世界を救うよう頼まれる話

(\*資料5として、犯罪者と一般成人の鳥獣戯画の話を添付)

犯罪者と一般成人は、各図版の描画を率直に認知し、日常の経験を連想させる事柄をどちらも多く表現していた。犯罪者と一般成人の話の特徴の差異は、犯罪者は攻撃的で頑なで偏った極端な表現をするが、一般成人は良好な対人関係の場面が連想されるような表現であることであった。

#### 4. 考察

##### 1). 犯罪者と一般成人における他者配慮の比較

犯罪者と一般成人は、主人公側の話で、図版 2, 3 に描かれた登場動物の設定数である三者・集団を認知し、相手側の話でも認知した三者・集団の関係をそれぞれ話に表現していた。

TAT や鳥獣戯画テストのように、図版を認知する心理テストにロールシャッハ・テストがある。本研究において図版の認知傾向を分析するに当たり、客観的な指標として、図版認知の分析として広く用いられている、ロールシャッハ・テストの分析法から検討した。ロールシャッハ・テストとは、インクの模様で出来た図版が何に見えるかを回答してもらうものである。絵柄が何に見えるかを問うのは自由反応段階で、その後の質問段階で、回答したものを図版のどの場所（全体か一部かなど）に見て、その絵柄の何がどのように見えたことが回答（反応）を決定する要因になったのかを詳しく被験者に説明させる。片口によるロールシャッハ・テストの回答の解釈では、「“全体”を多く見ており、且つ、反応した回答についても適度に説明出来ている場合は、ある程度以上の精神年齢であることや連想活動が豊かで総合力があり、抽象的で知的活動を持続的に保てるものである」とされている。また、どのように見えたかを検査者が理解できるように被験者が説明する表現については、「形や色からどう連想したのかを明確に説明できるかどうかを“形態水準”として4段階で分類し、ものの見方の公共性・現実吟味の良否・知的水準・自己統制力などの人格の重要な機能を捉える有効な手段」として用いている<sup>72)</sup>。

犯罪者と一般成人は、図版の絵柄を三者、集団として認知し、さらに、相手側の話でも認知した三者・集団の関係性を表現できており、認知と表現に両者の差異は見られなかった。これについてロールシャッハ・テストの解釈に当てはめると、これは、ロールシャッハ・テストで言う「形態水準の良い全体反応である」と考えられ、ある程度の知的能力と連想活動があり物事を総合的に捉え、現実吟味力や自己統制力を有する傾向にあることが、犯罪者と一般成人の両者にあると推測された。

非行少年と一般少年のロールシャッハの比較研究において、図版のどこを見ているかの反応領域の比較研究は非常に少ない。また、成人犯罪者と一般成人の比較研究も同様である。約 50 年前の非行少年・知的障害・一般少年の 3 群の比較研究では、図版のどこを見ているかを一般少年群と比較すると、知的障害群は全体反応が少ないが、非行少年群は差異がなかった。また、回答した反応に適切な説明が出来ていたかを一般少年群と比較すると、知的障害群は形態水準が低い、非行少年群は差異がみられなかった<sup>73)</sup>と述べられている。本研究においても犯罪者と一般成人の全体反応と形態水準に差異が見られなかったことから、少年と成人という年齢による違いもあると考えられるが、本研究の犯罪者においても顕著な知的の問題はないことが推測された。

これらから、本研究における犯罪者の知的能力は日常生活に問題がない程度以上であることが推測された。また、犯罪者の対人認知は、「自身の安定を保てる状況においては自己統制が出来るので、他者や状況の理解や把握をして、他者がどう考えているか、または状況の背景などを深く推測しているかなど、他者やその周辺の状況を適確に認知する」傾向にあると考えられた。

## 2). 犯罪者と一般成人における対人関係の肯定・否定・困難表現の比較

図版 3 は、先行研究により協力などの肯定的な話が表現されやすいとされており、「協力・援助・仲良く水浴び」などの肯定的な表現は、図版の主題と考えられる。TAT の話の分析においても、“標準的な反応”が各図版にそれぞれあり、その標準からずれていることは、

認知の歪みやその人らしさが現れているとされている<sup>71)</sup>。また、ロールシャッハ・テストにおいても、“公共（平凡）反応”という標準的な反応があり、適度な公共性や社会常識・協調的な対応がとれることを示唆する指標である<sup>74)</sup>。標準性や公共性の観点から犯罪者と一般成人の話をそれぞれ検討した。

まず、両者の傾向について述べると、犯罪者は、「肯定的」と「困難場面」の話の表現は多い・少ないに差異はないが、「否定的」と「肯定的な話に、否定的もしくは困難場面を表現」した話は少ないことが示されていた。一方、一般成人は、「肯定的」な話が多いが、「否定的」と「困難場面」の話は少なく、「肯定的な話に、否定的もしくは困難場面を表現」した話は、多い・少ないに差異はみられなかった。

これによる両者の傾向の違いは、犯罪者よりも一般成人の方が主題とされる「肯定的」な話を表現している傾向にあること、「困難場面」の話は犯罪者の方が一般成人に比べて多く表現する傾向にあり、「肯定的な話に、否定的もしくは困難場面を表現」した話は犯罪者の方が一般成人よりも少ない傾向にあることであった。

一般成人は標準的な反応が多く主題通りに図版を認知していたため、適切な認知を持ち、適度な公共性や社会常識・協調的な対応がとれることが示唆されていた。

犯罪者においては、標準的な反応が多く示されてはいなかったが、主題である肯定的な話を約半数の者が表現していたことから、ある程度は適切な認知をし、社会常識的で協調的な対応が適切に取れる側面があることが推測された。一方、否定的な話は両者共に少なく、困難場面の話に両者の差異がみられたことについては、犯罪者は一般成人と比べて状況を歪んで認知しているというよりも、自身にとってより危機的な状況として認知してしまう可能性が窺われた。TATにおいて標準的な物語を語らない場合、単に社会性の乏しさやパーソナリティの未熟さを示すわけではなく、色々な要因が考えられ、どのような点にまずいたために「ありふれた物語」を語り得なかったかを検討することにより、被験者自身の判断や推論という認知過程の諸特徴についての手掛かりを得ることが出来るとされている<sup>75)</sup>。困難場面を認知しやすい傾向に犯罪者があるならば、様々な場面において危



機を感じやすくなることが考えられ、外界からの刺激に敏感で不安が生じやすい事が推測される。よって、刺激に敏感で不安の抱え方に対する問題が犯罪者にはあることが考えられた。

次に、「肯定的な話と否定・困難の話の両方を表現する」ことの犯罪者と一般成人の差異については、一般成人の話は、例えば、「猿達と兎達は長年にわたり、遠い昔の些細な出来事により争ってきたが（否定）、同じ川で水浴びをして過ごすうちに段々と会話をするようになり、最近では仲よく遊んでいる。（肯定）」などのように、否定と肯定を組み合わせることで、時間的な幅を持たせることや、結果に至る背景を語るなど、話に深みが増すようになっていた。しかしながら犯罪者は、肯定的、否定的、困難場面と、それぞれ1つの表現だけで話が作成される傾向にあり、話に複雑な情景を表現することは一般成人よりも低いことが示唆された。肯定と否定・困難を組み合わせているということは、「標準反応とその人らしさ」の両方を兼ね添えていることになる。これは、社会常識的な対応も出来、且つ、自分らしさの個性もそこにはあり、柔軟に物事を考え行動する傾向であることが推測される。犯罪者においては、一方向のみの話の表現傾向であり、一度思い込んでしまうと、それ以外の思考をすることが難しいことが推測され、融通性がなく相反する物事を統合出来ないため、臨機応変な適応的対処が出来ない傾向にあると考えられた。

よって、犯罪者は、「ある程度は適切な認知をし、社会常識的で協調的な対応が適切に取れる側面があるが、刺激に敏感で不安の抱え方に問題があるため、他者に対して融通なく一方向から見てしまい、相反するような複雑なことを抱えたり統合して認知することが出来ない」対人認知の傾向にあると考えられた。

### 3). 犯罪者と一般成人の状況把握や対人認知傾向の特徴

犯罪者と一般成人の対人認知の結果から両者を大別すると、犯罪者の特徴は、平等な関係を意識しているが上下関係や異性関係にも興味を示し、仲間意識があり協調・援助をして人の可塑性を信じる傾向にあった。さらに、被害的で防衛・回避的で服従と攻撃または極

端な対応傾向を持ち、他者との差を意識してプライドや努力することを価値基準とし、自己中心的で同一化し主観的に主張する傾向にあり、社会的志向性はみられないことであった。一方、一般成人の対人認知の特徴は、立場や親子関係を重視し、柔軟に他者に配慮して共有するが、警戒心があり否定・批判的で依存する傾向や、信頼・安定・善悪・因果などの価値観を基準とし、自己を抑制しつつ主導性を持ち、客観的・合理的で本質重視の事なかれ主義や対人関係以外への興味を持つなどの社会的な傾向にあることだった。これらから本研究における犯罪者の対人認知の特徴は、異性関係や仲間の関係性を重視し、服従と排除や攻撃という極端な対人認知傾向にあり、道徳や合理性などの社会的な対人認知の傾向がみられないことであった。

TAT の解釈においては、ほぼすべての被験者が物語の中に自分の経験と似ているものがあるとし、物語すべてではなくとも、ある程度は経験と近似した内容を物語に表現していると述べられており、<sup>76)</sup> TAT に自身の経験に基づく思考が働くことを踏まえて以下を考察する。

上記から犯罪者と一般成人の違いは、対人関係の対象からみると、犯罪者は異性や仲間など自身が好む者に向かっているが、一般成人は親兄弟や年長者などの親族や労り敬うべき者に向かっている。犯罪者や非行少年の中には、夫婦関係や親子関係において様々な問題を抱え、その結果として犯罪や非行に至った者も多い<sup>77)</sup>とされ、犯罪者の対人認知の対象傾向は家族以外の自身の関心の強い者に向かいやすい傾向にあることが推測された。

また、犯罪者と一般成人において最も差異があったのは、社会的志向性が犯罪者にはみられないことであった。社会的志向性には、「他者との距離感を持つ、合理的に本質を重視する、道徳的に物事を捉える」などが含まれている。このような、社会的志向などの認知における、犯罪者の認知傾向の最近の研究に、犯罪傾向が進んでいる（B 級）対象者に対して構造化面接を行い、その調査の中で言語化した「ビリーフ（信念・認知）」が、「イラショナル・ビリーフ（非論理的信念・非合理的信念）」であるかなどを分析したものがある。その研究では、「私はお人好しである（だから頼みや誘いを断れない、騙される）」、「家庭環境が悪か

ったから、非行や犯罪をするようになった」、*「運が悪くて事件が発覚してしまった」*など自己責任の否定・回避・転嫁の傾向が示唆されていたと述べられている<sup>78)</sup>。前述の研究で示されたように自身の犯した行動に向きあえない主観的な傾向に犯罪者があるならば、物事を道徳的に捉えることや、合理的に本質を重視することは困難であると考えられ、このような犯罪者の認知が、本研究で社会的志向性がみられなかった要因の1つであると推測された。

#### 4). 犯罪者と一般成人の話の特徴的表現

犯罪者と一般成人の各図版における話の特徴において、図版1の共通な表現では「勝負事、驚く、笑わせる」であった。また、犯罪者の表現は、「神の化身、兎を食べようとしている」で、一般成人の表現は「歌を歌う、登山」であった。図版2では、共通な表現は「いたずら、何かを盗む、競争」、犯罪者の表現は「背中の子供、加虐趣味、アンビバレントな感情、複数の感情、縄張りを守る」、一般成人の表現は「弟子入り、収穫を喜ぶ、特訓」であった。図版3では、共通な表現は「風呂や水遊び、背中を搔く・流す、病気を治す、災害や溺れる・援助する」、犯罪者の表現は「田畑の開墾で村八分、ぶち殺そうとしている（その他複雑な感情）、どざえもん（水死体）、雪原」、一般成人の表現は「年寄りへの労わり、背中のノミ取り、誕生日の祝い、地獄絵図」であった。

前述の様に、犯罪者と一般成人は、日常の経験を連想させる事柄をどちらも多く表現していた。また、犯罪者と一般成人の話の特徴の差異は、犯罪者は攻撃的で頑なで偏った極端な表現をするが、一般成人は良好な対人関係の場面が連想される表現をすることであった。

TATの研究において、自己を肯定的に捉えていると、物語を作成するにあたり周囲との葛藤や不安を喚起させないため、TATの物語にも対人関係を肯定的に捉える話が多くみられる<sup>79)</sup>とされ、一般成人は良好な対人関係という肯定的な話が多くみられたことから、自己肯定的な傾向にあると考えられた。一方、犯罪者は肯定的な表現が一般成人に比べて少なく極端に激しくネガティブな対人認知も表現しており、自己・他者共に肯定的に認知出来

ず感情的になり攻撃的な認知となる傾向にあると考えられた。

また、図版3の場面状況の認知については、一般成人は川や温泉などの水辺を認知していたが1例は「地獄絵図」という悲惨な状況を認知していた。一方、犯罪者においても同様に水辺を認知していたが、「雪原の夫婦」と「畑の開墾で村八分」を認知していた。これまでの筆者の研究において、水ではなくお酒や不老長寿の薬などという設定はみられ、水辺で協調的に戯れる良好な対人関係の様子などの話は、図版3の主題として考えられている。主題から逸脱した場面状況においては、以前にも、放火犯において、水辺ではなく「火の海」という表現があった<sup>80)</sup>。本研究においては、「雪原の夫婦」は傷害の罪種、「畑の開墾で村八分」はストーカー行為の罪種、「ぶち殺そうとしている（その他複雑な感情）・どぞえもん（水死体）」は殺人の罪種の者であった。場面状況を主題から逸脱して認知したことを鑑みると、衝動性が大きく関わった罪種であり、自身の犯行に関連した話であることや、物事に執着傾向で頑なな対人認知傾向も表現されていたと推測された。

主題から逸脱した場面は一般成人にも表現されていたので両者をさらに分析すると、犯罪者の表現では、「雪原」では夫婦が主だが異性の表現（3つの図版を通して異性などに奔放な女性の表現）、「畑」では規則に従わない者を村八分にする、「ぶち殺す」では背中を搔くや水死体、泳いでいる、怯えている、遊んでいるなど動物を支離滅裂的に表現し、自身の感情や思考を強く主張するものであった。一方、一般成人は、目が覚めると「地獄絵図」となっている状況に対し救世主を探して世界を救ってもらおうとしている表現がされ、危機状況を乗り越えようと大きな視野に立っていた。

超常現象的な話においては、親殺しをした非行少年や犯罪青年のTAT研究によると、神秘的・不可思議な力の表現は、人知による理解や統制が不可能であるため、それらを想像することは自我統制が及ばない、幼兒的な万能感幻想や自己中心性を伴う一次過程的思考に関係すると考えられ、現実を無視した衝動的行動に結び付きやすいことが述べられている<sup>81)</sup>。本研究における超常現象的な表現は、犯罪者は「神の化身が良い道へ導く」、一般成人には「地獄絵図の状況に救世主が現れる」という表現がみられたので、超常現象的な表現

は両者とも同様であると推測された。しかしながら、「殺す, 食べようとする, 加虐趣味, 村八分」など, 日常生活を逸脱した否定的で極端な表現は一般成人にはみられない。これらから, 思い込みが激しいなどの認知の偏りが激しい場合に, 主題とは異なる場面状況を表現する可能性が示唆され, 主題からの逸脱の大きさは, 想像力ではなく認知傾向の問題であることが推察された。犯罪者と一般成人の主題から逸脱した表現を大別すると, 犯罪者は自己中心的で状況を主観的に捉える傾向, 一般成人は他者志向的で状況を客観的に捉える傾向にあり, 犯罪者と一般成人の非日常の表現には認知傾向の違いがあると考えられた。

よって, 犯罪者は, 「自身の関心の強い者を意識しやすく, 幼児的な万能感や自己中心性による想像力というよりも否定的で極端な認知をする可能性がみられ, 頑なで物事に執着する傾向にあり, 日常の現実から逸脱し主観的な判断をする」対人認知の傾向にあると考えられた。

これらから第2研究における犯罪者の対人認知は, 「安定した状況では, ある程度は適切な認知をし, 社会常識的で協調的な対応が適切にとれる側面を持つため自己統制力を有する。一方, 複雑な状況を統合出来ず一面的に物事を捉え頑なで否定的で極端な認知をするため, 日常の現実から逸脱し主観的な判断をする」傾向にあると考えられた。

## V. 総合考察

### 1. 犯罪者の共感性及び社会的視点取得と対人認知傾向の関連について

#### 1). 共感性の構成要素と対人認知傾向

第1研究では, 共感性の構成要素において, 「個人的苦痛」のみ犯罪者が高いという差異が示された。本研究の犯罪者は初犯者が多いこともあり一般成人と同様に共感性が部分的に発達していたが, 「個人的苦痛」は成長に伴う減少がなかった。

このことから, 経験的な予測をし, 他者の内面に目を向け適度な対人関係がある程度は出来ていても, 自己統制に問題があるため過度に感情的になり不適応な状態や行動になると

推測された。また、研究2の犯罪者の対人認知の傾向においては、「安定した状況では、ある程度の適切な認知をして社会常識的に協調的な対応がとれる側面を有するため自己統制力もあるが、物事を統合して捉えられず否定的で極端な認知をし、日常の現実から逸脱した主観的な判断をする」と考えられた。

対人認知の傾向が、共感性の構成要素にどのように影響を与えているかを検討すると、犯罪者は話の作成において、一方向からの視点で物事を考え易いという融通のなさがあり、これは“認知の偏り”であり、柔軟性のない偏った思考である。攻撃的な傾向のある者についての対人認知の研究に、外顕性攻撃（叩く、口論する）・関係性攻撃（無視、仲間にいれない）の高い者が、他者の攻撃性をどのように認知するかを調べたものがある。外顕性攻撃の高低群、関係性攻撃の高低群の4群に「外顕性攻撃と向社会的行動を示す仮想人物」と「関係性攻撃と向社会的行動を示す仮想人物」を例示した行動記述分を読ませて、その4群において、その他者をどのような人物として捉えるか、今後も付きあえる人物として評価するのかなどを検討している。この研究では、攻撃的な個人と非攻撃的な個人では、他者に関する同じ情報が与えられても、それを全体印象として体制化するメカニズムが異なること、攻撃的な者は、自分と類似の攻撃を行う者をポジティブに捉え、自分と異なる攻撃を示す者をネガティブに捉える傾向があると報告している<sup>82)</sup>。このことから、攻撃的な傾向にある者は、自分と類似する者以外を受け入れられない傾向にあることが示唆されている。

また、対人認知の研究では、他者から嫌われていると感じることと、好かれていると感じることは独立しているが、自分が嫌っている人数が多いほど自身を嫌っていると思う人数も多いとされている<sup>83)</sup>。犯罪者の対人認知は否定的で極端な傾向であると考えられたことから、犯罪者の否定的な対人認知に加え、“嫌うことと自分が相手から嫌われていると感じること”が混同され、他者に対して一方的に猜疑的になる可能性が推測された。

一方、犯罪者の犯行動機では、殺人においては「激情・憤怒」、**「報復・怨恨」**、放火においては「不満の発散」、**「怨恨・憤怒」**、「犯行の隠蔽」、窃盗においては「利欲」、**「経済困窮」**、「仲間からの勧誘」、「スリル・好奇心」という理由が多いことが述べられている

<sup>84</sup> )。これがすべての犯行動機とはならないが、この様な動機が他の罪種によっても多いことは有り得よう。この動機の観点から考えると、感情統制や自己統制の問題は大きいと考えられる。本研究により得られた知見においても同様な側面が得られていた。

よって、犯罪者は、“ある程度の適切な認知をし、適応的で自己統制力も持ち合わせてはいるが、自己統制が弱まり易く主観的なため、否定的で極端な認知をして猜疑的になり他者や状況を正確に認知できない”という対人認知の傾向により、他者の困難場面や不安に容易に影響される共感性の「個人的苦痛」が高くなると推測された。

## 2). 社会的視点取得と対人認知傾向

第1研究の考察から、犯罪者は、価値観・認知に偏りがあり、欲求の制御力に乏しく、客観的に他者の立場に立って社会的に物事を捉えられないため、「社会的視点取得」が一般成人よりも低いことが示唆された。また、第2研究の考察を踏まえて対人認知の影響が社会的視点取得に与える影響を以下に検討した。

対人認知の研究において、好印象が持てる友人A(社交的で明るく周囲にもあなたにも優しい、気が合って楽しい、周囲はAを尊敬している)、悪印象が持てる友人B(自己中心的で周囲の空気が読めない非常識、あなたに対して悪口を言う、消極的で一緒にいるとストレス)の架空の友人を設定して、相手の印象により社会的なスキルの実行に違いがあるかを検討したものがあつた。その結果から、社会的スキルは相手の印象により使い分けられ、相手やその場の状況を考えて行動することや、相手に自分の感情を素直に表現することは、相手により実行しないことが示唆されている<sup>85</sup>)。

この様な研究から、架空ではあるが他者に対して良い悪いという印象を何らかの条件により持つことで、対人関係を円滑に運ぶために役立つ社会的スキルが変わってしまうことが言える。柔軟性がなく極端な認知であるため、正確な対人認知が出来ない犯罪者の観点から考えると、自身の感情や好意により容易に社会的スキルは変わってしまう事が推測される。よって、円滑に対人関係を運ぶために役立つ社会的スキルが変容し易い犯罪者にお

いては、他者や周囲の状況を理解し、他者に配慮することを考える「社会的視点取得」が低いと考えられる。

また、他者への印象形成においては、相手の発話や行動に触れるような時間がない時よりも十分な時間があつた場合に、自分の持つ印象には根拠があると判断する傾向があり、“相手の言動に触れる時間が十分にあつた場合に形成される印象は気分の影響を受ける”という報告がある<sup>86)</sup>。このように、他者に対する認知がその場の気分から影響を受け、さらに自分の他者への印象形成を肯定するならば、外部からの影響があつても気分が影響を受けない者は、一定した対人認知を行えるが、気分が変容しやすい者では、他者の評価がその時の気分に影響される。よつて、一定した対人認知が行えないまま主観的に判断することになるであろう。このような知見からも、影響を受けやすく気分が変わることは、対人認知に影響を与え社会的な行動にも関連すると考えられた。

さらに、対人感情における「認知過程の形成」は、個人が過去経験によつて形成している知識や環境を評価するために持っている認知次元によること、「対人感情の形成」は、自動的な処理様式に支えられているため意図的なコントロールが困難であると述べられている<sup>87)</sup>。これらから、他者への印象形成は、自身の経験や気分の影響を受ける主観的な認知が自動的に行われ、その認知により、他者に対する対応がなされていることが示唆されている。犯罪者が過去の経験により認知過程が偏つて形成されたならば、その認知を自動処理的に用いるため、極端な対人認知となることが推測される。

上記の知見や本研究で示された結果から考察すると、犯罪者は“ある程度の適切な認知をし、適応的で自己統制力も持ち合わせてはいるが、価値観・認知に偏りがあり、欲求の制御力に乏しく極端な認知をして猜疑的になりやすい。また、気分に影響され主観的な判断をするため、他者や状況を正確に認知できない”という対人認知の傾向があるため、他者やその周辺の状況について客観的に捉えられず、「社会的視点取得」に影響を及ぼすことが推測された。



## VI. 本研究の限界

本研究の限界の 1 つとして対象者の問題が考えられる。犯罪者として対象とした精神鑑定例は起訴前が多いので大半がまだ被疑者の者達であった。心神喪失である者を除外したので、量刑の程は分からないが、有罪になると予測される者達であるため本研究においては犯罪者として定義した。また、罪には問われはするが、精神鑑定を依頼されるような者であるため、刑事施設入所後の処遇や社会復帰後の困難さからも状態を知ることは、将来における処遇の一助となるため意義があるため対象とした。しかしながら、犯罪者として定義し得るが、刑事事犯者全体を代表する事例ではないことは否めない。今後は、精神鑑定例以外の刑事施設内に在所している者達への調査を検討したい。一方、一般成人においては、犯罪者の年齢と合う者達を選択した。学歴の程は精神鑑定例・一般成人共に分からないが、一般成人は生涯学習や文化サークルに所属していた者達なので、知的意欲が高いと考えられた。統制群についても検討が必要なのは同様であった。

研究の限界の 2 つ目は、使用した尺度の鳥獣戯画テストである。鳥獣戯画テストでは、3 枚の図版に、主人公・相手側の 2 通りの話を作成してもらうため、被験者は 6 つの話を作成することになる。想像して話を文章にするということは、得手不得手も勿論だが、実際には話を作成する能力があったとしても、意欲が低ければ視点取得を十分測れるほどの文章を作成しない可能性が考えられる。また、文章が少ないのは、防衛的・反抗的な側面の表れであったりもする。意欲の低さ・防衛的・反抗的な理由で文章が少ないことは、協調的に調査に関わっていないことが推測される。これは、他者の立場に立って協力が出来ていないとも考えられ、「視点取得」として低いことが予想される。このことから、文章の少なさには、“防衛的・反抗的・協調性のなさ”が含まれていると想像出来るが、それを分別することは不可能である。今後は、負担は少ないが、ある程度の話を作成してもらえようような教示の工夫をすべきであろう。

研究の限界の 3 つ目は、鳥獣戯画テストが社会的視点取得をどの程度測定していたかについてである。先行研究では、高次脳機能障害の言語性を測定するために開発されている

ので、話を語る、作成するということは開発された目的とは一致している。その後は、TAT との比較や MJPI (法務省式人格目録)・アルメニア課題など心理検査との比較がなされ、心理検査として用いられることへの知見は重ねられている。また、図版に描かれている登場動物の関係性から、対人関係や社会性などが表現されることも示唆され、本研究において社会的視点取得を測定できる可能性は大きいと考えられた。しかしながら、有用性は高いとされるが、鳥獣戯画テストはまだ発展途中の尺度であり、今後さらなる知見を積み重ねることが大きく期待される。

## VII. 本研究の展望

本研究は、増加し続ける再犯率の低下を期待して、攻撃性の抑制に関わるとされる共感性や視点取得、今回は特に社会性の観点から社会的視点取得を検討した。犯罪者は一般成人よりも共感性では個人的苦痛が高く、社会的視点取得は低いことが示され、「影響を受けやすい」、「感情統制や自己統制力の低さ」、「否定的で極端な認知」、「複雑な他者や状況の理解力の低さ」の問題がみられた。

犯罪を行わない、また、再犯しないためには、罪悪感が重要であるが、罪悪感共感的関心と視点取得の高さに関連し、気恥ずかしさは個人的苦痛の高さに関連することが報告されている<sup>88)</sup>。本研究においては、犯罪者も一般成人同様な共感的関心と視点取得であったので、愛他的傾向があり罪悪感もある程度持ち合わせていると考えられるが、個人的苦痛が高いことから気恥ずかしさが高く、動揺しやすい傾向が窺える。愛他的で他者の立場に立って物事を考えることが出来ても、容易に動揺し不安定になる要素が高ければ、結果として適応的ではない。社会に適応するある程度の能力を持っていたとしても、それを感情の不安定さのために発揮できなければ、結局は出来ないことと同じである。犯罪者において感情統制はやはり重要と考えられ、自分をいかに落ち着かせるかについて工夫することが望まれる。

近年においては、発達障害やパーソナリティ障害などを抱えた非行少年の処遇が多く見

られ、発達障害、薬物後遺症、統合失調症、解離性障害、他精神疾患、身体疾患などの問題があり、対人関係に困難を示す少年に、外面的な対人スキルだけではなく、内面的な共感性を高めるセッションについての報告がある。セッションに際して共感的な雰囲気になるように「他者の話には精一杯拍手をする、悪い点だけでなく、良い点を見つけるつもりで見ろ」などを意識しながら行うよう促すものである。また、具体的な場面を設定して複数の他者の関係性を考える「ロールプレイ」をし、他者の立場に立った「視点取得」や「社会的視点取得」を育てている<sup>89)</sup>。このような処遇も大変重要なものであり、今後も継続していくことが望まれる。

一方、犯罪者の特徴とされる、容易に感情的になるために不適応になる側面に対して、ロールプレイやセッション中のディスカッションを行うことで共感性の傾向は高まり、感情統制においても影響はあると考えられるが、感情を自身で制御するに至るには難しいであろう。近年、刑事施設や少年院において、マインドフルネス（呼吸瞑想やボディスキャンという自身の体に注意を払うなどをする）が実施され、その効果の報告がされるようになっている。一方、参加動機の低い者が、瞑想のようなマインドフルネスに取り組むことが難しいとも報告されている<sup>90)</sup>。療法に対する取り組みが難しい者ほど、本来はマインドフルネスなどの感情統制を促す療法が必要である。取り組みが困難なのは、反抗的な気持ち、瞑想などの方法に猜疑的、皆が静かに実施することに不安を感じるなど、本人でないと分からない些細だがどうしても我慢できない理由があるのであろう。犯罪者は「個人的苦痛」が高い傾向にあり、他者の不安や痛みで容易に自身が崩れてしまうのは、自分自身の脆弱さによるものである。しかしながら、それを直接認めることも出来ない彼らは、反抗や拒否をすることで対応している。

脆弱さ故の反抗や拒否への対応は難しいが、これには、育て直しのような安定した情緒を育む関わりが必要なのではないだろうか。施設内での処遇なので、時間も人手もないとは重々承知の上だが、小さな子供と一緒にお手伝いをするような、さりげない単純作業の共同をするなどの時間の共有が静かな安心を育むであろう。療法やいかにも処遇であると

いう方法では、処遇に困難を示す彼らにはハードルが高いとも考えられる。彼らの不安定さに寄り添うような、処遇とは呼べるかどうかは分からないが、その様な関わりこそが、日常の中で共感性を育むという本来の姿であると考えられる。それらを鑑みると、まずは他者に対応するスキルとしての共感性を刑事施設内で身につけ、社会内において保護観察対象となった場合は、社会という現実場面の中で、保護観察官や保護司などと人間味のある関わりから共感性を身につけることが望まれるであろう。施設内・社会内の両面において連続的な共感性への対応が必要である。彼らに安定が得られるような関わりが何であるかを今後においても検討したい。

## VIII. 結語

犯罪者の適応的な対人認知の側面と、否定的で極端な認知により猜疑的で主観的になる不適応な対人認知の傾向は、共感性の構成要素である個人的苦痛のみを高め、社会的視点取得の能力を低下させる要因の1つになると考えられた。本研究で得られた知見が、今後の矯正教育を円滑に行う一助となり、今後の処遇改善の検討に役立つものになることを期待する。

## IX. 引用文献

- 1) Andrews D A, Bonta J. The psychology of criminal conduct. 2nd ed. Anderson. 1998
- 2) 笠井達夫, 桐生正幸, 水田恵三, 編著. 犯罪に挑む心理学 Ver.2 —現場が語る最前線—  
京都: (株) 北大路書房, 2012:122-126
- 3) 第5編 再犯・再非行～再犯の現状と対策のいま～. 第1章 再犯・再非行の概要. 第1節 検挙 1 刑法犯により検挙された再犯者. 第3節 矯正. 1 再入者.  
犯罪白書平成 28 年度版
- 4) 朝比奈牧子, 藤岡淳子(編者). 第2章. 犯罪・非行の基礎理論. 2. 刑事政策的理論  
(3) 司法制度の4つの機能. 犯罪・非行の心理学. 有斐閣. 東京. 2007:26-27
- 5) 第2編 犯罪者の処遇. 第4章 成人矯正. 第2節 受刑者の処遇等. 3 矯正指導.  
平成 28 年版犯罪白書
- 6) 第2編 犯罪者の処遇. 第6章 各種犯罪者の処遇. 第6節 精神障害のある  
犯罪者. 4 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に  
関する法律. 平成 17 年度版犯罪白書
- 7) 犬塚石夫. 矯正心理学 (上巻:理論編) —犯罪・非行からの回復を目指す  
心理学—. 東京: 東京法令出版株式会社. 2004.
- 8) 森本志磨子, 藤岡淳子(編者). 第9章 犯罪者・非行少年の処遇システム. 2 関係機関  
の役割とその機能. 4 保護観察所. 犯罪・非行の心理学. 有斐閣. 東京. 2007:178-179
- 9) 第2編 犯罪者の処遇. 第5章 更生保護. 第2節 1 保護観察対象者に対する  
処遇. 平成 21 年度版犯罪白書
- 10) 法務省保護局. 保護観察所における性犯罪者処遇プログラム受講者の再犯等に関する  
分析. 法務省保護局. 2012.  
  
Retrieved from <http://www.moj.go.jp/content/000105239.pdf>
- 11) Baron R A, Richardson D. R. Human Aggression. New York. Plenum. 1994

- 12) Coccaro E F. Impulsive aggression and central serotonergic system function in humans An example of a dimensional brain-behavioral relationship. International Journal of Clinical Psychopharmacology. 1992;7:3-12
- 13) エイドリアン, レイン(高橋洋訳). 暴力の解剖学 —神経犯罪学への招待—. 東京. 紀伊国屋書店. 2015:108-131
- 14) Bandura A. Psychological mechanism of aggression. in R G Green. E I. Donnerstein(eds) Aggression Theoretical and Empirical Reviews Vol1. New York. Academic Press. 1983:1-40
- 15) 岡田博名. 桂田恵美子. なぜ人は攻撃するのか —攻撃性と愛着スタイル及び防衛機制との関連—. 関西学院大学心理科学研究. 2013:39;37-42
- 16) 川田裕次郎. 田中純夫. 杉浦幸ら. 中学生運動部員における反応的攻撃性と身体的状況認識および認知的共感性との関連. 順天堂スポーツ科学研究. 2007:11;49-57
- 17) Davis M H. (菊池章夫訳) Empathy: A social psychological approach. WestviewPress. 共感性の社会心理学 —人間関係の基礎—. 川島書店. 1999
- 18) Plutchik R. Evolutionary bases of empathy. In N. Eisenberg. J Strayer(eds.). Empathy and its development. New York. Cambridge University Press. 1987:38-46
- 19) 登張真穂. 多次元視点に基づく共感性研究の展望. 性格心理学研究. 2000:9;(1), 36-51
- 20) 桜井茂男. 多次元共感性尺度の構造と性格特性との関係. 奈良教育大学教育研究所 紀要. 1994: 30; 125-132
- 21) 岡本英生. 河野荘子. 非行少年の共感性の特徴について —多次元のアプローチによる検討—. 神戸大学発達・臨床心理科学研究. 2013:12;1-4
- 22) 河野荘子. 岡本英夫. 青年犯罪者の共感性の特性. 青年心理科学研究. 2013:25;1-11

- 23) 奥平裕美ら. 共感性と他者意識に関する研究. 中央研究所紀要. 2005:15;203-218
- 24) 出口保行. 大川力. エンパシククライムに関する研究(1). 犯罪心理学研究(特別号). 2004:42;140-141
- 25) Richardson D R. Hammock G S. Smith S M. et.al. Empathy as a cognitive inhibitor of Interpersonal aggression. Aggressive Behavior. 1994:20:275-289
- 26) 常岡充子, 高野陽太郎. 他視点取得の活性化による言語性攻撃の抑制. 社会心理学研究. 2012:27;93-100
- 27) 伊佐貢一. 好ましい人間関係を結ぶ力の育成 —思いやり育成プログラム (VIF:Vices of Love and Freedom)を適用した道徳授業を通して—. 教育実践研究 2005; 15: 145-150
- 28) 木下芳子. 役割取得能力の発達. 児童心理. 金子書房. 371 1977.
- 29) Selman R L. Social-Cognitive Understanding in Lickona, T. (Ed.) Moral Development and Behavior. Newyork:Holt 1976
- 30) 荒木紀幸. ジレンマ資料による道徳授業改革. —コールバーグ理論とその提案—. 明治図書. 1990: 201
- 31) Selman R L, Damon W. The necessity (but insufficiency) of social perspective taking for conceptions of justice at three early levels. In Depalma D, Foley J. (Eds) Moral Development. New York:wiley. 1974
- 32) 荒木紀幸. 役割取得検査マニュアル. トーヨーフィジカル. 福岡. 1987
- 33) 荒木紀幸. 松尾廣文. 中学生版社会的視点取得検査の開発. 兵庫教育大学研究紀要. 学校教育. 幼児教育. 障害児教育. 1992;4:63-86
- 34) 浜名外喜男. 対人認知. 小川一夫 (監修). 社会心理学用語辞典. 北大路書房. 1987
- 35) 栗林克匡. 相川充. シャイネスが対人認知に及ぼす影響. 実験社旗心理学研究. 1995:35(1);49-56
- 36) Weber. R. & Crocker. J. Cognitive Processes in the revision of stereotypic

- beliefs. *Journal Personality and Social Psychology*. 1983;45:961-977
- 37) Forgas, J.P. Mood and Judgement: The affect infusion Model (AIM). *Psychological Bulletin*. 1995;117:39-66
- 38) 斎藤明子. 対人嫌悪感情に対する社会心理学的研究. *九州大学心理学研究*. 2003;4:187-194
- 39) 山中一英. 対人関係の親密過程における関係性の初期分化現象に関する検討. *実験社会心理学研究*. 1994;34:105-115
- 40) 廣岡秀一. 山中一英. 対人認知次元構造化適変化に関する縦断的研究. *実験社会心理学研究*. 1997;37:37-47
- 41) 登張真穂. 青年期の共感性発達. 一多次元的視点による検討一. *発達心理学研究*. 2003;14:136-148
- 42) Minoshita S, Kurosu Y, Satoh S, et al. CHOUJU-GIGA TEST FOR GLIOMA PATIENTS-BRAIN FUNCTION FOR RECOGNITION/EXPRESSION OF AFFECTION AND EMOTIONAL LABELING-PROCEEDINGS : Society for Neuroscience 34<sup>th</sup> Annual Meeting, Convention Center, San Diego, CA, USA Tuesday, Oct, 26, Program No. 670.10. Abstract Viewer/Itinerary Planner. Washington, DC : Society for Neuroscience. 2004 Online.
- 43) 平間さゆり. 箕下成子. 佐藤親次. 小島秀吾. 精神鑑定時の心理検査における鳥獣戯画テストの有用性. *犯罪学雑誌*. 2012;78(3):75-76
- 44) 金子奈津美 鳥獣戯画テストの有用性について —Murray 版 TAT 図版との比較検証—川村学園女子大学大学院 人文科学研究科 心理学 修士論文 2006
- 45) 仲野聖代 非行少年の人格特性と鳥獣戯画テスト 川村学園女子大学大学院 人文科学研究科 心理学 修士論文 2007
- 46) 亀井崇 鳥獣戯画テストの有用性の検討 —高齢者のパーソナリティから—  
*愛知学院大学論叢 心身科学部紀要* 2008;3, 148



- 47) 岡本圭史, 簗下成子, 佐藤親次 鳥獣人物戯画絵巻より得た図版の特性ならびに神経心理検査への応用の可能性に関する研究 感情心理学研究 2008;15, 1, 24-32
- 48) 鱒川梓 鳥獣戯画テストの心理療法への応用について 愛媛大学大学院 教育学研究科 学校臨床心理 2010 修士論文
- 49) 平間さゆり, 簗下成子, 佐藤親次. 鳥獣戯画テストの有用性の検討. 犯罪心理学研究. 第51巻特別号. 発表論文集. 2013;51:100-101
- 50) ホフマン M.L. 菊池章夫・二宮克美 (訳). 共感性と道徳性の発達心理学. 一思いやりと正義とのかかわりでー 第1版 川島書店. 2001
- 51) 登張真穂. 多次元共感性尺度の確認的因子分析と向社会的行動尺度との関係. 日本パーソナリティ心理学会大会発表論文集. 2008: 17; 116-117
- 52) Btson, C. D. Bolen, M. H. Cross, J. A. Neuringer, Benefiel, H. E. Where is the altruism in the altruistic personality?. Journal of personality and Social Psychology. 1986:50;212-220
- 53) 小島弥生. 防衛的悲観性と賞賛獲得欲求・拒否回避欲求の関連. ー2つの承認欲求がともに強い人の特徴についてー. 埼玉学園大学紀要. 人間学部篇. 2011:11;67-74
- 54) Norem, J. K. Defensive pessimism, optimism, and pessimism. In E. C. Chang (Ed.) Optimism and Pessimism: Implications for Theory, Research, and Practice. Washinton D.C. American Psychological Association Press. 2001:77-100
- 55) Stotland, E. Mathews, K. E. Serman, S. E. Hansson, R. & Richardson, B. Z. Empathy, fantasy, and helping. Beverly Hills: Sage Publications. 1978
- 56) 上田鼓, 高木秀明. 青年期のアタッチメントと共感性及び自我状態との関連. 教育デザイン研究. 2016: 7; 15-22
- 57) 田中純夫, 水野基樹, 今野亮, 山田泰行, 杉浦幸, 菊池奈美. 高校生における逸脱行動と

- 共感性および暴力肯定感との関連. 順天堂スポーツ健康科学研究. 2005:9;21-32
- 58) 登張真稲. 青年期における他者志向的共感性発達の規定因の検討. 日本青年心理学会大会発表論文集. 2001:9;15-16
- 59 ) Davis.M.H.&Oathout.H.A. Maintenance of satisfaction in romantic relationships :Empathy and relational competence. Jouanal of Personality and Social Psychology. 1987:44;113-126
- 60) 登張真稲. 多次元的視点に基づく共感性研究の展望. 性格心理学研究 2001: 9(1);36-51
- 61) 大庭丈幸.西松能子.大平英樹. サイコパシー特性と多次元共感性. 人間環境学研究. 2013:11; 13-18
- 62) Davis.M.H. Oathout.H.A. The Effect of dispositional empathy on romantic relationship behaviors:Heterosocial anxiety as a moderating influence. Personality and Sociaal Psychology Bulletin.1992:18;76-83
- 63) Wise.P.S.&Cramer.S.H. Crrelates of empathy and cognitive style in early adlescece. Psychological Reports. 1988:63;179-192
- 64) Davis.M.H. Franzoi.S.L. Stability and change in adolescent self-consciousness and empathy. Journal of Research in Parsonality.1991:25;70-87
- 65) ゴットフレッドソン,ハーシー. (1990) 松本忠久 (訳). 犯罪の基礎理論. 文憲堂. 1996
- 66) 内藤俊史訳. 第1章「である」から「べきである」へ. 道徳の発達と教育. 永野重史 (編). 新曜社. 東京. 1985
- 67 ) Selman.R.L. Social-Cognitive Understanding. In Lickona.T(Ed.). Moral Development and Behavior. Newyork:Holt. 1976
- 68) 越智啓太 (編). 2 犯罪原因論 4 性格などの要因. 犯罪心理学 朝倉心理学講座 18 . 海保博之監修. 朝倉書店. 東京. 2005.

- 69) Swanson, D. W. Bohnert, P. J. & Smith, J. A. The Paranoid. Boston. Little Brown&Company. 1970
- 70) 越智啓太 (編) . 2 犯罪原因論 8 社会学的原因論. 犯罪心理学 朝倉心理学講座 18 . 海保博之監修. 朝倉書店. 東京. 2005.
- 71) 安香宏. 藤田宗和. 第 3 章 分析手順の実際. 臨床事例から学ぶ TAT 解釈の実際. 新曜社. 東京. 1997
- 72) 片口安史. 第 12 章 反応領域の意味づけ. 新・心理診断法 改訂 ロールシャッハ・テストの解説と研究. 金子書房. 2016
- 73) 芹野陽一. 非行少年のロールシャッハ反応について. 教育・社会心理学研究. 1960;1(1):96-99
- 74) 片口安史. 第 14 章 反応内容の意味づけ. 新・心理診断法 改訂 ロールシャッハ・テストの解説と研究. 金子書房. 2016
- 75) 中島啓之. TAT における「物語」の意味. 中京大学心理学研究科. 心理学部紀要. 2012;12(1);185-191
- 76) 安香宏. 藤田宗和. 第 1 章 いくつかの基本概念. 臨床事例から学ぶ TAT 解釈の実際. 新曜社. 東京. 1997
- 77) 犬塚石夫. 第 2 章 矯正心理学と矯正処遇. 矯正心理学 ー犯罪・非行からの回復を目指す心理学ー. 上巻. 理論編. 東京法令出版. 東京. 2004
- 78) 押切久遠. 犯罪者の認知傾向に関する研究. ーイラショナル・ビリーフに焦点を当ててー. 犯罪心理学研究. 2017;54(2);1-15
- 79) 岩崎初美. 石田弓. 原幸一. TAT 物語にみられる対人不安の表れ方の特徴について. ー自己肯定意識との関連からー. 徳島大学総合科学部. 人間科学研究. 2011;19;11-29
- 80) 平間さゆり, 簗下成子, 小島秀吾ら. 鳥獣戯画テストを用いた視点取得の測定の検討 川村学園女子大学大学院研究年報 2013;2, 19-37

- 81) 斎藤文夫. マアレー版 TAT による親殺し犯の人格特徴に関する一考察  
—原始的攻撃性と自己像に着目して—. 犯罪心理学研究. 2008:46(2);25-38
- 82) 磯部美良, 菱沼悠紀. 大学生における攻撃性と対人情報処理の関連.  
—印象形成の観点から—. パーソナリティ研究. 2007:15(3);209-300
- 83) 河野和明, 羽成隆司, 伊藤君男. 他者から嫌われることを避ける個人差.  
東海学園大学研究紀要. 人文科学研究編. 2014:19;155-165
- 84) 安斎順子, 小島秀吾. 第5講 主要刑法犯罪の心理. わかりやすい犯罪心理学. 文化書  
房博文社. 東京. 2010
- 85) 稲畑陽子, 原田素美礼, 境泉洋. 対人認知が社会的スキルに及ぼす影響.  
徳島大学総合科学部. 人間科学研究. 2012:20;1-11
- 86) 野田理世, 吉田俊和. 対人情報入力時の気分が対人認知に及ぼす影響:  
入力時間に制限を与えた場合の検討. 感情心理学研究. 2007:14(2);103-114
- 87) 高橋雅延, 谷口高士. 感情と心理学. —発達・生理・認知・社会・臨床の接点と新展開  
—. 北大路書房. 東京. 2009
- 88) 有光興記. 罪悪感, 羞恥心と共感性の関係. 心理学研究. 2006:77(2);97-104
- 89) 谷口肇, 岡田尊司. 共感性と社会的スキルの改善をめざしたグループセッション. ~3  
年間を振り返って~. 矯正教育研究. 2011:56;64-71
- 90) 向山結唯, 黒沢良輔. マインドフルネスの有効性について. —尺度作成の試み—.  
犯罪心理学研究. 発表論文集. 第53巻特別号. 2015;88-89

## X. 謝辞

本論文を作成するにあたり、長きにわたり支えて頂き、懇切なるご指導、ご鞭撻を賜りました国際医療福祉大学大学院の小島秀吾准教授に深謝の意を表します。良い環境のもとに研究させて頂き、さらに、想定以上に時間を要することになりましたが、温かく見守って頂いたことを心より感謝申し上げます。また、本研究についてご助言とご指導を頂きました、亀口憲治教授に深く感謝を申し上げます。

本研究の精神鑑定例の調査につきましては、筑波社会精神医学研究所の佐藤親次先生、ストレスケアつくばクリニックの伊藤きょう子先生、水海道病院の広幡小百合先生、宮本康史先生、三楽病院の山形晃彦先生、臨床心理士の山本佐知子先生、新治琴先生には快くご協力頂き、誠に有難うございました。さらに調査協力はもとより、分析においても快くご協力して頂いた臨床心理士の久保（北原）舞先生には、大変手間のかかる作業を共にして頂いたことを深謝いたします。また、鳥獣戯画テストを開発された川村学園女子大学の簗下成子教授においては、鳥獣戯画テストの使用を快諾して頂き、ご協力やご指導を頂いたことを厚く御礼申し上げます。

その他、研究の調査や本論文を作成するにあたり、ご協力頂いたすべての皆様に、深く感謝いたします。最後になりましたが、小島研究室の皆様には、有意義な意見交換や数多くのご協力を頂きまして本当に有難うございました。

XI. 資料 資料 1 : 多次元共感性尺度

共感性テスト

以下の質問に、自分がどうであるかを1～5までの数字に○つけてお答えください。

- 1、まったく当てはまらない      2、やや当てはまらない  
3、どちらでもない      4、やや当てはまる      5、非常に当てはまる

- |  |   |   |   |   |   |
|--|---|---|---|---|---|
| 1、困っている人がいたら助けたい。                          | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2、体の不自由な人やお年寄りに何かしてあげたいと思う。                | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3、心配のあまりパニックにおそわれている人を見ると<br>何とかしてあげたくなる。  | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4、落ち込んでいる人がいたら、勇気づけたい。                     | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5、悲しい体験をした人の話を聞くと、つらくなってしまう。               | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6、他人をいじめている人がいると、腹が立つ。                     | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7、ニュースで災害などにあった人などを見ると、同情してしまう。            | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8、困っている人を見ても、それほどかわいそうと思わない。               | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9、私は身近な人が落ち込んでいても、何も感じない事がある。              | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10、いじめられている人を見ると、胸が痛くなる。                   | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 11、友達がとても幸せな経験をしたことを知ったら、私までうれしくなる。        | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 12、人から無視されている人のことが心配になる。                   | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 13、人が冷たくあしらわれているのを見ると、私は非常に腹が立つ。           | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 14、急に何かが起こると、どうしていいかわからなくなる。               | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 15、周りの人が感情的になっていると、どうしていいかわからなくなる。         | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 16、すぐに助けてあげないといけない人を見たら<br>どうしていいかわからなくなる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

- 17、泣いている人を見ると、私はどうしたらいいかわからなく  
なつて困つてしまう。 1 2 3 4 5
- 18、ころんで大けがをした人を見ると、そこから逃げ出したくなる。 1 2 3 4 5
- 19、けがをして、痛そうにしている人を見ると、気持ちが悪くなる。 1 2 3 4 5
- 20、小説を読むとき、登場人物の気持ちになりきつてしまう。 1 2 3 4 5
- 21、ドラマや映画を見ると、自分も登場人物になつた  
ような気持ちで見ることが多い。 1 2 3 4 5
- 22、本を読むときは主人公の気持ちを考えながら読む。 1 2 3 4 5
- 23、おもしろい物語や、小説を読むと、そのようなことが自分  
起こつたらどのように感じるか想像する。 1 2 3 4 5
- 24、テレビゲームの主人公になりきるのが好きだ。 1 2 3 4 5
- 25、テレビや映画を見た後は、自分が登場人物の一人のように感じる。 1 2 3 4 5
- 26、誰かを批判するより前に、自分がその立場だったらどう  
思うかを想像する。 1 2 3 4 5
- 27、怒っている人がいたら、どうして怒っているのだらうと想像する。 1 2 3 4 5
- 28、友達の目からは物事がどう見えるだらうと  
想像し、理解しようとする。 1 2 3 4 5
- 29、誰かに対し、腹が立つたら、しばらく  
その人の立場に立つてみようとする。 1 2 3 4 5
- 30、この人は不安なのだなというように、  
人がどう感じているかに敏感な方だ。 1 2 3 4 5

1~13：共感的関心、14~19：個人的苦痛、20~25：ファンタジー、26~30：視点取得

資料 2：鳥獣戯画テスト

第一図版

図版をみて、登場動物の様子から自由にお話を作って書いて下さい。最初に、主人公を決めて（主人公に○を付けて下さい）、主人公の立場からのお話を作ってください。そして次に、相手側の立場に立ってお話を作ってください。



主人公側の話

相手側の話



## 第二図版

図版をみて、登場動物の様子から自由にお話を作って書いて下さい。最初に主人公を決めて(主人公に○を付けてください)、主人公の立場からのお話を作って下さい。そして次に、相手側の立場に立ってお話を作って下さい。



主人公側のお話

相手側のお話

### 第三図版

図版をみて、登場動物の様子から自由にお話を作って書いて下さい。最初に主人公を決めて(主人公に○を付けて下さい)、主人公の立場からのお話を作ってください。そして次に、相手の立場に立ってお話を作って下さい。



主人公側の話

相手側の話

< 図版 1 >

- 1 点：主人公がたてられない。
- 2 点：主人公はおり、主人公の視点からの話は書けている。
- 3 点：主人公と相手はいる話になっている。
- 4 点：主人公視点での話は出来ており、相手側の話も主人公の視点で書いている。(主人公と相手の視点が明確に分かれ表現されているが、それを主観的にとらえているもの。)
- 5 点：主人公・相手の視点を明確に分けて各々の視点から表現されている。(二者間の視点取得)

< 図版 2 >

- 1 点：主人公がたてられない。
- 2 点：主人公はおり、主人公の視点からの話は書いている
- 3 点：三者の視点ではなく、二者間の視点を分けた話を各々書いている。(二者間の視点取得)
- 4 点：三者の視点は分けた話になっているが、主人公側からの視点でそれを表現している。  
(三者の視点は明確に分かれてるが、それを主観的に書いている。)
- 5 点：三者が明確であり、各々の視点から表現されている。(三者間の視点取得)

< 図版 3 >

- 1 点：主人公がたてられない。
- 2 点：主人公はおり、主人公の視点からの話は書いている。

3点：主人公と集団の話ではないが、二者間の視点を分けた話をそれぞれ書いている。

（二者間の視点取得）

4点：主人公と集団の話ではあるが、主人公側の視点からのみで書かれ、集団側からの視点の表現ではない。（主人公、集団の話を主観的に書いている、または三者間の視点取得）

5点：主人公の視点と集団視点が分かれており、各々の視点が明確に表現されて書かれている。（4者以上の集団の視点取得）

資料 4：犯罪者と一般成人の対人認知傾向の分類

犯罪者の話の分析（1～7 男性, 8～14 女性）

	ラベル化	個人の対人関係 分析の切片化	各図版のお話の対人関係分析
犯 1	「自己主張」 「他者配慮」 「他者敏感」 「被害的」 「可塑性」 「協調的」 「援助的」 「否定的」	・承認欲求が/あり、 自他ともに迷惑を かける/ことに敏感 /で、可塑性/があり 他者に協調的/・援 助的/だが、困難な 状況に対応出来な いと考える傾向。	図版 1：対人関係においては、他者に自分を認め てもらふことを意識しやすいが、他者へ気遣いをす る傾向が窺えた。  図版 2：対人関係においては、他者に迷惑をかけ ることを意識しやすく、迷惑行為を許せないが、素 直に謝ればそれを認める傾向が窺えた。  図版 3：対人関係においては、困難な状況になる ことを意識しやすく、他者と協調的に困難を乗り越 えようとする傾向もあるが、他者と同じようにガ ジティブに考えられない傾向が窺えた。
犯 2	「適切・柔軟な 対応」 「他者敏感」 「同一化」 「不適応」 「被害的」 「攻撃的」	・良好な対人関係を 築こうとする/が、 他者を過度に意識/ したり同一化/する ため、不安定になり 被害的で攻撃的な 傾向。	図版 1：対人関係においては、両方がともに同じ 状況であると意識しやすく、他者と自分を同一視し やすい傾向が窺えた。  図版 2：対人関係においては、他者と良好な関係 を保とうとする傾向は窺えるが、他者に対してどん な気持ちや考えがあるのかを詮索し過ぎる傾向が 窺えた。  図版 3：対人関係においては、周囲の他者全てが 気になってしまうので、過度に他者を意識して不安 定になり、被害的で攻撃的な傾向が窺えた。

<p>犯 3</p>	<p>「他者との違い」 「援助的」 「拒否的」 「アンビバレント」 「安定志向」 「不適応」</p>	<p>・能力差など他者と比較/しやすく、他者を守りたい、受け入れられない/などアンビバレントな感情/を持つため、自分と同じ相手には安心/できるが、受け入れられない相手には対人関係に不適応が生じる傾向。</p>	<p>図版 1：対人関係においては、他者との比較を意識し、能力差などの上下関係の視点を持つ傾向と、努力により他者との関係を変えようとする傾向が窺えた。</p> <p>図版 2：対人関係においては、他者にアンビバレントな感情を持つ傾向にあるが、他者を守りたいと考える傾向も窺えた。</p> <p>図版 3：対人関係においては、自分と同じか類似した者でないと、安心できない傾向があり、自分が受け入れていない他者に合わせることは難しい傾向が窺えた。</p>
<p>犯 4</p>	<p>「仲間意識」 「援助的」 「回避的」 「固定概念」 「排除的」 「攻撃的」</p>	<p>・仲間意識/が強い ため困っている仲間を助けよう/とし、争い事は避けよう/としているが、仲間との結束を重視し過ぎ/て、排除的/で攻撃的な対応をする傾向。</p>	<p>図版 1：対人関係においては、他者との争い事を避けようとする傾向はあるが、危機的な状況においては他者との争いも仕方ないと考える傾向が窺えた。</p> <p>図版 2：対人関係においては、他者が困っていることを意識しやすく、他者を助けるために努力する傾向が窺えた。</p> <p>図版 3：対人関係においては、他者との仲間意識が強く、その結束をまもるためには、排除など厳し過ぎる対応をする傾向が窺われた。</p>
<p>犯 5</p>	<p>「プライド」</p>	<p>・自尊心があり/ 他者や自分の迷惑</p>	<p>図版 1：対人関係においては、自尊心はあるが、他者との力関係を意識しやすく、自分よりも力が上</p>

	<p>「批判的」</p> <p>「他者敏感」</p> <p>「可塑性」</p> <p>「勸善懲惡」</p> <p>「適切・柔軟な対応」</p> <p>「他者との違い」</p> <p>「上下関係」</p>	<p>や間違いを意識し</p> <p>やすい/が、大きな力により正され/、</p> <p>問題が解決し良好な関係を築こうとする傾向/を持ち、</p> <p>他者と能力差を意識/して自分より上の者には従う傾向。</p>	<p>の者には素直に従い改心する傾向が窺えた。</p> <p>図版 2：対人関係においては、他者に迷惑をかけることを意識しやすく、その様な者は大きな力により変えられてしまう方がよいと考える傾向が窺えた。</p> <p>図版 3：対人関係においては、間違いを認め許す許されることを意識しやすく、問題が解決すれば仲間として受け入れてもらえると考えられる傾向が窺われた</p>
犯 6	<p>「他者との違い」</p> <p>「被害的」</p> <p>表面的に捉える⇒</p> <p>「主観的」</p> <p>「不適応」</p> <p>「協調的」</p>	<p>・能力差/や他者から被害を受ける事を意識しやすい/が深く推察できずに表面的に物事を捉える/傾向と、圧倒的な力にどうしたらいいか分からない/が、他者と協力して解決しようとする傾向。</p>	<p>図版 1：対人関係においては、力関係を意識しやすく自分と比べて圧倒的な力の差があると、その他者にはかなわないので、どうしたらいいか分からなくなる傾向が窺えた。</p> <p>図版 2：対人関係においては、他者から被害を受けないかを意識しやすく、不満をそのままには出来ずに他者と協力して解決しようとする傾向が窺えた。</p> <p>図版 3：対人関係においては、その場の状況や他者との関係を、見た状況のまま捉えてしまい、その状況の裏にどんな事情があるかなどを推測することが苦手な傾向が窺えた。</p>
犯 7	<p>「他者との違い」</p>	<p>・他者と自分を比較し/上下関係を受け入れにくい/が上</p>	<p>図版 1：対人関係においては、他者との力などの上下関係を意識しやすく、力がある者に従わざる負えないと考える傾向が窺えた。</p>

	<p>「服従的」</p> <p>「上下関係」</p> <p>「拒否的」</p> <p>「回避的」</p> <p>「不適応」</p>	<p>には従うしかない と考える/傾向と、 人数が増え状況が 複雑になるような 苦手な場面は、積極 的に関わらない傾 向。</p>	<p>図版2：対人関係においては、他者と自分を比較しやすく、自分よりも上の存在を受け入れるににくい傾向が窺えた。</p> <p>図版3：対人関係においては、人数が多くなったり、場の状況が複雑になったりと、何かの負荷されることが苦手な傾向にあり、苦手なことは積極的に関わらない傾向が窺えた。</p>
犯8	<p>「親族関係」</p> <p>「異性関係」</p> <p>「主観的」</p> <p>「衝動的」</p> <p>「適切・柔軟な 対応」</p> <p>「不適応」</p>	<p>・主観的/で衝動的に行動する為、他者に理解してもらいにくい/傾向と、他者と良好な関係を築こうとする/傾向にあるが、異性への強い関心/と非現実的な考え方にあるため、実際は不良な対人関係傾向。</p>	<p>図版1：対人関係においては、異性への関心が強く積極的で、深く考えずに行動する傾向が窺えた。</p> <p>図版2：対人関係においては、親子関係を意識し、他者に対して衝動的で主観的な捉え方をする傾向にあるため、他者からは、考えていることを理解してもらいにくい傾向が窺えた。</p> <p>図版3：対人関係においては、他者と良好な関係を保とうとする傾向にあるが、異性への関心や非現実的な状況に関心がある傾向がみられ、協調的なつもりでも主観的になりやすい傾向が窺えた。</p>
犯9	<p>「他者との 違い」</p> <p>「適切・柔軟な 対応」</p> <p>「他者敏感」</p>	<p>・他者との能力差/を受け入れて良好な関係を保とうとする/が、他者との関係が崩れることを意識しやすい/傾</p>	<p>図版1：対人関係においては、他者との力関係を意識しやすい傾向にはあるが、その力関係を素直にそのまま受け止める傾向が窺えた。</p> <p>図版2：対人関係においては、他者と良好な関係を保とうとするが、些細な刺激がきっかけで、他者との関係が崩れることを意識する傾向が窺えた。</p>



	<p>「不適応」</p> <p>「傍観的」</p>	<p>向と、困難な状況では、他者に配慮できず/皆がそれぞれ自分のことで精いっぱいだと考える傾向。</p>	<p>図版3：対人関係においては、何らかの困難な場面になった時に、他者と協同して援助的なことを考えるよりも、それぞれが自分のことで精一杯なのであると捉える傾向が窺われた。</p>
犯 10	<p>「他者との違い」</p> <p>「安定志向」</p> <p>「努力」</p> <p>「援助的」</p> <p>「アンビバレント」</p>	<p>・他者との能力差など違いを意識しやすい/が、同じでないで安心できない/ため努力を/して差をなくそうとする傾向と、他者に援助的/だが信頼と疑いの葛藤を持つ傾向。</p>	<p>図版1：対人関係においては、他者とライバルであることを意識しやすく、能力差が有っても努力と工夫で乗り越えられると考える傾向が窺えた。</p> <p>図版2：対人関係においては、他者と自分に違う所があるかを意識しやすく、同じでないで安心が出来ないため、自分の落ち着く状況を保とうとする傾向が窺えた。</p> <p>図版3：対人関係においては、他者をよく観察し援助的な傾向と、他者を疑う気持ちと信頼したい気持ちなどの葛藤を持つ傾向が窺えた。</p>
犯 11	<p>「努力」</p> <p>「他者敏感」</p> <p>「適切・柔軟な対応」</p> <p>「排除的」</p> <p>「拒否的」</p>	<p>・他者と争いや競うことで努力することを意識しやすい/が、/良好な関係を持とうする/傾向と、他者からの不利益な問題に敏感/で、自分を守る努力</p>	<p>図版1：対人関係においては、争うことを意識しやすく、努力をし続けることに意味があると考えられる傾向が窺えた。</p> <p>図版2：対人関係においては、他者から自分に不利益なことが起こされることを意識しやすく、自分を守るために対応する傾向が窺えた。</p> <p>図版3：対人関係においては、他者と良好な関係を保とうとする傾向や、他者の様子をポジティブに</p>

		を する 傾向。	捉 える 傾向 が 窺 えた。
犯 12	「他者との違い」 「拒否的」 「自己主張」 「共有願望」 「援助的」 「適切・柔軟な対応」	・他者に追い抜かれる/こと、不快な出来事を耐えることを受け入れにくいため/、自分の不満を主張する/傾向と、他者と同じでありたいと望み/、困っている他者に援助的な傾向。	図版 1：対人関係においては、自分よりも下であると思っていた者が力をつけ、自分よりも優ってしまうことを意識しやすく、追い越されてしまう事を受け入れられない傾向が窺えた。 図版 2：対人関係においては、他者からの不快な行為にはある程度は耐えることが出来るが、他者の悪意の有無にかかわらず、自分の不快さを主張する傾向が窺えた。 図版 3：対人関係においては、他者と同じでありたいと望む傾向と、困った他者に援助的な傾向が窺えた。
犯 13	「他者との違い」 「努力」 「援助的」 「適切・柔軟な対応」 「他者敏感」 「安定志向」 「回避的」 「後悔」	・能力差はあっても/努力する過程を重視/し、困っている他者に援助的/で、良好な対人関係を保とうとする/傾向と、他者からの不快な影響に敏感/で、安心を保つため/の努力を惜しまず/後悔したり失敗は避ける傾向。	図版 1：対人関係においては、他者との能力差や勝敗を意識しやすいが、勝ち負けだけではなく、努力する過程も重要であると考えたり後悔する傾向が窺えた。 図版 2：対人関係においては、他者から不快な影響を受けることを意識しやすく、自分の安心を保つためには努力をいとわない様子や、失敗をしたことは避けようとする傾向が窺えた。 図版 3：対人関係においては、困っている他者を意識しやすく、援助的で他者との関係を良好に保とうと考える傾向が窺えた。

<p>犯 14</p> <p>「他者との違い」</p> <p>「上下関係」</p> <p>「被害的」</p> <p>「自己中心的」</p> <p>「回避的」</p> <p>「可塑性」</p> <p>「適切・柔軟な対応」</p>	<p>・他者との違い/や上下関係を意識/しやすく、他者の関係を修復しようとする/傾向と、被害意識が強く/自分中心なため極端に他者と食い違うが、仲直りをしたりと問題を解決して要領よく対応する傾向。</p>	<p>図版 1：対人関係においては、他者と自分とのずれを意識やすく、極端に食い違うことが起こる傾向が窺えた。</p> <p>図版 2：対人関係においては、他者からの被害を受けることを意識しやすく、問題が生じると自己中心的に要領よく回避的に対応する傾向が窺えた。</p> <p>図版 3：対人関係においては、他者との関係を修復することや他者との上下関係を意識しやすい傾向が窺えた。</p>
---	---	---

一般成人男性の話の分析

	<p>切片をラベル化</p>	<p>個人の対人関係の傾向と切片化</p>	<p>各図版の対人関係分析</p>
<p>一般 1</p>	<p>良好⇒「適切・柔軟な対応」</p> <p>「客観性」</p> <p>「距離感」</p>	<p>他者と自分にとって適度な距離を保ち、客観的で/良好な関係を築こうとする傾向。</p>	<p>図版 1：対人関係においては、他者と良好な関係を築こうとする傾向と、客観的に関係を捉える傾向が窺えた。</p> <p>図版 2：対人関係においては、他者との関わりはあるが、深く関わることに積極的ではなく、他者との距離を自分の適度な状態にする傾向が窺がえた。</p> <p>図版 3：対人関係においては、他者とのかかわりをあまり重く受け止めずに、気楽に、程よい距</p>

			離感を持って関わる傾向が窺えた。
一般 2	良好⇒「適切・柔軟な対応」  「援助的」  「価値観」  「合理性」	援助的で/他者と良好な関係を築こうとする傾向と/  他者の立場や価値観を重視し/  状況に合う行動を意識する/傾向。	図版 1：対人関係においては、良好な関係を築こうとする傾向が窺えた。  図版 2：他者の心理的な側面よりも、他者の立場や価値観を重視して、それぞれの立場でその状況に合った行動がとれているかということに関心がある傾向が窺がえた。  図版 3：対人関係においては、他者に援助することやされることについて、あまり躊躇なく考えられる傾向があることが窺えた。
一般 3	良好⇒「適切・柔軟な対応」  「友人関係」  「協調的」  「援助的」  「自己抑制」  「他者配慮」	協調的/・援助的で/他者を喜ばそうと良好な対人関係を築こうとする/傾向と、自分本位にならぬよう配慮/する傾向。	図版 1：対人関係においては、他者を喜ばそうと努力し、良好な関係を築こうとする傾向が窺えた。  図版 2：対人関係においては、皆との関わりの中では、無自覚に悪気なく自分本位になることがあることに着目し、それが他者を困らせているかに関心がある傾向が窺がえた。(友人関係)  図版 3：対人関係においては、他者が困っているかなどを意識しやすく、協調的に他者を援助しようとする傾向が窺えた。
一般 4	良好⇒「適切・柔軟な対応」  過敏⇒  「他者敏感」	他者と良好な関係を築こう/と過敏で/主観的に捉える/傾向と、年長者や	図版 1：対人関係においては、他者と良好な関係を築こうとする傾向は窺えるが、他者の気持ちよりも主観的な視点が優位な傾向が窺えた。  図版 2：対人関係においては、他者との良好な

	<p>「主観的」</p> <p>「上下関係」</p> <p>「年功序列」</p>	<p>立場が上である者に配慮する/傾向。</p>	<p>関係を保つことに重視するため、その様な関係を見つけることに過敏で、他者との良好な関係を保守しようと努力する傾向が窺がえた。</p> <p>図版 3：対人関係においては、年長者や立場が上で権威がある者に対して、配慮することを意識する傾向が窺えた。</p>
一般 5	<p>「協調的」</p> <p>良好⇒「適切・柔軟な対応」</p> <p>他者との区別⇒「距離感」</p> <p>「警戒心」</p>	<p>協調的で/他者と良好な関係を築こうとする/傾向と、他者と自分を区別し/、他者に対し警戒的で注意深い/傾向。</p>	<p>図版 1：対人関係においては、他者と良好な関係を築こうとする傾向は窺がえるが、他者と自分の気持の違いをはっきりと意識しやすい傾向が窺えた。</p> <p>図版 2：対人関係においては、他者が大切にしている物ごとに関心があり、大事なものは他者に奪われやすいことを意識しやすく、そのため、他者に注意深い傾向が窺えた。</p> <p>図版 3：対人関係においては、他者の小さな問題にもよく気づき、その問題に積極的に関わろうとし、自分の出来る事なら協力しようとする傾向が窺えた。</p>
一般 6	<p>「客観性」</p> <p>「対人以外の興味」</p> <p>「他者尊重」</p> <p>「協力」</p>	<p>客観的で/非現実的な事への関心があり/、他者の考えを尊重する/傾向と、協力/して合理的/で適切な対人関係</p>	<p>図版 1：対人関係においては、他者とは物の見方がそれぞれ違うということを意識しやすい傾向が窺えた。</p> <p>図版 2：対人関係においては、他者との間で問題が生じた場合、問題や他者との距離において、自分の行動の方針を考える傾向が窺がえた。</p>

	<p>「合理的」</p> <p>「適切・柔軟な対応」</p>	<p>を築こうとする/傾向。</p>	<p>図版 3：対人関係においては、何かの能力で特別や唯一であることに関心があり、自分の身の回りの問題より、非現実的で大きな世界観を持ち、自分と同様な立場や思考にある者と協力して物事や問題を解決しようとする傾向が窺えた。</p>
一般 7	<p>「他者との違い」</p> <p>「立場」</p> <p>「他者敏感」</p> <p>信頼に時間がかかる⇒</p> <p>「警戒心」</p> <p>マイペース⇒「自己中心的」</p>	<p>他者との能力差や立場の差/などを過敏に意識しやすい/ため信頼に時間がかかる傾向/と、他者に合わせられずマイペースな/傾向。</p>	<p>図版 1：対人関係においては、他者と自分の仲間たちの特徴や能力の違いを意識しやすく、立場を意識しやすい傾向が窺えた。</p> <p>図版 2：対人関係においては、自分では気づかぬうちに、他者を自分のペースに巻きこんでしまう傾向が窺がえた。</p> <p>図版 3：対人関係においては、他者やその場面の状況や雰囲気を感じ察して適合することを意識しやすいが、内面では、他者を信頼することに慎重で、他者と馴染むのに時間がかかる傾向が窺えた。</p>
一般 8	<p>「被害的」</p> <p>「他者敏感」</p> <p>「因果応報」</p> <p>「警戒心」</p> <p>「本質重視」</p> <p>「反省」</p> <p>「可塑性」</p>	<p>・他者から自分に被害を受けることに過敏で報復的な傾向と/、他者を信頼できずに警戒/する傾向と、反省する/他者を許し物事の本質をみて関わる</p>	<p>図版 1：対人関係において、不当・不快な扱いを受けると、それに報復する様子が表現されていた。</p> <p>図版 2：対人関係においては、他者を信頼することに警戒しやすい傾向があり、対人関係にストレスを持ちやすい傾向が窺えた。</p> <p>図版 3：対人関係においては、何か問題が生じた際に、物事の本質を見てよりよい判断をしよう</p>

		う/とする傾向。	とすることや、間違いを認め反省する他者を受け入れようとする傾向が窺えた。
一般 9	「警戒的」 「距離感」 「他者との違い」 「合理的」	他者に警戒的/で距離をおいて表面的な対応をする/傾向と、能力差に注目しやすく/その場の状況に合理的/に対応する傾向。	図版 1：対人関係において、他者と距離をおいて、表面的な対応をとる傾向が窺がえた。 図版 2：対人関係においては、強者と弱者という力関係に注目しやすいことや、他者とのトラブルに敏感で、巻き込まれないように警戒する傾向が窺えた。 図版 3：対人関係においては、色んな状況下では、その時々で出来る事と出来ない事があり、それぞれの立場ごとに様々な思いがあっても、合理的な判断をする傾向が窺えた。
一般 10	「適切・柔軟な対応」 「可塑性」 「反省」 「価値観」	他者の間違いを許して/相手が良い方向に変わることが期待する傾向/と、他者との価値観や考え方が違う/事を注意する傾向。	図版 1：対人関係においては、自分の間違いを素直に認める傾向と、他者の間違いも許して認める傾向が窺えた。 図版 2 対人関係に置いては、他者との価値観や考えの違いから、大きなずれが生じる可能性があることに注意し反省する傾向が窺えた。 図版 3：対人関係においては、他者との間で問題が生じても、相手が良い方向に変わることが信じて、その様に促す傾向が窺えた。
一般 11	「他者との	他者に比較され	図版 1：対人関係において、他者と比較される

	<p>違い」</p> <p>「適切・柔軟な対応」</p> <p>「他者敏感」</p> <p>「配慮不足」</p>	<p>ること/を気にせず</p> <p>良好な関係を保とうとする/傾向と、</p> <p>他者との関係がどう映るかを気にして表面的な事に注目しやすい/傾向</p>	<p>ような競争的な状況においても、他者に敵意的な気持ちを向けずに、穏やかに自分の等身大の能力に満足して、良好な関係を保つ傾向が窺がえた。</p> <p>図版 2：対人関係においては、他者と良好な関係を維持しており、その関係が周囲からどのように見られているかに気遣う傾向が窺えた。</p> <p>図版 3：対人関係においては、相手の様子などを見る時に、目で見える表面的なことを捉えがちで、側面まで深く考慮しない傾向にあることが窺えた。</p>
一般 12	<p>「不適応」</p> <p>「配慮不足」</p> <p>「立場」</p>	<p>問題に気付かなく、その場を総合的に客観的に捉えられない/傾向と、</p> <p>他者に素早く対応するが、立場など表面的な物事/で判断する傾向。</p>	<p>図版 1：対人関係においては、相手には素早く対応するが、表面的な物事だけで判断する様子が表現されていた。</p> <p>図版 2：対人関係においては、他者から見て問題と思う様なことでも、常習的に捉えて受け入れてしまう傾向が窺えた。</p> <p>図版 3：対人関係においては、いは、その場の状況を総合的に見るよりも、各々の立場がどうかを基に考え傾向にあることが窺えた。</p>
一般 13	<p>「自己主張」</p> <p>「事なかれ主義」</p> <p>「上下関係」</p> <p>「他者との違</p>	<p>自分を理解してもらおうとはする/が、他者とはことなかれ主義/の対応で、能力や権力など</p>	<p>図版 1：対人関係においても、相いれない他者に、自分を理解してもらおうと努力をするが、その限界を感じてしまうと、あっさりと離れてしまう様子が表現されていた。</p> <p>図版 2：対人関係においては、自分のことにつ</p>



	い」	の上下関係/を意識して対等な関係ではない/とする傾向。	いては、良くないことは良くないと考えるが、他者には事なかれ主義の傾向が窺えた。  図版 3：対人関係においては、権力、能力、年齢など何らかの上下関係を意識しやすく、下の者は上の者に尽くすものであり、対等な関係ではないと考える傾向が窺えた。
一般 14	「自己中心的」 「被影響性」 「不適応」 「他者との違い」 「年功序列」 「努力」	自分が正しいと思う事を通そうとする自己中心的な/傾向があるため、不快・困難な事に混乱しやすく/、能力差を意識する傾向。	図版 1：対人関係においては、お互いの気持ちの違いがあり、自分が不快だと感じることには敏感で、そのことに気持ちが乱されてしまう傾向が窺がえた。(年功序列)  図版 2：対人関係においては、自分が正しいと思うことに忠実であろうとする様子があり、それにより、無計画なため他者から妨害が入ることもあるが、出来るだけ分の考えを通そうと努力する傾向が窺えた。  図版 3：対人関係においては、年齢の差を意識しやすく、年齢などによる能力差を考えて物事にあたる傾向が窺えた。
一般 15	「他者との違い」 「他者敏感」 「不適応」 「依存的」 「因果応報」	他者との違い/に敏感/で、他者に合わせはするが実際は間違っている者は罰を受けるべきだと受け入れにく	図版 1：対人関係においては、他者と自分との違いに関心が強く、他者を受け入れにくい傾向が窺がえた。  図版 2：対人関係においては、自分と他者との違いに敏感で、他者に合わせているが、自分が他者を受け入れるかどうかの方が気になり、受け入

		い/傾向があり、自分とは違う未知の要素を持っている他者に頼る傾向。	<p>れられない場合は厳しい対応をする傾向が窺えた。</p> <p>図版 3：対人関係においては、人知を超えた事に興味があり、何か不思議で自分の知らない未知の要素を持った人物に関心があり、自分とは違う力を持つその未知なる者に頼ろうとする傾向が窺えた。</p>
一般 16	「協調的」 「平等」 「他者配慮」 「適切・柔軟な対応」 「被影響性」	大勢の他者とも 協調的/に誰とでも 公平に向きあえる/ 傾向と、好奇心が強 いため想定外の他 者から影響を受け る傾向	<p>図版 1：対人関係においては、好奇心が強くて予想がつかない他者に影響を受けてしまう傾向が窺がえた。</p> <p>図版 2：対人関係においては、もうすでに仲間関係が出来ているところへでも躊躇せずに入れ、また、仲間に入れることも躊躇なく出来ているので、自分と他者の隔たりがなく、誰とでも公平に向き合える傾向が窺えた。</p> <p>図版 3：対人関係においては、大勢の他者がいる場合、それぞれが協調的に関連するように配慮しようとする傾向にあることが窺えた。</p>
一般 17	「努力」 「上下関係」 「他者配慮」 「他者との違い」 「自己主張」	何かに頑張り/自 分よりも上の存在 の他者に配慮し従 う傾向/と、自分と 違う意見の他者に 主張的な傾向	<p>図版 1：対人関係においては、自分よりも力の上だと思ふ者には従わざる負えないと考える傾向が窺えた。</p> <p>図版 2：対人関係では、自分の信じることや力のある者に合わせることや、自分と違う意見を持つ者へ主張する傾向が窺えた。</p>

			<p>図版 3：対人関係においては、仕事などの何かに頑張り努力している者への労りを持ち、休息などの癒しを配慮する傾向が窺えた。</p>
一般 18	<p>「他者との違い」</p> <p>「上下関係」</p> <p>「適切・柔軟な対応」</p> <p>「事なかれ主義」</p>	<p>他者との能力差/や上下関係を意識しやすい/傾向と、</p> <p>理不尽でもその場の状況に合わせよう/と建前と本音/となる傾向。</p>	<p>図版 1：対人関係においても、他者に対する能力差に関心があり、自分が下した評価を守る傾向が窺えた。</p> <p>図版 2：対人関係においては、強者弱者、権力などの上下関係を意識しやすく、強者からの理不尽な要求に振り回されるような傾向が窺えた。</p> <p>図版 3：対人関係においては、その場の状況に合わせることも合わせようとする傾向や、建前と本音のような違いを持つ傾向が窺えた。</p>
一般 19	<p>「価値観」</p> <p>「適切・柔軟な対応」</p> <p>「回避的」</p> <p>「拒否的」</p> <p>「年功序列」</p>	<p>自分の価値観/による正論を持ち、配慮的に他者に関わりようとする/傾向と、他者を受け入れることが難しい/傾向。</p>	<p>図版 1：対人関係においては、自分が認めることが出来ない他者の個性は、受け入れられない様子が窺えた。</p> <p>図版 2：対人関係においては、理不尽な思いをするような迷惑なことは許せないと思うが、現実には、そのような者には正論が通じないと諦めてしまう傾向が窺えた。</p> <p>図版 3：年長者に配慮する傾向や、いくら配慮しても他者の真意を正確に理解することは難しいと考える傾向が窺えた。(年功序列)</p>

<p>一般 20</p>	<p>共感を求め 協同的⇒ 「協調的」 楽しませる ⇒「適切・柔軟 な対応」 「対人以外へ の興味」 「自己中心 的」</p>	<p>他者との共感を 求め協同的/で他者 を楽しませること に満足する/傾向 と、非日常的で新し いことに興味を持 ちやすく/物事を周 囲よりも早く進め たい傾向</p>	<p>図版 1：対人関係においては、他者を楽しませ ることで、自分の自信や満足を得ること、また、 その満足を得させるために自身も満足したふり をする傾向が窺えた。</p> <p>図版 2：対人関係においては他者と共感できる 関係を求めることや、他者から関心を持たれ必要 とされるような存在を望む傾向が窺えた。</p> <p>図版 3：対人関係においては、非日常や新しい ことなどに興味を持ちやすく、他者と共に楽しく 協同することも意識しているが、周囲のペースよ りも早くに物事を進めたがる傾向が窺えた。</p>
<p>一般 21</p>	<p>「他者との 違い」「平等」 「協調的」 「客観性」 「配慮不足」</p>	<p>他者はそれぞれ 違う事を理解し/対 等で/協調的な関係 を保とうとする/傾 向と、客観的/だが 表面的な物事に注 意が向く/傾向。</p>	<p>図版 1：対人関係においては、他者とあまり比 較せずに対等な関係を保ち、勝敗の差は、その者 の努力によるものだと捉える傾向が窺えた。</p> <p>図版 2：対人関係においては、皆で協調的に物 事をする場合に、それぞれの思いは違うというこ とを意識しやすく、その違いは大きいと感じる傾 向が窺えた。</p> <p>図版 3：対人関係においては、他者との関係を 客観的に捉える傾向にあり、表面に見える物事だ けに、注意が向いてしまう傾向が窺えた。</p>
<p>一般 22</p>	<p>「被害的」 「他者との 違い」</p>	<p>他者からの被害 や些細な行き違い /・能力差など/の上</p>	<p>図版 1：対人関係においては、能力や地位や個 性など何らかのもので上下を評価し、それに基づ いた対応をとる傾向が窺えた。</p>

	「上下関係」 「他者敏感」 「回避的」	下関係など/に敏感 な傾向/と、対人関 係の問題を避けた い傾向	図版 2：対人関係においては、些細な事お互いの勘違いが生じることを意識しやすく、両者の仲裁や解決に介入することを難しいと捉えている傾向が窺えた。  図版 3：対人関係においては、他者から危害を与えられるような事には敏感で、他者が危害を受けることも許せない傾向が窺えた。
一般 23	「他者敏感」 「被害的」 「他者との違い」 「依存的」	自分や他者の苦 痛に敏感/で迷惑を かける者と被害を 受ける者との違い/ や力の差を意識し やすい/傾向と、理 解ある者が支える べきだと考える/傾 向	図版 1：対人関係においては、力の差を重視しており、それは多少のことでは揺らがないと考える傾向であることが窺 <sup>1</sup> えた  図版 2：対人関係においては、迷惑をかける者は、迷惑をかけられた者の気持ちは理解せず、両者は違うということ意識する傾向が窺えた。  図版 3：対人関係においては、自分や他者の苦痛に敏感で、その苦痛は、苦痛を理解してあげる者が、支えていくものだとする傾向が窺えた。
一般 24	「主導性」 「協調的」 「他者敏感」 「他者との違い」 「主観的」 「固定概念」	他者に主導的/に 協調し/、自分勝手 な者を意識しやす い/傾向と、他者と の力の差により/極 端に必死になる傾 向	図版 1：対人関係においては、力に歴然とした差があることを意識し、力を持っている場合は余裕を見せ、勝負にもこだわらないが、力がない場合は、周囲が見渡せないほど必死になる傾向が窺えた。  図版 2：対人関係においては、皆と協調的であろうとしているため、自分勝手な者を意識しやす

			<p>い傾向が窺えた。</p> <p>図版 3：対人関係においては、集団では、他者への関心の薄さがあることを理解し、困っている者があれば、その他者とも協同しようと働きかける主導性がある傾向が窺えた。</p>
一般 25	<p>「他者との違い」</p> <p>「上下関係」</p> <p>「自己主張」</p> <p>「道徳性」</p>	<p>能力差/や上下関係/に敏感に意識し/承認欲求が強い傾向/と、他者との問題が生じると、道徳的な判断をする/傾向。</p>	<p>図版 1：対人関係においては、力に差があることによって、立場や気持ちが全く違い、それが変わることはないと思えており、強者、弱者を過敏に意識する傾向が窺えた。</p> <p>図版 2：自分の能力を高く見せたい願望が表現されていた。対人関係においては、権力などの立場を重んじ、上下関係を意識しやすいこと、なた、承認欲求が強い傾向が伺えた。</p> <p>図版 3：対人関係においては、関係が良くない他者であっても、何らかの問題が生じた際には、関係性よりも道徳的事柄に基づいて判断する傾向が窺えた。</p>
一般 26	<p>「他者との違い」</p> <p>「合理性」</p> <p>「道徳性」</p> <p>「可塑性」</p> <p>「反省」</p>	<p>他者との能力差を意識して/自分の立場を考える/傾向と、人生経験により他者に対する反省が深まると考える/傾向。</p>	<p>図版 1：対人関係においては、能力差、年齢差、状態の差などを考慮して、自分のレベルにあったことをする傾向が窺えた。</p> <p>図版 2：対人関係においては、能力や強さなど、他者と能力差を比較して優れているかどうかということに強い関心が強い傾向が窺えた。</p> <p>図版 3：対人関係においては、人は加齢など、</p>

			人生を長く過ごしてくると、今まで気づけなかった事が分かるようになり、他者に対して反省をするものだと考えている傾向が窺えた。
一般 27	「努力」 「警戒心」 「防衛的」 「善悪思考」	自他共に努力/を 重んじ、それを他者 に邪魔されること に敏感な傾向/と、 他者の悪行を指摘 する/傾向。	図版 1：対人関係においては、自分が頑張ろう と思うことには非常に努力をし、その努力の重さ が貴重で尊いことだということを強く意識する 傾向（相手の努力に対しても）が窺えた。  図版 2：対人関係においては、自分のしてきた 努力を大事にしているので、それを他者の影響で 台無しにされることを意識しやすい傾向が窺え た。  図版 3：対人関係においては、悪いとされてい ることを行う者に対して、それが悪いと認めさせ ることをしようとする傾向にあり、そのためには 努力を惜しまない傾向が窺えた。
一般 28	「他者との 違い」 「立場」 「努力」 「可塑性」 「適切・柔 軟な対応」	他者との能力差 を意識しやすく/努 力/により立場を変 えようとする/傾向 と、他者への優しさ を意識し、他者から の親切に感謝する/ 傾向。	図版 1：対人関係においては、他者との能力差 を意識しやすく、能力の差があることを受け入れ られないこと、また、努力により立場を逆転させ ようとする傾向が窺えた。  図版 2：対人関係においては、能力差があるこ とで、上下の立場が出来ることを意識しやすく、 油断や隙があるならば、それを覆せるとする傾向 が窺えた。  図版 3：対人関係においては、他者に対して優

			しい気持ちで接することを意識しやすく、また、 他者から親切な態度や援助を受けた時には、素直 に感謝する傾向が窺えた。
一般 29	「自己中心 的」  「批判的」  自分のため に周囲の環境 を変える⇒  「防衛的」  「他者配慮」	他者への関心が 薄く/対等でない事 に不満を持ちやす い/ため、周囲の環 境を変えて対応す る傾向/と、生じた 問題に自分で直接 対応し、他者に心配 させない配慮をす る/傾向。	図版 1：対人関係において、自分との能力差が ある場合に、対等でないことに不満を感じ、自分 の力でそれを克服すると言うよりは、他者や周囲 の環境を変えようとする傾向が窺えた。  図版 2：対人関係においては、他者や周囲の者 が、どんな状態でどんなことを考えているかの関 心が薄く、自分の気持ちの方が優先されやすい傾 向が窺えた。  図版 3：対人関係においては、怪我やトラブル などの問題が生じた時に、その問題に直接向き合 って対応し、困っている他者に心配させない配慮 をしようとする傾向が窺えた。
一般 30	「被害的」  「因果応報」  「年功序列」  「他者尊重」  「援助的」  「傍観的」	被害を/受けたら 仕返しは当たり前 だと考える/傾向 と、年功序列を重視 し/、年長者には援 助的/な傾向、他者 に対して傍観的な 傾向。	図版 1：対人関係においては、物事の状況を色々 な視点から見ると、表面的でわかりやすいこ とに着目する傾向が窺えた。  図版 2：対人関係においては、他者に迷惑など の影響を与えられてしまうことに敏感で、何らか の被害を受けると、それは仕返しに繋がると言う ことが、当たり前で、あまり疑問を持っていない 傾向が窺えた。(被害=仕返しのような)  図版 3：対人関係においては、年齢が高い者に



			対しては援助をしようとする傾向にあり、高齢であればそれが当たり前であると考える傾向が窺えた。
--	--	--	--

一般成人女性の話の分析

	ラベル化	個人の対人関係 分析の切片化	個人の各図版の対人関係分析
一般 31	「共有願望」 「他者との違い」 「努力」 「上下関係」 「親族関係」	・興味を共有を求め る傾向/と、他者 との能力差を意識 しやすく/、他者の 努力を支持/し、上 下関係を良好に保 とうとする。	図版 1：対人関係においては、自分が何か面白 そうなことに興味を持つと、それを自分の身近な 者とも一緒に共有したいと思う傾向が窺えた。 (兄弟関係)  図版 2：対人関係においては、能力に差があっ ても、その差を越えようと挑む者、自分の立場を 守ろうなどと、頑張る者を支持する傾向が窺え た。  図版 3：対人関係においては、自分よりも上だ と思う者を意識しやすく、上下関係を良好に保と うとする傾向が窺えた。
一般 32	「協調的」 「適切・柔軟な 対応」 「同一化」	・強調的/で友人と 適切な関係である うとする/が、他者 を固定概念的に捉 えて/同一化しやす	図版 1：対人関係においては、友人との関係を 大事にし、適切な関係でいようとする傾向と、他 者を固定概念的に捉えやすい傾向が窺えた。  図版 2：対人関係においては、友人などの親し い者に対する関心が非常に高く、自分のことの様

	「固定概念」 「友人関係」	い/傾向。	に捉えてしまう傾向が窺えた。  図版 3：対人関係においては、集団においても協調的に他者と良好な関係を保とうとする傾向が窺えた。
一般 33	「防衛的」 「勸善懲惡」 「他者配慮」 「適切・柔軟な対応」	失うことを恐れて防衛的/で、悪い事は周知させて正そうとする傾向/と、他者配慮/して良好な関係を築こうとする傾向。	図版 1：対人関係においては、悪いことは見逃せず、その悪事をきっちり周知させるように正そうとする傾向が窺えた。  図版 2：対人関係においては、自分が大切にしているものを失う事を意識しやすく、それを守るために防衛的になる傾向が窺えた。  図版 3：対人関係においては、他者への配慮をすることが良好な関係を築くと考える傾向が窺えた。
一般 34	「客観的」 「傍観的」 「他者配慮」 「距離感」 「自己主張」	・広い視野で客観的な立場/で他者に配慮/しながら、傍観的で/適切な対人距離/で状況に対応し、能力の承認を求める傾向。	図版 1：対人関係においては、何かの能力が長けていることに関心を持ちやすく、その能力を認めて欲しい傾向が窺えた。  図版 2：対人関係においては、自分の身近な所だけでなく、もっと広い周辺にも気を配る傾向にあることが窺えた。  図版 3：対人関係においては、客観的な立場で捉え、他者と距離を保ちその状況に適応しようとする傾向が窺えた。
一般 35	「客観的」	・傍観者的に客観視/をして他者に援助	図版 1：対人関係においては、他者と主体的に関わりを持つより、傍観者的に皆を外側から見て

	<p>「援助的」</p> <p>「協力」</p> <p>「本質重視」</p> <p>「勸善懲悪」</p>	<p>的/で協力しあう/傾向と、真実を求め/勸善懲悪的傾向。</p>	<p>いるような傾向にあることが窺えた。</p> <p>図版 2：対人関係においては、勸善懲悪を意識しやすく、冷静に物事や他者の実像をつかむことは難しいと考えている傾向が窺えた。</p> <p>図版 3：対人関係においては、他者に援助的で、他者と協力し合って物事に対応する傾向が窺えた。</p>
<p>一 般</p> <p>36</p>	<p>「他者敏感」</p> <p>「防衛的」</p> <p>羨望⇒「他者との違い」</p> <p>「協調的」</p> <p>「親族関係」</p>	<p>・誤解されることを恐れ/、他者を信頼する事が難しく/、羨望しやすい傾向はあるが、時間をかけて他者と協調的に適応する傾向。</p>	<p>図版 1：対人関係においては、自分よりも何かに秀でていて叶わない他者を意識しやすく、羨ましく思うが素直にそれを受け止めることが難しい傾向が窺えた。</p> <p>図版 2：対人関係においては、真実を知り信頼関係を築くことは難しいこと、親身な気持ちが誤解されることを意識しやすい傾向が窺えた。</p> <p>図版 3：対人関係においては、直ぐに他者を受け入れることは難しいが、他者と協調的に適応する傾向が窺えた。</p>
<p>一 般</p> <p>37</p>	<p>「善悪思考」</p> <p>「自己主張」</p> <p>「適切・柔軟な対応」</p> <p>「友人関係」</p> <p>自己犠牲⇒</p> <p>「自己抑制」</p>	<p>・正義感/があり他者と衝突する傾向/があるが、状況改善に積極的/で友情を重視/し、自己犠牲的/で道徳的/な思考で援助的や反省</p>	<p>図版 1：対人関係においては、友情を大切に考える傾向と、他者のためになるには、時として誰かが犠牲にならなければならないとも考える傾向にあることが窺えた。</p> <p>図版 2：対人関係においては、悪いことは許せないが、懲らしめることで他者は変われると捉え、状況や環境を良好に保つために改善しようと</p>

	<p>「道徳性」</p> <p>「援助的」</p> <p>「反省」</p>	<p>的な傾向。</p>	<p>積極的な傾向に反省する様子が窺えた。</p> <p>図版 3：対人関係においては、正義感のため他者と衝突しやすい傾向と、他者の危機的状況を見過ごせず援助的な傾向が窺えた。</p>
<p>一 般</p> <p>38</p>	<p>「勸善懲悪」</p> <p>「適切・柔軟な対応」</p> <p>「警戒心」</p> <p>「他者との違い」</p> <p>野心的⇒「自己主張」「自己中心的」</p> <p>「安定志向」</p>	<p>・勸善懲悪/傾向で、適応的に振舞う/が敵味方の区別を明確/にし、野心的/なため油断大敵とする傾向。</p>	<p>図版 1：対人関係においては、優位な立場にある者は、とかく油断をしやすいので、気を引き締めた方がよいと考えている傾向が窺えた。</p> <p>図版 2：対人関係においては、悪いことをする者を意識しやすく、勸善懲悪的な傾向が窺えた</p> <p>図版 3：対人関係においては、自分の仲間であるか、敵対するかを意識しやすく、表面上は適応的でも野心的で他者よりも優位に立とうとする傾向が窺えた。</p>
<p>一 般</p> <p>39</p>	<p>「他者尊重」</p> <p>「他者配慮」</p> <p>「プライド」</p> <p>「適切・柔軟な対応」</p> <p>「防衛的」</p> <p>「拒否的」</p>	<p>・何らかの原因で困っている者を優先/し、プライドを持ち/適応的な対応をとる傾向/にあるが、良いイメージを持ってない他者とは関係を保てない傾向。</p>	<p>図版 1：対人関係においては、プライドはあるが他者との関係上、相手を立てるような傾向にあるが、実際の気持ちと表面上の行動が違うことがある傾向が窺えた。</p> <p>図版 2：対人関係においては、他者と良好な関係を築こうと努力はするが、他者に対して実際に良いイメージを持っていなければ、いずれ対人関係に無理が生じて良好な関係は崩れると考える傾向にあることが窺えた。</p> <p>図版 3：対人関係においては、具合が悪い、困</p>

			<p>っているなどの状態の悪い者を意識しやすく、状態の悪い者を優先的に対応しようとする傾向が窺えた。</p>
<p>一般 40</p>	<p>「他者配慮」 「協調的」 「他者との違い」 「主導性」 「代償欲求」</p>	<p>・困ってる他者に気づきやすく/協調的/だが、他者との能力差にコンプレックス/があり主導的/で見返りを求める傾向。</p>	<p>図版 1：対人関係においては、他者の優れている部分を意識しやすく、優れている者と、そこにコンプレックスがある者との差があると考えられる傾向が窺えた。</p> <p>図版 2：対人関係においては、他者が困っていることに気づきやすく、他者のために行動すると、それが感謝につながると考える傾向が窺えた。</p> <p>図版 3：対人関係においては、他者と協調的であるが、主導的に他者を引っ張りながら支える傾向が窺えた。</p>
<p>一般 41</p>	<p>「平等」 「適切・柔軟な対応」 「他者配慮」 「他者敏感」 「不適応」 「反省」</p>	<p>・分け隔てなく他者を受け入れて/良好な対人関係を望んでいる/が、他者への配慮/に過敏な/ため、実際の対人関係に困難感を持ち反省する傾向。</p>	<p>図版 1：対人関係においては、他者に対して軽率に行動すると、その相手がどんな考えかは分からず、意図せず不愉快にさせることを意識しやすい傾向が窺えた。</p> <p>図版 2：対人関係においては、他者と良好な関係を望んでいても、実際には他者と上手く関われず、対人関係は難しいと考え反省する傾向が窺えた。</p> <p>図版 3：対人関係においては、仲間以外の他者でも素直に受け入れやすく、また、自分からも他</p>

			者に近づき、親近感をもちやすい傾向が窺えた。
一般 42	「他者との違い」 「他者敏感」 「被害的」 「因果応報」 「援助的」	・他者との感覚の違いに敏感/で被害を意識しやすく/因果応報的な考え/を持つ傾向と、困っている他者に自分の出来る援助/をする傾向。	図版 1：対人関係においては、他者が困っていることに敏感で、自分の出来る範囲の問題であるかを確かめて援助する傾向が窺えた。 図版 2：対人関係においては、他者と理解のずれが生じてしまうことに過敏な傾向や、他者との感覚の違いにより困難感を抱きやすい傾向が窺えた。 図版 3：対人関係においては、自分に危害を加える物事に気付き易く、因果応報のような考えを持ちやすい傾向が窺えた。
一般 43	「努力」 「協調的」 「適切・柔軟な対応」 「他者との違い」	・他者の努力を支持/し、仲間などの集団では強調的/に楽しく過ごす/傾向と、他者との違いを意識しやすい傾向。	図版 1：対人関係においては、能力差を意識しやすい傾向にあるが、努力をし続けられる者の良さを理解する傾向にあることが窺えた。 図版 2：対人関係においては、他者と良好な関わりを持つことを意識している傾向と、仲間同士でもそれぞれに違いがあることを意識する傾向が窺えた。 図版 3：対人関係においては、仲間を意識しやすい傾向が窺えた。集団で過ごすことを楽しいと感じる傾向にあり、皆と協調的に対応する傾向が窺えた。

<p>一般 44</p>	<p>「他者志向」  「援助的」  「喜びの共有」  「適切・柔軟な 対応」  「不適応」</p>	<p>・困っている他者に 援助的/な配慮が出 来、他者も自分も喜 び合うことを望む/ 傾向と、他者からの 予測外の出来事に 戸惑う傾向。</p>	<p>図版 1：対人関係においては、いつもの日常の つもりであるが、時々、他者から非日常の出来事 を持ち込まれる事に戸惑いやすい傾向が窺えた。  図版 2：対人関係においては、他者が喜ぶこと を意識しており、自分もまた喜ばせてもらいたい と素直に思う傾向が窺えた。  図版 3：対人関係においては、困ったり援助が 必要な者の状態をよく見て配慮をする傾向が窺 えた。</p>
<p>一般 45</p>	<p>「被影響性」  「否定的」  「客観視」  「距離感」</p>	<p>・他者の欲求や本音 などの感情に影響 を受けやすい/傾向 と、自身の行動に否 定的で/他者を客観 視/して距離を保つ 傾向。</p>	<p>図版 1：対人関係においては、他者に期待を持 って意図した行動をとっても、それは必ず他者に 通じるわけではなく、自分の主観的なものだと考 える傾向にあることが窺がえた。  図版 2：対人関係においては、感情を表しやす い者を意識しやすい  く、他者のペースに巻き込まれやすい傾向にあ ることが窺えた。  図版 3：対人関係においては、他者の欲求や本 音を意識しやすく、他者と距離を保ち客観視する 傾向が窺えた。</p>
<p>一般 46</p>	<p>「他者尊重」  「他者配慮」</p>	<p>・他者を尊重/して 配慮/するが、物事 を自己中心的に捉</p>	<p>図版 1：対人関係においては、他者が自分の意 図に反する反応をすることを意識し、自己中心的 に他者配慮をする傾向が窺えた。</p>

	<p>「他者との違い」</p> <p>「努力」</p> <p>「立場」</p> <p>「適切・柔軟な対応」</p>	<p>え/て他者との違い/を感じ、努力/により立場が変わる/など、状況に合わせて柔軟な関係性を築く傾向。</p>	<p>図版 2：対人関係においては、他者はそれぞれが違ったことを感じたり考えたりしていると言 うことを意識しやすい傾向が窺えた。</p> <p>図版 3：対人関係においては、状況に合わせて他者を許したりと、柔軟な関係性を築ける傾向が窺えた。</p>
<p>一 般</p> <p>47</p>	<p>「善悪思考」</p> <p>「上下関係」</p> <p>「主導性」</p> <p>「援助的」</p> <p>「自己主張」</p>	<p>・善悪/や上下関係などを意識/しやすくそれを他者にも理解してもらいたい/と考え、主導的/で適切な援助をしようとする/傾向と、他者に自分の考えを理解してもらいたい傾向。</p>	<p>図版 1：対人関係においては、どちらの立場が上なのかなど上下関係を意識しやすいが、その上下関係も慢心や努力などの働きによって、突然その立場が変わると考えている傾向が窺えた。</p> <p>図版 2：対人関係においては、他者の行いの善悪を意識しやすく、それを他者にも理解してもらいたいと考える傾向にあることが窺えた。</p> <p>図版 3：対人関係においては、周囲の状況をよく見て、主導的に他者に適切な援助などをする傾向が窺えた。</p>
<p>一 般</p> <p>48</p>	<p>「他者志向」</p> <p>「信頼感」</p> <p>「他者との違い」</p> <p>「上下関係」</p> <p>「否定的」</p> <p>「親族関係」</p>	<p>・親しい者との関係を大事にし/本音を言い合える関係を望む/傾向と、能力/などの上下関係/は簡単に変えられないと考える傾向。</p>	<p>図版 1：対人関係においては、強者弱者の上下関係は、多少の努力などでは、簡単に変えることが出来るものではないと考えている傾向が窺えた。(親子関係)</p> <p>図版 2：対人関係においては、本音を言い合える様な、気がねのない他者との関係にありたいと思う傾向が窺えた。</p> <p>図版 3：対人関係においては、家族などの親し</p>



			い者との関係を意識しやすく、親しい者との関係を大事に考える傾向が窺えた。
一般 49	「他者志向」 「適切・柔軟な対応」 「協調的」 「自己抑制」	・他者と関わることは楽しく/他者を受け入れて協調的/な傾向と、他者に不快な思いをさせないように自重する傾向。	図版 1：対人関係においては、他者と話すことは、楽しく愉快的なことであり肯定的にイメージしている傾向が窺えた。 図版 2：対人関係においては、何気ない出来事で他者に不快な思いをさせてしまうようなことを意識しやすく、自重する傾向が窺えた。 図版 3：対人関係においては、他者を受け入れやすく、協調的な傾向が窺えた。
一般 50	「他者配慮」 「平等」 「適切・柔軟な対関心を満たす⇒」 「自己主張」 「否定的」	・お互いを尊重/しで他者と良好な関係を築こうとする/傾向はあるが、周囲に否定的で/他者から関心を満たす⇒と思う傾向。	図版 1：対人関係においては、能力の違いなどを意識せずに、他者を平等にとらえ、お互いを理解して尊重しようとする傾向が窺えた。 図版 2：対人関係においては、多少調子づいた行動をとっても、気の知れた他者とは、お互いに良好な関係でいられると考える傾向が窺えた。 図版 3：対人関係においては、周囲の他者は無関心であると捉える傾向と、他者から関心を得て支えてもらいたいと意識しやすい傾向が窺えた。
一般 51	「立場」 「親族関係」 「他者配慮」 「適切・柔軟な	・お互いが立場を理解/し、良好な関係を築くことに関心がある/傾向と、客観的/だが他者の短	図版 1：対人関係においては、道徳心や宗教的な風習に関心があり、それぞれの立場は違っても、お互いその立場を理解しあうようにする傾向が窺えた。(親子関係) 図版 2：対人関係においては、場面により、つ

	<p>対応</p> <p>「客観的」</p> <p>「批判的」</p> <p>「道徳的」</p> <p>「不適応」</p>	<p>所が気になる傾向</p> <p>や/、道徳的/だが場</p> <p>面により調子づい</p> <p>てしまう傾向。</p>	<p>い調子づいてしまう傾向と、自分よりも他者の悪い所が気になる傾向が窺がえた。(家族関係)</p> <p>図版 3：対人関係においては、自身は客観的な対応だが、他者が良好な関係を持つことに関心がある傾向が窺えた。</p>
<p>一般</p> <p>52</p>	<p>「安定志向」</p> <p>「社会性」</p> <p>「協調的」</p> <p>「適切・柔軟な</p> <p>対応」</p> <p>「警戒心」</p> <p>「防衛的」</p> <p>「拒否的」</p> <p>「年功序列」</p>	<p>・お互いに秩序を守</p> <p>り/協調的/で適切</p> <p>に物事を行おうと</p> <p>する/傾向と、警戒</p> <p>心が強/くてよく知</p> <p>らない者を受け入</p> <p>れにくい傾向。</p>	<p>図版 1：対人関係においては、自分が良く知らない者に対する警戒心が強く、表面上は適応的に振舞うが、その実は、親しくない他者を受け入れたくない傾向が窺えた。</p> <p>図版 2：対人関係においては、他者と一緒に協調的に物事を行おうとし、その秩序を守ろうとする傾向が窺えた。</p> <p>図版 3：対人関係においては、他者それぞれの立場や気持ちを考慮し、他者同士で適切で協調的に物事をしようと配慮する傾向が窺えた。(年功序列)</p>
<p>一般</p> <p>53</p>	<p>「他者との</p> <p>違い」</p> <p>「プライド」</p> <p>挑む⇒「自己</p> <p>主張」</p> <p>「努力」</p> <p>「協調的」</p> <p>「防衛的」</p>	<p>・能力差を意識/し</p> <p>やすく、プライド/</p> <p>を保とうと挑戦し</p> <p>努力する傾向と、協</p> <p>調的/ではあるが、</p> <p>配慮の出来ない他</p> <p>者を受け入れにく</p> <p>い傾向。</p>	<p>図版 1：対人関係においては、他者との能力差を意識しやすく、能力の高い者に挑戦しようと努力する傾向が窺えた。</p> <p>図版 2：対人関係においては、力の上限関係を意識しやすく、他者を巻き込んでも自分のプライドを保とうとする傾向が窺えた。</p> <p>図版 3：対人関係においては、他者と協調的に関わる傾向と、危害を加えるような配慮のない他</p>

	「拒否的」		者を受け入れにくい傾向が窺えた。
一般 54	「協調的」 「他者志向」 「主導性」 「適切・柔軟な 対応」 「自己抑制」	・ 協調的/で他者と 良好な関係を積極 的に築こうとする/ 傾向と、他者の気持 を考えすぎ/て、素 直に喜べない傾向。	図版 1：対人関係においては、他者と競う様な 状況では、負けた方の気持ちを察するので、自分 が勝っても素直に嬉しく思うことが出来ない傾 向が窺えた。  図版 2：対人関係においては、他者とはなごや かに過ごすことを意識し、皆で協調的であろうと 積極的に働きかける傾向が窺えた。  図版 3：対人関係においては、協調的で他者と 良好な関係を築こうとする傾向が窺えた。
一般 55	「警戒心」 「防衛的」 「回避的」 「安定志向」 「適切・柔軟な 対応」	・ 他者を信頼するこ とが難しい/ため回 避的/な傾向と、親 しく安全な者であ れば良好な関係を 結べる傾向。	図版 1：対人関係においては、親しい者との勝 負事には感情的にならずに、素直にその勝敗を受 け止め、良好な関係を保とうとする傾向が窺え た。  図版 2：対人関係においては、他者に合わせて 適応的に行動するよりも、自分の感情や良し悪し の都合で相手を選んだり、回避する傾向が窺え た。  図版 3：対人関係においては、不安から他者を 信頼することが難しい傾向が窺え、安全な状況で ないと良好な関係が結びにくい傾向が窺えた。
一般 56	「価値観」 「他者との違	・ 他者との価値観/ や能力の差異を意	図版 1：対人関係においては、他者との能力差 を意識しやすく、一旦その上下関係ができると、

	<p>い」</p> <p>「上下関係」</p> <p>「否定的」</p> <p>「他者志向」</p> <p>「援助」</p>	<p>識/しやすく、その</p> <p>上下関係/を変える</p> <p>ことは難しいと考</p> <p>える/傾向と、困っ</p> <p>ている者を援助し</p> <p>ようとする傾向。</p>	<p>それを变えることは難しいと捉える傾向が窺わ</p> <p>れた。</p> <p>図版 2：対人関係においては、他者とは、価値</p> <p>観や物事の捉え方が違い、大したことの無いほん</p> <p>の悪戯の様な状況でも、お互いの考えの違いは大</p> <p>きいものだと捉える傾向が窺えた。</p> <p>図版 3：対人関係においては、困っているなど</p> <p>の者を意識しやすく、他者を支えようとする傾向</p> <p>が窺えた。</p>
<p>一 般</p> <p>57</p>	<p>「他者配慮」</p> <p>「援助的」</p> <p>「協調的」</p> <p>「努力」</p> <p>「他者との</p> <p>違い」</p> <p>「立場」</p>	<p>・周囲の状況を把握</p> <p>して配慮し/、他者</p> <p>を支えて/協調的/</p> <p>な対応をする傾向</p> <p>と、/能力差を意識/</p> <p>して自分が下の立</p> <p>場/でも努力をする</p> <p>傾向。</p>	<p>図版 1：対人関係においては、頑張る努力を</p> <p>する者に対して、その努力を支え認める傾向にあ</p> <p>ることが窺がえた。</p> <p>図版 2：対人関係においては、他者との能力差</p> <p>を意識しやすいが、立場が弱くてもそれに抗う傾</p> <p>向にあることが窺えた。</p> <p>図版 3：対人関係においては、周囲や他者それ</p> <p>ぞれの状況を把握して配慮し、協調的に支える傾</p> <p>向が窺えた。</p>

資料 5 : 犯罪者と一般成人の鳥獣戯画テストの話

資料5		
犯罪者の鳥獣戯画の逐語		
番号	主人公側の話	相手側の話
犯1 ①	どうだ私は足は遅いけどすもうは負けないぞお～。おけがはありませんか？	まいりました。だいじょうぶです。
②	こらあ～いたずらばかりするさるめ、もう許さないぞお	ワ～もうしません ごめんなさい
③	おさるさん もうまわりは皆んな流されてしまいました 私達でも頑張りましょう。1人より2人、2人より3人です。さあ、これにつかまって	うさぎさん ありがとう でももうダメですよ。
犯2 ①	「どちらかにしなきゃいけないんですか？ 決まらないんですけど」「ど～ち～ら～に～し～よ～うs^か～な～。はい、じゃあ、兎さんで」「両方驚いている」「終わりです」	「蛙の立場に立つとどんな感じですか？」 「同じです」
②	「ど～ち～ら～に～し～よ～う～か～な～」 また兎。兎が猿を追かけて遊んでる。蛙がそれを見て笑ってる。	猿から見ても同じに見える。蛙からするとちょっと追っけぼりをくらってるように見えます。決めかねます。笑ってる驚いてる怒っている泣いている蛙を見る怯えている、いくつか予想はつくけど、どれかは決めかねます。
③	{「ど～ち～ら～に～…」 }猿、お猿さん、何やってるんでしょうね。…何やってるかちょっと分からないですね…ちょっと分からない。	こいつは猿の背中搔いてる、この人はそれを気持ちよがってる、こいつは水をすくうやつで…分かんない、ぶち殺そうとしているのか、水を浴びせようとしているのか、これは(中央の兎)泳いでいるか怯えてる、これ(右下猿)遊んでる、これ(右上兎)潜ってるかどげえもん、これ(右上兎)理解不能、何やってんだかわかんないです。
犯3 ①	ウサギはいつも相撲でカエルに勝てない。ウサギの身にカエルと関係したとても屈辱的な出来事が起り、奮起して修行したウサギは見事カエルに相撲で勝利する。	ウサギはいつも俺に勝てない。生まれ持った物の差は覆らない。ウサギを下に見る気持が生まれ始めている。しばらく、ウサギが挑んでこないと思ったら、ある日やってきて、相撲を申し込んできた。ちょっとはマシになってっかと思ったら予想以上に力をつけこちらも苦戦している。だが、ウサギごときに負けるかと更に力を強めたが、ついにはウサギの執念に負けてしまっ
②	加虐趣味のあるウサギは他者と相いれないが、弱気なこのサルは、どういわけかウサギから離れない。一抹のサルへの好意や感謝の念を抱きつつ、ウサギは今日もサルをいじめる。	幼馴染のウサギはひどいことをするけど、それで周囲に人がいなくなるのを寂しいとも思っているとわかるので、自分だけでも側にいてあげようと決めている。
③	親から譲り受けた資産で、働く必要がなくかといって熱中できるものもなく暇を飽かしていた猿は、ひょうんなことから秘密倶楽部へ誘われる。連れられた先は男女気ままに湯浴みをして交流する極楽であった。	同じく俗世間というものに飽いていたウサギ。似たような者たちで集まってもどうもかしこまって打ち解けられず面白くない。そこで、考えたのが、この大浴場。世間を忘れて同士たちと一糸纏わぬ姿で接すれば気がねもせず一種、非日常からくる陶酔も得られようと思ったのだ。サルは町でたまたま見かけたが、容易に自分たちと同じ匂いを感じとって誘った。

犯4 ①	うさぎは他の生物を殺したりしない動物です。食物連さの底辺に属します。襲られる事はあっても襲うことはない。カエルにすら攻撃を受けています。	生きていく為、身を守る為なら例え相手がウサギでもナワバリに入られたら防衛手段を取るしかない。
②	第一図版では、他の生物を襲う事はない習性のウサギですが、カエルが猿にいじめられている相談を受け、遇に攻撃性を持つウサギが現れる事がある。見事に悪い猿を受けています。撃退した。	軽いつもりでカエルをいじめたつもりだったが、おとなしいウサギが迎撃してきて、いひようを突かれ退散する。
③	ウサギと猿が全員で田畑を開こうしなればならないのだが離れた所で休んでいても「見つからなければ良い」という考えを持つ者が世の中にいる。それが自分。世の中、要領の良い人が楽をできます。	ウサギにも大切な田畑を開くため全員で一所けん命に作業しているのに、一人だけ参加しない者に対しては今後一切相手をせず村八分を決め集団生活を守ります。
犯5 ①	私(うさぎ)は今までスモウにまけたことがなかったが初めてカエルに今日、まけました。しかし、くやしがるのではなく自分より強いものがいるのだらうと実感し、うぬぼれを無くす様心がけすることに目ざめました。	私はカエルに化けた神です。ウサギのうぬぼれを改心される為に、うさぎとスモウをとり良い道へとみちびきました。
②	私(ウサギ)は神(カエル)に改心されるまではこの様に、あばれ者でした。	サルである私はいつもウサギにいじめられこまっていました。
③	改心(ウサギ)した私は他の為になることであれば色々、手だすけをしたり、仲よく生活するように心がけました。	今では、改心したウサギさんと仲良く生活出来るようになり、サルは喜んでおります。
犯6 ①	かえるがうさぎを食べるようす。	食べられそうでおどろしているようす。
②	さるがうさぎのえさを食べるのにげている所	うさぎとかえるがさるを追いかけているようす
③	さるが他のさるのせなかをかいているようす	さるとうさぎがおよいでいるようす
犯7 ①	主人公ウサギ:カエルとウサギけんかしてウサギが負けた 二度と村にくるなとさ。	ウサギは涙ながし村をでていった
②	ウサギ、サル(主人公)、カエル、運動会こんなに速ウサギは初めて。サルも副だ	サルも速足で走れば勝てたのに 悔やむサルでした
③	川で遊んではいるよに見えます	わからない
犯8①	主人公カエル:俺は大エボガエルだ。ワラビちゃん俺のシンボル立端(誤字)と視てとび付いても、残念だが彼女と合わないんだ。……向行にも人間らしい女うえてる……。彼女いくらバタついてても駄目だアハッ……。	私、年頃のワラビ、歩いていたら視たことのない物視てとび付いた。びっくりしたのかはねとばされた。向いにも女性視て、モダされてた。残念……。
②	主人公サル:花をつみに来たモンキ親子。モンキ花を取ってた。突然ワラビちゃん花枝を持って飛びついてきた。セナカの赤ちゃんビックリ、おいやめないか、子供達土手の所に隠れた。(ワラビ)私遊びたいの。遊んで。(エボガエル)あ〜……ワラビちゃん子供かわいそうだよ 早々 そうそう止めないかア〜……(モンキ)ガマ君ありがとうと帰	(ワラビちゃん)私友達居ないから遊びたかったのと赤ちゃんかわいくて(エボガエル)ママ子供連れて帰ったア……エボガエルさんあんたヤサシーのね、私ヤンチャかなバイ……
③	主人公サル:動物性の人 雪原の中 小さな水溜りの中、主人らしき人妻のセナカ流してやる様と洗い そこえ気のキイタウサギ月夜の様な格こうで、シャクを持って	おとうさん久しぶりに身(セナカ)洗って(流してくれて)ありがとう皆なも(仲間)達も気持ち良く(男居るから)安心して勢々と洗ってる様、よく見ると(水が雪が分

	水で流した。気持ち良さそうにたまえるそぶり、子供も一緒になって妻ありがとうと寄かって様々・その他皆なそれぞれ勝手に洗ってる様々……	ない……)
犯9 ①	主人公はカエル。カエルがじゅうどう枝(誤)を決めて一本。喜ぶカエル	ウサギはまいったー。
②	主人公はサル。みんなで、おにごっこをしていて、サルがウサギをちょうはつしている、カエルがびっくりしている。	ちょうはつされたウサギは、おこりながら走っている。カエルはまたまた、びっくりしている
③	主人公はウサギ、津波に流されて、みな苦しんでいる。 有⇒無し	助かっているサル。流されているウサギ。
犯10①	両方ともはねる生物なので、ジャンプで勝負がつかなかったため、すもうでたたかい、カエルが勝った 一見、動さ等で比があるウサギだったが、カエルがそれを自分の知恵等を使ってウサギを負かした。(主人公はカエル)	ジャンプの争いでは勝負がつかなかったが、力比べならば、自分に比があるだろうとゆだんしていたところ、カエルの戦りやくによりすもうにまけた。
②	自分の見た目がおかしいからと、ウサギから嫌がらせをうけて逃げまわっており、それを見たカエルは「もつとやれー」とウサギを応援してサルをいじめている(主人公はサル)	いつも皆から、キモイキモイといわれている目ため(見の誤字)のよくないサルをいじめてからかうことでうさばらししながら、それを見ているカエル等に自分の力を示している
③	主人公のサルは医者であり、身体によいといわれる泉に体に不自由なものをいれて十分によくなったところで身体の様子を見て治してやっている	医者のいう事を聞き、身体をよくしようと、例え頭を水の中につっこんで息苦しくなるうとも生きるために健康になろうと医者のサルのいう事を聞いている
犯11①①	うさぎとカメが高山寺にのつるとちゅうにがんばっていたとちゅうに ケンカしてしまった (主人公はうさぎ)	カメがうさぎが山に登るけどうさぎの方がさいごまでのぼれてかつ。
②	カエルとうさぎをかめをおいかけてる(主人公はサル)	サルが悪い事して頭にきて 追い払ってる
③	サルがうさぎにみずをかけてあげている(主人公は岩場のサル2匹とうさぎ一匹)	うさぎが気持ちよさそうに水に入ってくつろいでいる
犯12①	主人公蛙:なんでおれはこんなに体が大きくなったんだろう うさぎだって やっつけやっつけられるぞー	このカエルばけものだ なん/なんでかえるに投げ飛ばされなくちゃ いけないんだ。変だ
②	ちょっとにわの木を いたずらしただけじゃないか。そんなにおこるな。おこらないでくれ(主人公サル)	いつもいつもうちのにわの木をいたずらしてやめてくれー
③	主人公; みんな たのしそうに 泳いでいるのに ぼくぼくもおよぎたいよ およげるようになりたい	そのうち泳げるようになるよ 元気をだしてさあ、これでものんで。
犯13①	主人 巧兎:うさぎとかえるが高柳寺まで競争をしている。うさぎはかえるに、足をひっかけられてころんでしまうが、それでもうさぎはひっして高山寺を目指す。うさぎは、あきらめなければたどりつけるという事を知る。	かえるは足がおそく、うさぎの足をひっかける。結果的に先に高山寺にはたどり着いたが、足をひっかけ、ずるした事を後悔する。
②	主人公サル:さるはうさぎの住んでいる場所に食べ物をうばいに行くが、うさぎに追い掛けられ追っ払われる。もう、うさぎの住んでいる場所には近づかないとちかった。	うさぎは、あらかじめさるが食べ物をうばいにきたら どうしようか考えていたので、実際にさるがきたので食べ物をうばわれずにすむ。

③	主人公サル: さるは背中をけがをしてしまった。痛くて痛くてしかたがない。そこに、うさぎが心配してきて、私が治してあげると言い、さるは背中が良くなった。ありがとうと言う。	うさぎは、さるが困っていきそうなのを見て、どうしたんだろうと近づいたら、背中がとても痛そうだったので、治してあげた。さるの背中が良くなってほとする。ありがとうと言われ、嬉しい気持ちになる。
犯14①	カエルの話がおもしろく 大笑いしている (主人公:うさぎ)	カエルはいっしょうけんめい真じめに話をしているのだが、うさぎにとっては 大笑いする程楽しい話に聞こえる
②	さるがうさぎの食べ物を持ちとりして うさぎはおいかけている (主人公:うさぎ)	さるはにげるが勝ちと いっしょうけんめいにげている
③	主人公うさぎ:うさぎとさるは仲直りをして いっしょに川であそんでいる	さるはボスざるの体をあらっていて うさぎは水くみ手伝ってあげてる

一般成人男性の逐語

	主人公側の話	相手側の話
1①	(草)そこに生えている草の話。兎と蛙がやってきて、楽しそうにじゃれあっている様子は今日も平和だ。 主人公:草	兎と蛙は、草の生えている所で二人で遊ぶ。
②	(草)今度は兎と蛙がおじさんを追いかけ回している。そう言う話。楽しそうですね。 主人公:草	兎と蛙は、面白そうなのがいるから、イタズラしよう。おじさんは、「変なやつが追ってきた。」
③	(兎)たまには風呂に入ろう。猿にも挨拶したところ。仲良くやろーや。 主人公:兎	猿:あ、兎が来た。ヨロシク。ま、ゆっくりしていけや。
2①	主人公兎: 歌舞伎を見て笑っている。	歌舞伎を再現している人
②	主人公猿: 早速収穫に行こう。	ウサギ: 今年は豊作だ。カエル: いい米ですね。
③	主人公兎: 背中流しましょうか。	ありがとう。おねがいます。
3①	主人公兎: カエルがおもしろいことをして、ウサギが笑っている状態。かなりもしろかったので笑い転がってる。	カエルは渾身の芸を披露し、ウサギを笑わせた。
②	ウサギがふざけて友達と遊んでいたが、少しやりすぎているため、カエルが「やめろ」と言っている。 主人: 蛙	ウサギは友達と遊んでいて、楽しすぎたため、少し、友達が困るような行動をしている。
③	主人公兎みんなが水遊びをしている中、陸にいるウサギは、さるが触っているものを「何だろう」と考えているため、ウサギも一緒に考え、分かろうとしている。	さるは、何か分からないものを触って、これが何かを分かろうとしている。ウサギも一緒に考えている。
4①	奇みょうなカエルの歌を歌ってウサギを笑かしている。主人公蛙	カエルが自慢の歌を歌ううというので、聞いてみたら、とても変で笑いころげている。
②	主人公猿: カエルとウサギが楽しそうにしている所をちょっかいを出して、ウサギが怒って、追いかけられている。	カエルと楽しんでたのに、さるがちよっかいを出してきて、邪魔だったので追いかけて、追い払っている。
③	主人公兎: 温泉に来たのだが、入る前にボスざるにあいさつしようとしている。	背中ノミをとってもらっている。部下のサルに。
5①	主人公蛙: かえるとうさぎは知り合いで、ある日自分が言ったことでうさぎが大笑いし、それが心外だったので、かえるはそれに腹を立てている。	かえるとうさぎは知り合い同士。ある日かえるが言ったことがとてもおもしろかったので、思わず笑い転がってしまった。
②	主人公兎: ある日うさぎは何やら貴重なものを背負っている猿を見つける。それをどうしても手に入れなくなったうさぎは、木の枝を武器代わりにして猿を追いかける。	貴重品のある所に運んでいる最中だった猿は、突然うさぎに追いかける。何が何だか分からないが危機を感じた猿はうさぎから逃げようとする。
③	主人公兎: ある日川遊びをしにきたうさぎは背中をかゆそうにしている猿に出くわした。自分じゃかけないという猿に、では自分が背中をかいてやろうとうさぎは思い、援助を申し出る。	川遊びにきたものの背中がかゆくてそれどころではない猿。どうしたものかと思っていると、うさぎが話しかけてきた。事情を話すとうさぎが援助を申し出たので、これを幸いと思い援助を了承する。
6①	主人公蛙: 歩いていたらうさぎがいきなりムーンサルトをしてびっくりした。	歩いていたら、バナナをふんでいきおいよく転んだ。
②	主人公兎: ちゃんばらごっこをしていてサルがにげたのでおいかけている。	ちゃんばらごっこをしていてうさぎに押しまけそうだからいったん体制を整えるためてったいしている。



③	主人公猿： 目が覚めたら、そこには地獄絵図が広がっていた。ぼうぜんとしていたサルであったが、近くにいたうさぎに「この状況を改善するにはこの柄杓を使わないといけない。しかし、これは特別な柄杓であたにしか使えない。どうかこの世界を救ってほしい。」と言われる。サルは意味がわからず柄杓を受けとる。	ついにこの時がきてしまった。先祖代々いつたえられていたことだが、実際に状況を見るとつらい。とりあえず救世主をさがさなければ…。そして周りを見わたした時に柄杓の傷を持つ一匹のサルを見つけた。
7①	主人公カエル： 両生類に代表のカエルに戦いを挑んだ。哺乳類代表のウサギを返り討ちする流れ。	カエルにも関わらず、自分と大きさが同じようなカエルに、気持で負けてしまった様子。
②	主人公兎： カエルとの死闘の後、自分を打ち負かしたカエルの力に惚れ込み、哺乳類であるプライドを捨て、カエルに弟子入り。厳しい特訓の一つとして、そこら辺のサルを追いかけ回す指導を受けている。	戦いに負けても、まだ瞳(誤字)に力を宿すウサギを弟子にして、いつか自分を超越る戦士にする為、そこら辺のサルをターゲットと示している。
③	主人公兎： 一日の終わり、カエルの計らいで秘湯におどずれ、サル達とお互いを称えあっている。	何故、関係ない自分を追い回したのかと、ウサギに不満を持ちながらも、適当に口を合わせ、早めに帰ろうとしている。
8①	主人公兎： カエルにいじわるをされて、転ばされた。	ウサギのことを以前から嫌いで、いじわるをしている。
②	主人公兎： サルにもいじわるをされ、今までは我慢していたが、ついに暴発してしまった。	サルは、カエルにそそのかされて、遊び半分のつもりでちょっかいを出したらウサギは怒って追いかけて来た。
③	サルがカエルにそそのかされてたことを知って謝り、仲間も一緒に遊ぶ。 主人公兎	ウサギに事情を説明し、仲直りしてウサギもサルも一緒に遊ぶ。
9①	主人公札： 高山寺という所は非常にけわしい所にあり、動物たちは登るのに苦労している。	動物(誤字)はおいしそうな花を食べてみた登山をしている。
②	主人公蛙： カエルがウサギに支持(誤字)してサルをやっつけようとしている。サルの持っているぼうしが必要であるからだ。とカエルとウサギは協定をむすんでいる。	サルは自分で見つけたぼうしを守るため逃走をはかる
③	主人公岩場の猿と兎： 洪水か何かの災害によりみな溺れている中でも地に足を付けている3匹は生き残るために必死に水を外にやっている。自分達のことでせいっぱいで他を助けることができない。	多数の動物達は助けを求めると、溺れていない組は助けようとしないのでうらやましく思っている。
10①	主人公兎： 「いってえー！！」ローラースケートでシューシューと楽しく走ってきたうさぎは、ゴツンとケロくんガエルにぶつかりました。「ごめんね。ぼくが前をよく見てなかったから、ぶつかってしまったんだ。」	「いいんだよ。ぼくもごめんね。けがはなかったかい？」そう言って、ケロくんガエルは、うさぎが起き上がるのを手伝ってあげました。
②	「まてまてー！！ぼうしドロボウ！！」うさぎは、さるを追いかけて、5000m先の猿のろやに飛び込むと、大事なぼうしを取り戻すことができました。	「あーあ、ぼくは何てことをしたんだろう…ほんのちょっとあそびのつもりで借りたんだっけなのに」さるは心からうさぎにあやまりました。
③	「もうあんなこととはだめだよ」うさぎはそういって、さるたちが使っていたひしゃくで、水をかけてあげました。日(誤字)が当たって、温くなった水はさるの背中にきざらきはねました。	「うん、反省してます！これからはもうしないよ。」さるは気持ちよさそうに答えました。
11①	主人公蛙： うさぎとすもうをとって勝った。	カエルとすもうをとっておもしろかった(楽しかった)。
②	主人公兎： 3びきで楽しく鬼ごっこをたのしんでいる。	うさぎにおっかけられている(遊びというみで)
③	主人公猿： みんなでなかよく水あびを楽しんでいる。	水浴びを楽しんでいる。
12①	主人公蛙： 蛙「何がそんなにおかしいんだよー」 ウサ「だって出べしだったから」	ウサ「あー背中が痒いー」 蛙「かゆみ止め買って来ようか？」
②	主人公兎： うさ「このー、盗んだなーどろぼー」 猿「うへへ、ここまで取りに来なー」 蛙「あ！猿君またやったなー」	猿「いつも居眠りしてるから、すきだらけなんだよー」
③	主人公座ってる猿： 座る猿「もっと下掻いてー」	ひしゃくを持つうさ「(そろりそろり)さっきの仕返しだー」 溺れるうさ「助けて」、うさ「あー落ちるー」、猿「ホレホレ」 猿「この辺かな?」、猿「うーさむー」
13①	主人公蛙： 「どうた(誤字)ウサギ！まいったか?」。仁王立ちのカエルは言った。何度も立ち向かうウサギだったが、カエルの前になすすべはなかった。	「ちくしょー」。ウサギは叫ぶが、どうにもカエルには通じない。勝負はあった。ウサギは足早に退散した。

②	主人公蛙： ウサギとサルとの喧嘩に出くわしたカエル。 止めに入ろうかと悩むカエルだったが、まきこまれるのがいやなので、見て見ぬふりをした。	「さて、サル。おれのおやつを返せ」。やんちゃサルのいたずらに、真顔で怒るウサギ。その粘りにサルは最後、おやつを返して一件落着。
③	主人公兎：「背中、水流しましょうか？」とウサギさん。 気持ちよさげにじっとしているサルをみて「次は僕をお願いします。」と、言うのも忘れなかった。	「水お願い」。サルがウサギに頼んでいる。「いつまで待たせるの？早く川で遊びたいよ」とウサギ。「もうちょっとだから。」立ち場(誤字)強いサルは気にもとめないようだった。
14①	主人公蛙： どうだ！おれ様のこの体！かっこういいだろう？(息を吐き出しながら)	うわっ…なんだこの息！くさい！！立ってられない…
②	主人公猿： 蛙から奪い返したのはいいけど追手が来たな 足の速いウサギだ！追いつかれてしまう！	ウサギ：逃げるな、覚悟！ヤァー！ 蛙：いまましいやつめ！おい あのサルをやっつけろ！
③	主人公猿： いやあ～助かった。ワシにはこの急流で泳ぐのは難しかったかの？助けてくれてありがとな	あなたの齡じゃこの急流で泳ぐのはムリでしょ？無茶しないでくださいよ。他のサルやウサギが泳げるからと
15①	主人公蛙： 美声のかえるがりサイタルを行いました。	聞くにたえない声に思わず ずっこけました。
②	主人公猿： 旅人のさるが因習の異なる人を知らずに怒らせけきたいされましたとさ	ならずもののサルが無法をはたらいたので うちまかせてやりました。
③	主人公兎： 靈験あらたかな妙薬を持つウサギが 病のサルをなおしてあげましたとさ。	西洋帰りのウサギが おいら(サル)の病をなおしてくれるとは！ ありがたやありがたや
16①	主人公兎： うさぎくんが、天気の良い日に散歩していると、いきなりカエルくんが飛び出てきて、驚かせました。うさぎくんはびっくりして、ひっくり返ってしまいました。	カエルくんはいたずらっこです。今日も誰かにイタズラしようとしていると、うさぎくんが向こうから歩いてきました。カエルくんはずっと木の陰に隠れていて、うさぎくんが木のそばに来たときに、急に飛び出て驚かせました。すると びっくりしたうさぎくんは ひっくり返ってしまいました。
②	主人公蛙： カエルくんが広場に行くとき、おサルくんとうさぎくんが木の枝でチャンバラごっこをしていました。一緒に遊びたくなったカエルくんは「オーイ、ぼくも入れておくれよ」と声を2匹にかけました。	ウサギくんとお猿くんが広場で木の枝を持って、チャンバラごっこをしていると、カエルくんが後からやって来て、「オーイ、ぼくも入れておくれよ」と声をかけてきたので、仲間に入れてあげました。
③	主人公兎(川の中の)： ウサギくん達は温泉の川を見つけました。皆、裸になって泳ぎ始めました。お猿さんの中には、体を洗いあう者も出る始末。ウサギくん友達がお湯を猿の背中にかけてあげたりもしています。皆で楽しく遊びました。	ウサギと猿達、全部で8匹は、温泉の川を見つけました。一匹のサルが裸になって泳ぎ始めると、皆、裸になって泳ぎ始めました。猿の中には体を洗い始める者もいる始末。ウサギの一匹が猿の背中にお湯をかけたりもしています。皆で楽しく遊びました。
17①	主人公兎： 放送動物園は永久に武力を放棄するという提案をしたら 暴力で葬られた。ひどい話だ。	会議でぐだぐだ長話しやがって、えいっ投げてしまえ、
②	動物会議で正直に意見を言ったら、うさぎの太郎からひどい攻撃を受けた。まったく災難だ…	こいつはひどいやつだ。動物会議で議長にさからって意見するなどは…。こらしめてやる。
③	主人公猿： 餌をとつたりの「仕事」も大切だけど、やっぱりこうやってくつろぐのはいいねえ。	ご苦労さん ゆっくり休んでくださいな。
18①	主人公蛙： かえる君は、しもうが非常に強く今までまけたことがありません。今日も勝ちました。	うさどんは、かえる君にいつも負けています。今日もまた負けてしまいました。
②	主人公兎： いつもすもうに負けているうさどんは、かえる君に言われて、きーべいを”いじめ”に行きました。	きーべいは、何故うさどんが竹の葉で、何故ぶたれるのかわかりません。でも今はにげるしかありませんでした。
③	主人公兎： この前は、かえる君に言われてきーべいをいじめていたうさどんですが、ほんとうは”きーべい”を助けにいきました。	”きーべい”はほんとうは”うさどん”いじわるしていないのがわかり、大変良いとあらためて思いました。
19①	主人公蛙：「私は歌がうまいのだ。うさぎさん、聴かせてあげるよ。」と言って、かん高い声で歌っている。	「何てへたくそな歌なんだ。」と言って、笑いころげている。
②	主人公兎：「さるさん、よくも私をだましたわね」と言って、さるに仕返しをしようと、笹？を持って追いかけている。	「うさぎさん、だまされる方がわるいのだよ、追いつくものならおいかけてみな！」と言って、余裕を持って逃げている。<見物側の話し：蛙>「うさぎさん、追いかけても無駄だよ」

③	主人公兎：「さるのおじいさん、背中を流しましょうか」	「背中にかゆい所があるから、もう少しかいてからにしてくれ」
20①	主人公蛙：うさぎにジョークを言って受けて(誤字?) ドヤ顔になっている	かえる君のジョークがおもしろいので笑こけて見せた。
②	主人公猿：「谷の方に白い花が咲いているから見に行こう」とうさぎ君をさそった。	さる君にさそわれるのがうれしかったので喜んでついて行った
③	主人公落ちそうな兎：後ろ向きに川の中に飛び込んで見よう。(誤字)	早くこっちに来て！一緒に遊ぼうよ。
21①	主人公兎：昔、昔、高山寺というお寺の近くにうさぎとかえる(巨大)がすんでいました。ある日、話し合い、すもうをとるようになりました。うさぎはゆだんしていたためまけてしまいました。	昔、昔 高山寺というお寺の近くにうさぎとかえる(巨大)がすんでいました。ある日話し合いをして、すもうをとるようになりました。かえる(巨大)は一生懸命やっかかりました。
②	主人公猿：昔、昔高山寺というお寺の近くにさるとうさぎとかエル(巨大)がすんでいました。ある日、かけ足をするようになりました。さるはうしろをみつつも一生懸命走り一番です。かえるは最合(誤字?)です。	昔、昔 高山寺というお寺の近くにさるとうさぎとかえる(巨大)がすんでいました。ある日かけ足をするようになりました。かえるは、走る気がないのでさるとうさぎの走るのをみえています。
③	主人公兎：昔、昔あるところにさるの集団とうさぎの集団のすんでいるところがありました。仲よくしていました。さるの背中を洗うのにうさぎは水をかけてやりました。	昔、昔、あるところにさるの集団とうさぎの集団のすんでいるところがありました。仲よくしていました。背中がかゆかったさるは、うさぎに水をかけてもらいました。
22①	主人公兎：かえる君、君が殿さまだって！！「アハツハハ」お腹がちぎれる程おかしいよ。そんなおもしろい事を言う君は、ぼくから見たら殿様がエルだよ。	「うさぎさん、お相撲を取ろうよ。」「カエル君、いいよ、しかし勝ったら僕の家来になるのだよ」「うさぎさん、いいよ、じゃ、ハキョイ残った(誤字?)。」「エイヤー、ういさぎさん、まいったか！！」「カエル君、負けた負けだよ！！」
②	「まてー、おさるさんー、ぼくの麦わら帽子を帰せー」「返してほしければ取っ手みなー、うさぎ君」「コラー、待てー、かえる君見てないで手伝ってくれよ」「どうしたらいいの、うさぎさん」	「そら逃げろ、うさぎさん、なぜ追ってくるのだい！！」「僕の麦わら帽子を取ったじゃないか」「この麦わら帽子は僕のものだよ。かえる君だって知っているよ！！」「僕は(カエル)は麦わら帽子がだれのだか知らないよ！！」
③	主人公兎：「猿君背中がかゆいのかい」「川で泳いでいたら背中をたたいた者がいて痛いのだよ」「そうなんだ。水を飲みなよ！！痛いのがおさまるよ」「ありがとう」	「背中が痛いよ！！痛いよう！！誰だ、僕の背中をぶつたのは？見つけたらお返しをするぞ！！」「こんなに人がいたら誰だかわからないよ」「しかしそれじボクノ気持ちがおさまらない」
23①	主人公蛙：うさぎと相撲をとった 投げ飛ばしてやった	カエルと相撲をとった 勝てると思っていたけど負けてしまった
②	主人公兎：猿がお餅を取って走って逃げようとしていた。早速追いかけた。追いつくだろう。	うまくお餅を取れたと思ったけど、うさぎが追っかけてきた。やばいなあ。
③	主人公兎：背中を痛めたお猿さんの介抱をしてあげよう早く治るといいな。	背中が痛い。何とかしてくれ！
24①	主人公兎：いや、わざと負けてやるさ。ハハ。それにしてもでかいかえるだな。何を食べてるんだろ。	なんだ弱虫！兎なんて大したことないな。やっぱり俺様は強いんだな。
②	主人公猿：何を怒ってるんだよ！おれだって旨いものを食べたかっただけサ	皆で分けて食べようと思っていたのになんで勝手に多くたべるんだ？お前なんかあっちへ行け！
③	主人公水の中の泳いでる猿：「なんだ？あの兎は溺れかけてるじゃないか？おーい 待ってる、今助けに行から！皆んなも手伝ってくれ！みんな呑気ダナ。」	ア！ダメダ、エ、お猿さん助けてー！
25①	主人公蛙：俺は強くて偉いんだぞー、誰でも向かって来い	大体いつもいばっていて生意気なやつだから、いつか打ちのめしてやりたいと思っていた。好機到来と思ってとびかかったのに、どうも相手の方が強すぎた。見事に投げ出されてしまった。畜生ー！
②	主人公兎：強い蛙親分の前で良いところを見せる機会到来 ずるがこしい猿めがいたので追いかけて打ちかかろうとしたら、俺の勢いに負けて猿の奴 親分の歌を見ながら逃げ出した。	それ程強くないうさぎの奴が側に強い蛙親分がいると かつこう良いところをむせようとして、虎の威でなくカエルの威を借りて俺のことを追いかけてまわすんだ

③	主人公：猿の奴いつもずるがしくていやな奴と思っていたが俺たち兎が水に落ちておぼれそうになったらどびこんで助けに来てくれた。これからはもっと猿を立ててサービスをしなくては・・・。	蛙の親分の前では強そうにしていた兎の奴、川に落ちたら泳げないものだからアップアップして助けを求めていた。仕方ないからとどびこんで助けに行行ってやった。俺達猿様の度量をかんじたか、飲み水のサービスまでするようになった。
26①	主人公蛙：高山寺で山に住む動物仲間で年一回すもう大会を開いているが、今年は年末の宿敵にうさぎを負かし優勝した。大変ゆかいである。	幕下のかえるときに負けるとは寄る年には勝てない。今後は若手育成に努め(誤字?)ばならない
②	主人公兎：猿のやつがすもう大会で私がかえるに負けたのを馬鹿にしてからかったので、腹が立ち、竿を持って追いかけた。	長年、相撲が強いとどまんしていたうさぎのやつが、かえるに負けたので、ザマミローとからかったら、大変、竿を持ち追いかけて来た。
③	主人公兎：自分(うさぎ)もこれまであまり力を過信して、人にいばっていたと反省している。	うさぎも年を取り、反省している様
27①	主人公蛙：「この花は私が丹精込めて育てた花ですよ。無段(誤字?)でとろうとは、ふとどきもの！」	「あっ！これは失礼した。申し訳ありません・・・」
②	主人公蛙：「あっ！猿の奴にとられてしまった。つかまえてくれ、早く早く」	兎「まてまて猿。この花はカエルさんが育てたもの。返せ返せ、まてまて・・・」
③	主人公溺れているような兎：「川に逃げて駄目だぞ。その気になれば、"ウサギ"もおよげるのだ。待て待て・・・」	サル「返す、返す、悪かった。ゆるして下れ。」
28①	主人公蛙：おれが弱いと思って、馬鹿にするな！命をかけてやれば強いぞ！	まいった！
②	主人公：うさぎだと思って馬鹿にするな！本気を出せば猿なんてこわくないぞ！	本気で来られるとまずいぞ！
③	主人公兎：おぼれているサルを助けているとてもやさしいうさぎ達。	(猿)うさぎさん有がとう助かった。
29①	なし	ごうまん蛙君手加減しろよ！
②	なし	俺も仲間に入れてくれよ！
③	猿君皮をむかれた感じはどう、海水でないから痛くないね！	なし
30①	主人公蛙：私はウサギを投げ飛ばした。	私はカエルに投げられた
②	主人公兎：私はいたずらにした猿を追いかけた	私はウサギに追いかけられた
③	私は年をとった猿を助けてあげた	私はウサギに助けられた。

一般成人女性のお話の逐語

図版	主人公側の話し	相手側の話し
31 ①	主人公蛙：蛙「ウサギ君、ウサギ君、面白い話があるんだ。」 「僕の友人が変わったモノを買ってきたんだ。そのモノをポンタを押して声を発すると僕に話しかけてくれるオモチャだったんだよ」 「オモチャが話すんだよ」 「面白いからウサギ君もやってみて」	兎「なんだい？」  「オモチャが話すのかい？面白そうだね」  「カエル君、わかったよ」
②	主人公兎：兎「まて～」 「僕に勝てると思っているのか？」	猿「ヤダ～よ」 「勝って見せるさ！」 蛙「サル君頑張れ！ウサギ君も頑張れ！」
③	主人公猿：猿の弟「兄さん、気持ちいいかい？」	猿の兄「ああ、気持ちいいよ！」兎「背、流しますよ！」猿の兄「ああ頼むよウサギ君」
32 ①	ある日兎が道を歩いていると、友人の蛙を見つけた。兎は蛙に近づこうと小走りに進んで行った。すると、蛙の近くにあった小石につまづき、後ろ向きに転んでしまった。 主人公：兎	ある日蛙が散歩をしていると、向こうから友人の兎が来るのが見えた。蛙は兎を待って歩くのを止め、今日は何の話しようか考えていた。兎はあっという間にこちらへ来たが、小石を見落とし転んでしまった。蛙は日頃身軽な兎が転んだのを見てとても驚いた。
②	ある日兎は、友人の蛙が猿にいじめられているのを見かけた。兎は怒りに任せ、そばに落ちていた枝葉を振り上げながら猿を追いかけて回した。 主人公：兎	ある日猿は、日頃から気に食わない蛙にいちやもんをつけ楽しんでた。ところが、蛙の友人である兎が枝葉を振り上げ凄いい勢いで追いかけて来たので、猿は慌てて逃げ出した。

③	ある日兎は、仲間たちと川へ遊びに出掛け た。しかし、そこには先に猿のグループが来 ていた。彼らに「自分たちも川に入って良い か」と訊くと、快く承諾してくれたため、仲良く 水浴びを楽しんだ。主人公兎	ある日猿たちは、川遊びに出かけた。そこ には誰もいなかったが、しばらくすると、兎 たちが来た。「自分たちも川に入って良い か」と訊かれた猿たちは、快く頷いた。そし て、兎たちと共に川での水浴びを楽しんだ。
33 ①	主人公蛙： ここから先は行かせない！自分 でやったあ悪事を皆にあやまれ！	見つかった！ちきしょー！
②	主人公兎： あいつから金をうばってやろう！	やばい！こっちに来る。何とかして逃げ なければ！
③	主人公兎： お背中流しましょうか？	ああ～、きもち良いね。
34 ①	主人公兎： 自分が出来る芸をカエルに ひろうしている。	その芸を見たカエルは、すごいとおどろいて いる。
②	主人公兎： 自分とサルが遊んでいる。	2人が遊んでいる様子を見て、自分もまぜて ほしい様子。
③	主人公兎： この川で働いていて、サル (お客さん)の背中を流している。	この川を利用してあそんでいるお客さん達 の様子。
35 ①	主人公蛙： 相手のウサギと相撲ごっこして いる。主人公のカエルは勝負に勝ったようだ。	相手のカエルと相撲ごっこをしている。 ウサギは負けたようだ。
②	主人公蛙： ウサギは悪事をはたらいたサル に罪を与えようとしている。それを見たカ エルはあせってウサギを止めようとする。 本当はサルは、悪事などはたらいていなか ったことを知っているからだ。	ウサギは真実を知るよしもなく、サルに罪 を下そうとしている。カエルは視界に入って いないようだった。
③	主人公猿： サルはおぼれているウサギを 助けようとしている。	しやくを持ったウサギはサルをサポートして いる。
36 ①	いつもよく見るカエルくんを心の中でばかに していたウサギくんだった。ある日カエルくん は力もちだときき、ぼくも負けなぞ、と、す もうを申し込む。そして対戦。カエルくんの 圧勝であった。ウサギさんはごろんとたおさ れ、カエルくんを見て、今まですまなかった とあやまり、走って逃げて行った。	ウサギくんに会ういつも冷たいように感じ ていたカエルくん。実はとても力もちで、地域 のカエルずもうで1位にもなった。そんなある 日、とつぜんウサギくんに対戦を申し込まれ、 仲よくなりたいたいと思い、承諾した。もちろん 圧勝したのだが、ウサギくんを倒してしまった。 きれいな毛を汚したことを謝ろうとしたら、逆 にウサギくんに謝られ、走って去られた。カ エルくんは1人残され状況がつかめない様子 であった。
②	主人公蛙： 以前から、庭があらされて困っ ていたカエルくんはウサギさんに相談した。 ウサギさんは「ぼくがなんとかしよう。カエル くんはいつもどおり今日は寝ていて。」と言っ てくれた。心配だが、ウサギさんにまかせる ことにし、夜になったのでねた。すると、外で 大きな音がした。あわてておきて外に出て みると、おサルが自分の庭の枝を持って走 っている。「あれはボクのお気に入りの木の 枝だ！」そう叫ぶと、ウサギさんは、別の庭 の枝を持って走っていった。カエルくんはウサ ギさんも共犯ではないかとうたがった。	カエルくんに相談を受けたウサギさんは、カ エルくんはおくびょうだから、自分じゃつかま えられないだろうと考え、自分1人でつかめ ることにした。夜、カエルくんの庭でかくれて いるとおサルが来た。「お前か！」と叫ぶと おサルはびっくりして手にもっていた枝々を おとした。あわててひろい、走って逃げたた め、残っていた長い枝をとっさに持っておサル をおいかけた。カエルくんが何か言っていた が、おサルを追うのにムチュウできこえな かった。
③	主人公猿： ここはじーちゃんのじーちゃんか らずっとぼくらのいこいの場だったのに、いつ のまにかウサギたちが入ってきてしまった。 ジャマはしてこないが、いやに気をつけて くれる。今日もじーちゃんの背中を流している と、水をくんでくれたやつがいた。少しおびえ	おサルさん一家は、とてもやさしい。私たち家 族が家をおわれて、出てきてこの近くに住み はじめた。それがおサルさんのなわばりだっ たが、追い出されないため、いごちがよくな ってしまった。「いつも感謝の気持ちを忘れな い」という家訓を守るため、ドキドキしながら

	ながら近づいてきたのだが、また気になる。 あした、おもいきってきいてみよう。	もおサルさんによくしていこうと思う。ポクは今日も1番えらいおサルさんに仕える人を手伝った。ドキドキしたけど上手くできたかな。あしたはおみやげをもっていこう。ぼくたちの毛であんだあったかマフラー。気に入ってもらえるといいな。
37 ①	主人公蛙： カエルくんはとても力持ちだけどとてもおくびょうな性格の子。だからあまり周りとはとけこむことが出来ない。うさぎくんとは大の仲よめで、一番の理解者なのにうさぎくんがいきなりカエルくんを襲いかかってきました。びっくりしたカエルくんはおもわずとくいの力自慢でうさぎくんを1本投げました。1本投げされたうさぎくんはあわててどっかに逃げていきました。するとどうでしょうカエルくんの周りにお友達がたくさん集まってきました。カエルくんはお友達とたのしく過ごしました。	うさぎくんは気が強くてとても仲間想いの男の子。カエルくんは一番の親友。ある日うさぎくんはカエルくんの性格のせいで友達が出来ないと相談されました。そこでうさぎくんはひらめきました。自分が悪者になって帰るくんにやられればカエルくんにも友達が増えるのではないかと。そう思ったうさぎくんはすぐカエルくんを襲いかかりました。びっくりしたカエルくんはあつと言う間にうさぎさんを投げとばしました。そしたら思ったとおりカエルくんの周りにはたくさんの友達ができました。しかし、うさぎくんは凶暴な子だと勘違いされ、一人になってしまいました。
②	主人公兎： うさぎくんは気の強い心の優しい男の子。あるとき池の周りを散歩していたらいじめっこのおさるくんがおくびょうなカエルくんをいじめて楽しんでいました。それを見たうさぎくんはおこって近くにあったススキでおさるくんを思いきりたたきました。「弱いものいじめしかできないなんて最低だ！」そう言いながらうさぎくんはサルくんにそう言いながら追いかけます。「ひいー！ごめんなさい！！」とおサルくんはどこかに行ってしまう。「ありがとう」カエルくんはうさぎくんにお礼を言いました。この時からカエルくんとうさぎくんは大の仲よしになりました。	おさるくんはとてもいじめっ子、弱い子をいじめてしまいました。楽しむ男の子、今日はおくびょうものカエル君を「いじめてたのしんでいました。そこにうさぎくんがあらわれて「弱者いじめしか出来ないなんて最低だ！」とおさるくんをおもいきりたたきました。おさるくんはその場から走って逃げましたが、ウサギくんは追いかけてきます。おさるくんは弱いものいじめがどれほどつらいものかをはじめて知り、いじめをやめようと決心しました。
③	主人公兎： うさぎくんは気が強くてとても優しい男の子。あるときいじめっ子だったおさるくんの友達が川で溺れていてさあ大変、あわてて川に飛びこもうとしたけど、うさぎくんは溺げ(誤字)ません。あわてて誰か呼ぼうとしたら、いじめっ子だったおさるくんが他の友達を連れておさるくんを救出しました。	おさるくんは気が強くていじめっ子でしたがうさぎさんにこてんぱんにされてから いじめをしない男の子になりました。そんなある日友達と川に遊びに行こうとしたら誰かが溺れているのを見て、あわてて川に向かいました。皮に到着すると自分の友達が溺れて うさぎくんが何かをお友達にさしのべていました。おさるくんは思い切って川に飛び込みなんとかおさるくんの友達を助けることができました。
38 ①	主人公兎： あーテレビおもしろかったなー！まだ、カメさんこないから、もう少し笑ってしよう！！	(カエル)おい、カメさんがきているゾ！！お前こされるゾ！！
②	主人公兎： 待てー！！悪者めー！！	(カエル)あっ！！ウサギさんが悪い奴を追いかけているぞ！！ウサギさんは、やっぱりすばらしい！！
③	主人公兎： 今は、つらいけど、これから、どんどん努力して、このサル達をぬいてやるゾ！！	(サル)こいつら、ゆうこときいてくれる。ずーと、オレ達の言うことをきいてくれるといいな！もっと、いじわるしてやろう
39 ①	主人公：蛙： うさぎとどっちがかっこよくポーズを決められるか対決している 自分のポーズがうまく決まりで顔でポーズのまま立っている状態。	かえるはプライドが高いから、自分が少し負けたと演技している でも本当はあまり表には出さないが、うさぎの方が頭が良くてかえるを見下している部分が少しある。

②	主人公猿： さるがうさぎの本当の姿を知っていて、それを仲の良い動物に話していたら、それをうさぎとかえるに聞こえてしまい、怒ってさるを追いかけるうさぎとあ然としているかえる	どこからかさるの聲が聞こえ、聞かれたくなかったかえるに聞こえてしまい怒った、かえるには秘宝だと言っていたのに聞かれてしまって怒った、約束を守らなかったさるを怒って追いかけている さるの話聞いて今までうさぎはそんな風に自分(かえる)を見ていたのか、とショックとともに今までのプライドが高かった自分が恥ずかしくて、あ然としている。
③	主人公兎： うさぎの国の案内人。さる2匹が迷いこみ、とりあえずお水をとひしゃくにくみもってきて、あげようとしている様子。	さるの座っている方が長く歩き疲れて背中をさすられている。するとうさぎの国の案内人のうさぎがひしゃくにお水をくんできてくれて助かったと背中をさすってあげているさるも疲れてはいるが、仕方なくさすってあげている。
40 ①	主人公蛙： 「どうだ、まいったか！」ボクは案外強いんだ！	「わーまいった！」(わざとまけてあげたんだ！)
②	主人公兎： 「おーい、まってくれー キミの探してた 杖になるササ持ってきたよ！」	「あ、ありがとう。助かったよ！！この短い杖じゃ杖にならなくてね。」
③	主人公泳いでいる兎： 「おーい、もう少しだ！ここまでおいでー」	「つらいなあー。よーしあと少しがんばるぞー！」
41 ①	主人公蛙： いつもうさぎさんは、ぴよんぴよん楽しそうで、自分はいつも地面に近い。と、ある日、すもうをとる事になりました。運良く、うさぎさんをなげる事が出来ました。ちょっと、すっきりしました。	うさぎさんは、ぴよんぴよん毎日楽しく暮らしていました。ある日、カエルさんにすもうにさわれました。あ。あつというまに飛ばされてびっくり。「小さくても強いだね」と新しい世界が開けました。
②	主人公兎： うさぎさんは、カエルさんと仲良くしていたのに いたずら好きのおさるさんがカエルさんを杖でつついてきたので、追っ払いました。	おさるさんは、皆と仲良くしたかったけど方法がわからなかったのも、そこにあった杖でまたま近くにいたカエルさんをつついてしまったら、うさぎさんに追いかけられました。「ごめんなさ〜い」
③	主人公兎： うさぎたちで温泉に入っていました。おさるさんがやってきて、のみ取りを始めたので背中を流してあげました。	歩いていたら、うさぎさん達が温泉に楽しそうに入っていたので、仲間に入れてもらおうと入りました。のみ取りしていたら、うさぎさんが流してくれました。「ありがとー。」
42 ①	主蛙： ウサギがボクにいたずらを仕掛けてきたので やり返してやったらひっくり返った	ちょっとちょっかいだけだったけどカエルやつはやり返してきてひっくり返ってしまった
②	主兎： こないた(誤)いたずらしてきたサルがきた！！ 仕返しだー！！ 帽を持っておいかけてやる！！	うわっ！ ウサギにおいかけられた…… なんでだろう。
③	主兎： サルをおいかけ回していたら 棒でたたいた背中がいたいみたいで弱ってしまった……。あーあ、やりすぎたな。水かけて冷やしてやろう……	今さらやさしくしてくれてもおそいよ！！見えないうさそは もうたくさん！！ オレの仲間がウサギの仲間を川につきおとしている！よし！仕返しだ！よくやった！
43 ①	主蛙： 散歩をしていると、うさぎが駆け回っていた。「そうなの、何しているの？」と問うと「ノミがかゆくて！」とうさぎがさげんだ。「ノミくらいとってあげるよ」と、ノミをとってたべてあげた。	背中にノミがとんできた。かゆくてしかたないので、転げて取ろうともがいていた。かえるがやってきて、助けてくれた。 Thanks!
②	主兎： 猿とうさぎと蛙は大の仲良し。猿は白くて小さいうさぎや、かえるが大好き。今日はおにごっこ。うさぎはかえるが鬼なので、つかまらないと思った。	かえるが一番おそいので、今日は鬼で終わると思った。
③	主猿： 今日たんじょう日。背中をあらってもらって気持ちよい。皆が楽しんでくれて、よかった。	仲間でのしめるたんじょう日は皆大好き

44 ①	主蛙：うさぎにけしかけられて、参加するだけでも意味があると高山寺まで。競争に参加したが……。体の小さいぼくでも、体(誤)まづここまで来たら、うさぎより早く着くことができた！！	身体能力がまさっている私は 少々ゆだんして、お昼寝していたら 小物のかえるより到着するのがおくれてしまった～！！
②	主：あの山の向こうの素敵な所に、さるさんが案内してくれる事に…。楽しみだ。さるさん、まって…。ちょっと歩くのが早すぎるよーフフフ。	うさぎさん、大丈夫かな？ついて来れるかな？
③	主兎：体調の悪いさるの手当てをしているサルの手助。お水いつ、かけてあげれば良いのかな？さるさん大丈夫なかな？	助手…。うーん、どうかな？毛なみは…。？色は？ どんな感じと、集中している。
45 ①	主蛙：池から飛びでてきたら、うさぎが驚いてびっくりかえっていた。	のんびりしていたら、急にかえるが池から飛びでてきておどろいた。
②	主蛙：猿があらわれたら、びっくりかえったうさぎが急に起きだし、おいかけはじめた。私(かえる)は、それをとめることができなかった。	急にかえるがでてきておどろいたが、猿があらわれたの いたら、 ものか！」と猿を一生けんめい追いかけた。それをかえるが、口をあげボウ然とした様子でみていた。
③	主後ろから飛び込む兎：猿を夢中になって追いかけていたら、池のそばの岩場まで来てしまった。自分の背側から、仲間のこえが聞こえる。水の中で猿に助けをもとめるうさぎ、猿の背中をながし、こびを売り、助けてもらおうとたくらむうさぎ、みんな必死で助かりたいと思っているんだな。それを感じて声もでないよ。	水の中におちてしまったので、猿に助けを求めるうさぎがいる。猿の背中を流して、キゲンをとって、助けてもらった方がかんたんだ。また、あらたに一匹、猿をおいかけて、この池にきたうさぎがいる。池におちなければいいのだが……。
46 ①	主蛙：「驚くだろうと思ったのに、どうしてそんなに笑っているんだろう？」	「せつかく驚いたフリをしてあげてるんだから もっと笑ってよ」
②	主蛙：「なんで猿君を追いかけるの」	ウサギ「遊んでるだけだよ」 サル「やめてくれー！」
③	主水の中の兎：「助けてー」「さっきははじめでごめんね」	「すぐに助けるから、頑張ってるね」
47 ①	主兎：油断してしまった！今度はボクの勝ちだゾ！これまで負けたことなかったのになあ。	いつもキミにバカにされてたけど、ほら、ボクだって強いんだよ！はじめて勝てた！
②	主兎：他人のものを盗んじゃダメだよ！誰も見てないと思ってたのかい？ボクと友だちがちゃんと見てたんだよ。	あーあ、もう少しだったのに見つかっちゃった！ やっぱ悪いことはできないな。もうやめよう。
③	主猿：流れちゃったんだね。よしよし、休んでいようよ。ちょっと長く泳いだからね。急に流れが早くなったから、水からあがったほうがいいね。	ボクも手伝うよ。ほかの子もあわてるよ！みんなにも岸へ行くように云ったほうがいいな。
48 ①	主蛙：うさぎさんの言いだしですもうを取ったが、やはり私の方が強いではないか。それみることか。	また負けてしまった。トホホ。
②	主蛙：おいおい、二人ともやめなよ。「仲良いなあ」本音	うさぎ「またいたずらして おさるの〇〇くん、 まで…」
③	主猿：子どもの介護がありがたいなあ。	うさぎ この親子は仲良くてうらやましい……。
49 ①	主兎：私はカエルの話がおもしろくておおわらいてしまいました	うさぎはおれの話がおもしろくてこけてしまった。
②	主兎：サン(誤字?)がわたしをからかったのでおいかけました(誤)。	少しうさぎをからかいすぎたかな。
③	おさるさん私達と仲よく暮らしましょう。	なし



50 ①	主兎：蛙君と遊ぶのは楽しいなあ。今日は相撲。投げとがされても楽しい。蛙君も得意そうであれしろう。	うさぎ君はぼくより強いはずだけど、よく転がって喜んでる。まあいいか。投げ(誤)とばすのはとにかく気持ちやすかつとするから。
②	主猿：つかまえられるものならつかまえてごらん。ほら こっちだよ。からかってやれ！	猿君を追いかけよう。蛙は必死！兎は遊び半分で口元は笑っている。
③	主後ろから飛び込む兎：鼻をつまんで川へ飛び込もう。流れは早そう(誤)だけど、みんなも泳いでいるから、多分大丈夫。「えいっ！」	仲間の兎が一羽だけ気づいて「おーい、こっだよ！飛び込んでおいでよー」と手を振っている。あとの動物は、全く無関心。
51 ①	主今は見えない誰か：今日は9月9日(新歴)ゾロ目の日。毎月ゾロ目の日には、高山寺の寺社内に住む動物達に供物の布施が行われるならわしがある。仏の教えにより総ての生きるものどもを救い、また、我等も精進して極楽浄土に参ること必然。それまでは現世での楽しみも事の他精進(!?)するのが勤め。	(うさぎ)イヤ～ア、今日はいいい日だなあ♡ めずらしく私の腹がくちくなる程・頂いたぞよ。(かえる)うさぎ殿は腹がふくれるものが食べたのだな。羨ましい事ですわ。ワレにはヒトの食べ物の中で食べるものが無い。せめて蝗の佃煮でもあればノウ。まあ、ヒトと云う生き物の大概は、ワレらが何を糧として生きているのか見ておらぬからノウ。それでも礼だけはつくして・・・と ドオレ。うさぎ殿、いかに喜ばしげに笑うてやろうかノウ。腹が減ったノウ。
②	主蛙：そお言えば、うさぎ殿、さき程の供物の中に酒(すす)があったかノウ。お前様さんとやったではないか？すすきの種で尻の赤い(もみじ)お猿を追うても腹の中に入れてしまった酒(すす)は返ってほこん。オオ・・・お猿！！ワレの酒まで！！まあ良いか。ワレは秋の七草にきた羽虫でも頂くことにするかノウ。仲秋節も昨日までであったから大池に浮かべた舟。ヒトの飲む酒の香に虫達が寄ってきてい。だからノウ。ケケケ。	(兎)この調子者の猿め！！俺に「こっだよ！飛び込んでおいでよー」と手を振っても酒もかすめたな！！来年の米が採れぬようになったらお前のせいだ！！ (猿)ごめんなさ～い！私共は悪知恵の働く者とヒトに言われているのですが、少しヒトの真似をしてみたくなただけです。月に住んでもちつき(望月)しておられるうさぎ殿。私は木の上に登って望月(もちつき)をながめるしかないのです。私はお月見の下されものをさき程頂き、月にも昇れる(仏の世界)心地致します。
③	主川の水：ここ数日は天の機嫌も良い事だ。ここ梅尾山の梅尾園の茶の葉も美味♡美味♡うさぎと猿がめずらしも、仲ようしている。年老いた母猿を子等が連れてきてはるのか。感心やなあ♡月のうさぎよ。今日は、杵の変わりに柄杓を持って・・・ホォ！面白い事をしてはる。そお言えば昨日、猿を追って「酒を返せ。」と言ってはった。ならば、願いをかなえて・・・to。言いたいところやが・・・そんな力は無いのでな。野のうさぎ共も楽しそうだ・・・	(猿)月のうさぎ殿、酷いではないか。ヒトの菓子(月のうさぎ)を加えて脱兎して来たうさぎ殿をみて、母者が先日の「酒の罪ほろぼし」と思うて、ヒトに柿の実を投げ、逃がしたことをうらまれ・・・ヒトの礼は廁の中身を投げ折り母者が(泣)・・・母者が・・・ (うさぎ)母猿。助かったぞ。それにしてもヒトのものは臭い(悪しき)ものじゃ。よい香りのする酒の出来る水で、汚れ(けがれ)を流そう。野の子ら(兎・猿)も汚れ(けがれ)を落として
	アレ、この臭いは・・・ハハ・・・そうか、そうか。	いるのか。時を経れば子らも月(仏)の世界へ来よう。その時にはたんと餅(望)をふるまうぞ。月の餅は美味な上に餅をつかぬは朔日(ついたち)だけだからな。～Ma～残念なのは、私のついた餅は我は食べられない事だが、朔日に地上に降りて調査がてら・・・
52 ①	主蛙：なまいきそうな怪しいウサギが村にやってきたので、だまされた振りをして相撲を取った。ウサギは見かけより弱く私の上手投げでコロリと投げられた。やっぱり私は強い！！	山に食べるものがなくなったので、村に行きって食べものを盗ろうと下りていった。まぬけな顔の弱そうなカエルがいたので、食物をかけて相撲を取ることにした。しかし、思いのほかカエルは強く負けてしまった。
②	主兎：今日は十五夜なので、お月見しようとして仲間と準備をした。ところが、サルは全	月見の準備を手伝おうと行ってみたら美味そうな団子が置いてあったので、「月より団子」

	く準備をしないどころか、団子を食べてしまったとカエルが訴えてしたので、サルをこらしめようと皆で追いかけてまわした。	といただいた。カエルにみつかってしまい、皆に追いかけれ、結局ひどいめにあった。
③	主猿： 冬がそろそろよってくるので村の仲間と冬ごもりの準備をした。私は最年長なので経験豊富なため、皆にあれこれ知恵を提供しとても感謝された。 仕事が終わって汗をかいたので、皆で河に行って沐浴をした。若い者たちははしゃいで泳ぐものもいたが年老いた私を気付って(誤字)背中をながしてくれるものもいた。この冬もなんとか乗り切れるだろう。	冬ごもりのしたくのため村中で大忙しだった。長老のサルじいさんがいろいろ教えてくれたが、少々考えが古くて若い者が困る場面もあったが、なんとかじいさんは気嫌よくすごしてくれた。仕事が終わって疲れを取るため沐浴をしたが、元気な若い者たちは飛び込むやら泳ぐやら大騒ぎ。私たち中年者は腰の痛いじいさんの背中を流すやらシップをするやら、又々忙しかった。
53 ①	主兎： 私は走るの速いので、いつも近辺を歩き回っているだけのカエルを馬鹿にしていた。ところがある日、カエルが「相撲をしよう」と言ってきたので、軽い気持ちで受けて立ったところ、何と、投げ飛ばされてしまった。カエルは大口を開けて笑うし、私はどうして良いかわからず、"万歳"のポーズのままである。	いつもいぼっているウサギに何とか挑戦してみたいと、筋トレに励んだところ、体力もつき自身ができる。相撲で勝負し、見事投げ飛ばすことができ、つい、嬉しくて大口を開けて笑ってやった。「どうだ!」という気分である。
②	主兎： カエルには負けてしまったが、「それならば」と奮起し、猿に挑戦することにした。素手では負けそうなので、竹をムチにして猿を追いかけたところ、猿は私に届かず逃が始めた。いつもいぼっている猿をこらしめたいが、このままうまくいだろうか。	カエルにやりこめられていたはずのウサギが追いかけて来る。「一体、俺に何のうらみがあるのだ。」逃げ回ってばかりではシャクだから、あそこで叫んでいるカエルを味方にして、何とかウサギをつかまえたいが、うまくいだろうか。
③	主兎： 追いかけて回した猿が背中にケガをして仲間に手当をしてもらっている。猿と仲良く遊んでいるし、そろそろ猿にあやまって、水遊びの仲間に入れてもらおうか。「お水を一杯、どうぞ。」差し出したヒシャク、受け取ってくれるかな。」心配だ。	仲間の手当で、ようやく傷も癒えてきて、ホッとしている猿。ウサギが仲直りをしようと水を差し出してきたが、そんなに素直に受けられない。一たん、あいつを水の中に沈めてやってから、許してやることにしよう。「どうやって返事をするかな。」
54 ①	主兎： かえるさんとすもうをとしました。「負けてしまって残念。」	「うさぎさんどうしたのかな元気に向かってきたのにな。」
②	主兎： 秋の野原に集まってたくさんの動物が遊んでいました。猿君が、少し遠くに行こうと枝を持ってさそったので、自分(うさぎ)もいそぎ篋をもってお出かけしました。	栗がとれる頃だから皆で採りに行こうと呼びかけました。うさぎさんがすぐに一緒に来てくれました。たくさんとれるといいな。
③	主兎： 猿さん、さっきはさそってくれてありがとう。たくさん栗が採れたね。と、うさぎさんはひしゃくで背中を流してあげました。	良い気持ちだよ。うさぎさんありがとう。水浴でさっぱりしました。
55 ①	主兎： ウサギは今日、仲良し友達のカエルと相撲を取って遊びました。珍しいことにカエルから投げられてしまいました。	いつも負けていたカエルは、ウサギに勝ち「今日は調子が良いなあ」と喜びました。
②	主兎： ウサギとカエルが遊んでいるところに、一頭の猿が通りかかりました。ウサギ「お猿さん一緒に遊ぼう!」猿「ちょっと急いでいるので…」と去って行った。	猿「僕はカエルが苦手で、相撲も取ったことがない…」「ウサギさんから誘われたけど一目散に逃げたんだ」
③	主兎： 後日、カエルが苦手な相撲を取ったことがないと分かったウサギは、仲良く水遊びをしました。	追っかけられ恐いと思ったウサギさんが、実は優しいという事に気づき、仲良し友達になりました。
56 ①	主蛙： オレ様は誰より強いぞ。どんな風にもかかって来い。投げ飛ばしてやる。	あんなこと言ってるけれど、やってみなければわからない。挑戦してみよう。くそっ! やっぱダメか〜。

②	えーい待て待て！いたずら猿め。成敗してやる。かけっこなら私にかなうものはない。 待て～！ 主兎	おっと うさぎさんの追跡か。おもしろい。ここはひとつ遊んであげましょう。「や～い」こっちだよ～。
③	主兎： おいおいどうした。背中に怪我でもしたか。まずは川のお水で消毒だ。どの場所かしっかり見せて。	ありがとうございます。うさぎさん。川遊びの最中に岩にぶつけてしまったの。しみても我慢するから消毒お願いします。
57 ①	主蛙： 何回も相撲をとったけど、今度ははじめて買ったよ！	本当にずいぶん強くなったね。
②	主猿： やーい、かえるに負けるなんて、弱いうさぎだなあ！	うさぎ一何を言うんだ、いつもかえるをいじめていたくせに！ かえるーそうだよ 僕だってうさぎといっしょに相撲して力をつけてもらったんだ。
③	主背中から飛び込む兎： 大水で流されるよ、みんな岸が上がってがんばって岩に登って手をのばして、はやくはやく ②背中をすりむいたんだね、けがを水で洗って薬をつけよう	さる①さあ、僕の手につかまって、岩に登って ②もうだいじょうぶだよ、安心して